

アルジェリア国における地震災害に対する 国際緊急援助隊救助チーム及び医療チーム 事後評価調査報告書

平成16年5月
(2004年5月)

独立行政法人 国際協力機構
国際緊急援助隊事務局

緊

JR

04-04

はじめに

国際協力機構(JICA)は、技術協力事業とともに、海外で発生する大規模な自然災害やガス爆発などの人為的な災害に対して、被災国政府等から日本政府への援助要請に基づいて国際緊急援助隊の派遣や緊急援助物資の供与などの国際緊急援助事業を実施しています。

JICA国際緊急援助隊事務局では、現行の技術協力事業評価ガイドラインを参考に、1999年のトルコ及び台湾での地震災害、また、2000年3月のモザンビークでの洪水災害について試行的に国際緊急援助隊救助チーム及び医療チームに関する現地評価調査を実施し、2003年3月に「国際緊急援助隊評価ガイドラインSTOP the pain」を策定しました。

迅速性(Speed)、被災者ニーズへの対応(Target group)、活動の効率性(Operation)及び認知度(Presence)という国際緊急援助隊派遣事業独自の評価4項目(STOP)を用い、隊員自身による自己評価、当事務局による内部評価、そして外部有識者による外部評価という3段階による評価方法が同ガイドラインの特徴です。

本報告書は同ガイドラインに基づく初の評価報告書です。今後の国際緊急援助隊救助チーム及び医療チームのより効果・効率的な活動に向けての弛まぬ改善を進めるため、また、被災地で展開される日本の国際緊急援助隊の実際の姿を国民に報告する責務を果たすため、今般、本報告書を作成しました。

本報告書が、JICAの国際緊急援助体制の拡充及び改善のみならず、国内の人道緊急支援にかかわる他の組織やNGO等の団体の方々の今後の救援活動の参考となれば幸甚です。

2004年4月

独立行政法人 国際協力機構
国際緊急援助隊事務局
局長 木村 信雄

評価調査結果要約表

1. 案件の概要		
国名：アルジェリア民主人民共和国		案件名：アルジェリア国における地震災害に対する国際緊急援助隊救助チーム及び医療チーム
分野：緊急援助		援助形態：国際緊急援助隊救助/医療チーム
所轄部署：国際緊急援助隊事務局		協力金額（評価時点）：約222,296,000円
協力期間	(R/D)：	先方関係機関：
	(延長)：	日本側協力機関：
	(F/U)：	他の関連協力：
	(E/N)（無償）	
<p>1-1 協力の背景と概要</p> <p>アルジェリア民主人民共和国（以下「アルジェリア」と記す）において2003年5月21日19：44（日本時間22日03：44）、首都アルジェ東方50kmのブーメルデス県を震源にマグニチュード6.7、深さ約10kmの地震が発生し、アルジェ県、ブーメルデス県を中心に甚大な被害が生じた。</p> <p>アルジェリア政府は災害対策委員会を招集し、搜索救助活動を展開するとともに、我が国に対しても支援（救助チーム及び医療チーム）を要請した。</p> <p>1-2 協力内容</p> <p>(1) 上位目標 我が国とアルジェリア国との友好関係が維持・増進される。</p> <p>(2) プロジェクト目標 アルジェリア国地震災害における人的（肉体的・精神的）被害が軽減される。</p> <p>(3) 成果 (救助チーム) 1) 救助チームが迅速に現場に到着する。 2) 被災者のニーズに合った救援活動が展開される。 3) チームの救援活動が広報される。 (医療チーム) 1) チームが迅速に派遣される。 2) 被災者のニーズに合った救援活動が展開される。 3) チームの救援活動を通じ日本のプレゼンスが認められる。</p> <p>(4) 投入（評価時点） 日本側： 救助チーム人員 61名 救助用資機材 医療チーム人員 22名 医療用資機材、医薬品</p>		
2. 評価調査団の概要		
調査者	(担当分野：氏名 職位)	
	評価分析：芹田健太郎 神戸大学大学院教授 評価監理：坂田 英樹 JICA国際緊急援助隊事務局災害援助課課長代理	
調査期間	2004年1月10日～2004年1月18日	評価種類：事後評価

3. 評価結果の概要

3-1 実績の確認

JICA国際緊急援助隊事務局による情報整理のほか、外部有識者を団員に加えた現地評価調査を実施した。

3-2 評価結果の要約

(1) Speed (迅速性)

救助チームは外務省による派遣命令から24時間以内に出発すること、発災から72時間以内に救助活動を開始すること、また、医療チームでは派遣命令から48時間以内に本邦を出発することをひとつの迅速性の指標にしているが、今回の派遣ではこの指標は達成しており、チームの派遣は迅速であった。

(2) Target groups (被災者ニーズとの合致)

最も被害の大きいゼンムリ地区を活動サイトとし、被災民のニーズと合致していた。

(3) Operation (活動効率性)

救助チームについては地理的な制約、チーム規模を考慮すると能力以上の救援活動を実施したといえる。医療チームについては、1日平均200人以上の患者を診察し効率的に活動を行った。

(4) Presence (プレゼンス/認知度)

アルジェリア国行政側関係機関及びUN機関の関係者及び地域被災民の認知度も高く、プレゼンスは高かった。

3-3 効果発現に貢献した要因

(1) 計画内容に関すること

携行機材の整備、通信班の配置、救助チーム医療班の随伴、医師隊員の専門分野（災害医療・小児科が含まれていたこと）、女性医師の存在

(2) 実施プロセスに関すること

警備員等による警備、救助チーム医療班による医療チームサイト視察、通訳の確保、隊員間の適切な業務分担、医療チームのアナウンスボード

3-4 問題点及び問題を惹起した要因

(1) 計画内容に関すること

日-仏通訳の不在、医師隊員の専門性（皮膚科・眼科疾患等が含まれていなかったこと）

(2) 実施プロセスに関すること

現地災害対策本部Local Emergency Management Agency (LEMA) 及び国連現地活動調整センター(OSOCC) 等で収集した情報の隊員への共有が不徹底であったこと、患者データの統計作成、カルテの日本語記載

3-5 結論

救助チーム、医療チームともに効率的な活動を行い、被災民の人的被害を軽減するとともに、その認知度も高く両国の友好関係の増進に大いに寄与した。

3-6 提言

チーム内での情報共有が一部不徹底であったが、隊員全員がチーム全体の動きを認識しておく必要がある。患者データの統計作成やカルテの日本語記載（現地への引継ぎが困難）についても隊員間で業務分担、作業方法の統一化実施するなどが望まれる。

3-7 教訓

治安に問題のある地域での活動については、赤十字・赤新月社などに代表される現地の支援団体との協力関係を模索する必要がある。また、緊急援助、復興、開発というサイクルを考慮すれば、緊急援助と開発援助を初期の段階から連動させるべきである。

3-8 フォローアップ状況

国際緊急援助隊専門家チームを派遣し耐震構造についての助言等を実施した。

目 次

はじめに

評価調査結果要約表

	ページ
第1章 評価の枠組み	1
1 評価の目的	1
2 評価項目／STOP4項目	1
3 評価の手法	2
(1) 活動計画概要表	2
(2) 評価調査表	2
(3) Pre-departure review	2
(4) Mission review 1	2
(5) Mission review 2	2
(6) 外部評価	3
4 評価結果のフィードバック	3
第2章 事務局による評価	5
1 災害概要	5
2 チーム活動概要	5
<救助チーム>	5
<医療チーム>	6
3 STOP評価結果	7
(1) 評価結果要旨	7
(2) 各チーム評価結果	8
<救助チーム>	8
<医療チーム>	15
第3章 外部有識者による評価	24
1 評価結果	24
2 教訓・提言	25

付属資料

別添1-1：救助チーム事前チェックリスト	29
別添1-2：医療チーム事前チェックリスト	30
別添2：現地評価調査ヒアリング結果	31
別添3：被災地域地図	47
別添4-1：救助チーム帰国隊員アンケート結果	48
別添4-2：医療チーム帰国隊員アンケート結果	58
別添5-1：救助チーム隊員リスト（第1陣）	72
別添5-2：救助チーム隊員リスト（第2陣）	73
別添5-3：医療チーム隊員リスト	75
別添6：各国チーム救助実績一覧	76
別添7-1：救助チーム携行機材リスト	77
別添7-2：医療チーム携行医薬品、資機材リスト	79
別添8：救助チーム及び医療チーム資機材写真	92
別添9：メディア別取扱い件数一覧	93
別添10：医療チーム業務ローテーション表	97
別添11：OCHA Situation Report No. 8	98
別添12：ホームページ掲載記録	105
別添13：事後評価調査概要	107

第1章 評価の枠組み

1 評価の目的

「国際緊急援助隊評価ガイドラインSTOP the pain」(以下、ガイドライン)において設定している評価の目的は次の2つです。

(1) 事業改善を進めるため

評価を通じ問題点や教訓、提言を導き出し、国際緊急援助隊事業の改善に向けての具体的なアクションにつなげます。

(2) 説明責任を果たすため

日本の国民に対し国際緊急援助隊事業の結果を説明・報告する責任(アカウントビリティ)を果たします。日本からの人員、資機材、及び資金などの投入資源、現地での活動内容、成果などについて評価の結果を国民に広く公開し、国際緊急援助隊事業の実際を伝えるとともに理解と支持を得るよう努めます。

2 評価項目/STOP 4 項目

ガイドラインでは、他の国際機関や援助機関で採用している緊急災害援助に係る評価項目を参考にして緊急援助隊独自の評価項目/STOP 4 項目を採用しています。

各評価項目は次のとおりです。

(1) Speed：迅速性

国際緊急援助隊の派遣決定から出国までに必要な諸手続き及び準備作業、また、被災国の空港到着後活動サイト到着までの移動、活動開始までなどについていかに迅速に遂行したかという視点で評価します。

(2) Target groups：被災者ニーズとの合致

救助、医療のチームの別にかかわらず、被災者のニーズをしっかりと捉えて、それに的確に対応した救援活動の内容だったかという視点で評価します。

(3) Operation：活動効率性

投入資源(ヒト/隊員、モノ/資機材など)をいかに無駄なく活用し、活動の成果に結びつけたかという視点で評価します。現地災害対策本部Local Emergency Management Agency (LEMA)や他機関との調整活動や活動中の安全配慮なども含まれます。

(4) Presence：認知度

チームの活動及び成果が、現地の被災者を含む一般の人々、政府、及び他の国際/援助機関、そして活動の支援母体である日本の国民にしっかりと認知されていたかという視点で評価します。

3 評価の手法

(1) 活動計画概要表

派遣の目的、投入資源(隊員、資機材、経費等)、活動内容及び成果等をまとめた活動計画概要表(Project Design Matrix : PDM)を作成し、派遣前に隊員に配布し、派遣の目的等について隊員間で認識を共有したうえで、救援活動に従事します。

(2) 評価調査票

上記のPDMに基づいて、評価に必要な情報を収集するための調査表を作成し、派遣前に隊員に配布します。

(3) Pre-departure review

災害の発生からチームの派遣に至るまでの事務局による情報収集、人員確保、携行機材の準備、フライトの確保、渡航手続きなどの一連の作業の迅速性を検証します。

(4) Mission review 1

チームの現地到着後から帰国までの活動についてreviewします。具体的には、毎日のチーム・ミーティング記録、活動終了時の活動総括、帰国隊員アンケート結果、活動報告書などに基づいて活動を振り返ります。

1) チーム・ミーティング

チームは毎日その日の活動をreviewし、活動日報として記録し、翌日の活動の改善に向けてのフィードバック事項を隊員間で確認します。

2) 活動報告

チームは活動終了後、現地にて活動の全期間をreviewしたうえで、活動総括として取りまとめます。活動総括には、①活動実績、②問題点の把握と今後の活動の改善に向けての教訓・提案、③活動の評価に必要なデータ及び情報の収集などが含まれます。チームはこれらを簡潔にまとめて被災国のLEMAへ報告します。

3) 帰国隊員アンケート

評価調査表の質問事項に基づいて活動終了後に全隊員に対してアンケート調査を行います。

4) 活動報告書

事務局はチーム帰国後、速やかに活動報告書を作成します。

(5) Mission review 2

チームが帰国する時点では、被災状況等について詳細なデータや情報を入手するのが困難なため、帰国後6か月くらいを目安に、在外公館やJICA事務所を通じて当該情報・データを収集します。事務局では、上記(3)、(4)の結果及び右情報・データに基づき、上記の緊急援助隊評価項目(STOP4項目)に従って評価し、報告書として取りまとめます。

(6) 外部評価

(4) Mission review 1 と (5) Mission review 2 の結果を踏まえ、大学、マスコミ、NGO関係者などいわゆる外部有識者に対して、現地調査も含めて外部評価を依頼します。

事務局は(5)とともに取りまとめて、案件ごとに評価報告書を作成します。

4 評価結果のフィードバック

国際緊急援助隊の評価には、事業改善のためのフィードバックとともに国民の理解と支持を得るためのフィードバックという2つの目的があります。

(1) 事業改善に向けてのフィードバック

事業改善のためのフィードバックは、災害発生からチームの派遣、現地での救援活動、帰国、そして結果の報告というプロセスのなかで得られた多くの知見や教訓を国際緊急援助隊事業の実施体制や具体的な事業の改善、あるいは次回以降のより効果的な事業の実施に向けて実際に役立てる作業です。

また、国際緊急援助隊の評価結果から得た種々の教訓や提言は、チーム関係者や事務局等の関係者の間だけでなく、他の国内の災害援助にかかる他の団体やNGOなど広範な関係者の間にも共有され、長期的にはそうした知見や経験、教訓がオールジャパンとして災害援助にかかる国際協力のキャパシティ向上につながります。

そのために、事務局では国際緊急援助隊チームを派遣した後にタイミングよく報告会やセミナーの開催、報告書の配布、災害援助関係の学会での発表、また、JICAホームページへの掲載など様々なメディアを通じて評価結果から得た知見や経験などを公開します。

(2) 国民へのフィードバック

事業改善のためのフィードバックに加えて国際緊急援助隊評価のもうひとつの目的は、しっかりとチームの救援活動とその評価結果を我が国の国民に説明し、事業実施者としてのアカウンタビリティを果たすことです。

アカウンタビリティの要件としては、事業の目標が明確であること、組織の意志決定プロセスの透明性があること、人員や機材などの投入資源の活用や実績が正確に把握されていることなどが含まれます。これらを満たした評価情報を国民の誰もが入手できるような手段で公開する必要があります。

広く国民に対して情報を公開する手段としてはインターネットの活用が効率的かつタイムリーです。事務局はJICAのホームページを通してタイミングよく国民に対して情報を公開します。

JICAからの情報提供のタイミングは次のとおりです。

- 第1報 タイミング：チーム派遣直後
公開情報：被災状況、チーム概要（派遣日時、人員、機材、経費概算など）
- 第2報 タイミング：チーム帰国直後
公開情報：活動総括と実績
- 第3報 タイミング：チーム帰国後6か月～1年以内（外部評価終了後）
公開情報：評価報告書要旨

第2章 事務局による評価

1 災害概要

(1) 災害状況

アルジェリア民主人民共和国(以下「アルジェリア」と記す)において2003年5月21日19:44(日本時間22日03:44)、首都アルジェ東方50kmのブーメルデス(Boumerdes)県の山間部を震源に、深さ約10km、マグニチュード6.7の地震が発生し、アルジェ県、ブーメルデス県などに甚大な被害が生じました。被害に関する内務省の公式記録は次のとおりです。

－死者	2,278名
－負傷者	10,450名
－家屋喪失	208,000棟
－被災家族	44,000家族

(2) アルジェリア政府の対応

5月22日、ブーテフリカ大統領は現地視察を行ったうえ、災害対策委員会を招集し、首相、内相等の指揮下、捜索・救助活動を展開。同日6時30分、デュンリル内務省次官、シュルハ同省官房長から在アルジェリア今村臨時代理大使に対し国際緊急援助隊等の緊急支援の要請があり、同23日、同国政府から日本に対して国際緊急援助隊医療チームの派遣についても要請がありました。

2 チーム活動概要

《救助チーム》

(1) 派遣までの経緯

5月22日、外務省はアルジェリア政府からの要請を受け、同日に財務省との協議を経て国際緊急援助隊救助チームの派遣を決定し、JICAに派遣を命令しました。

(2) 派遣期間：平成15年5月22日から5月29日まで（8日間）

（第2陣は5月23日から7日間）

(3) チーム構成（計61名）

団長	1名（外務省）
副団長	4名（警察庁、消防庁、海上保安庁、JICA）
中隊長	1名（消防庁）
通信	2名（警察庁）
救急救助	42名
救急医療	4名
業務調整	7名

(4) 携行機材

搜索救助資機材、通信機器等約5トン

(5) 経費（派遣経費、携行資機材費等）

約133百万円

(6) 活動サイト

首都アルジェより東方60kmのブーメルデス県ゼンムリ (Zemmouri) 市の海岸沿い6階建てのホテル「コンプレックス・ル・ロータス」の倒壊現場。

(7) 活動成果

- 5月23日23時59分(日本時間24日7時59分)、生存者は1名(21歳男性、ホテル従業員)を倒壊したホテルから救出
- 同サイトにて5名の遺体を救出

《医療チーム》

(1) 派遣までの経緯

2003年5月22日外務省はアルジェリア国政府からの要請を受け、5月24日に財務省との協議を経て、同日、国際緊急援助隊医療チームの派遣を決定し、JICAに派遣を命令しました。

(2) 派遣期間：平成15年5月25日～6月7日まで（14日間）

(3) チーム構成（計22名）

団長	1名（外務省）
副団長	2名（医師、JICA）
救急医療	3名（医師）
チーフナース	1名（看護師）
救急看護	6名（看護師）
薬剤管理	1名（薬剤師）
医療調整員	2名（救急救命士）
業務調整員	5名
評価	1名（外務省）

(4) 携行機材

医薬品、医療資機材、通信機器等約2.3トン

(5) 経費（派遣経費、携行資機材・医薬品等）

約58百万円

(6) 活動サイト

首都アルジェより東方60kmのブーメルデス県ゼンムリ市中心部のサッカースタジアムの被災民キャンプ内。救助チームの活動サイトの南東5～6km。

ゼンムリ市病院(Policlinic)が地震により機能不全となったため、右機能を補完すべく、同キャンプ内で仮設のテントを設け被災民に対して診療サービスを提供しました。

(7) 活動成果

- 6月4日までの実質8日間に震災による急性疾患患者を中心に延べ1623名を診察
- 今回の活動では、仮設診療所での診療活動と並行して、公衆トイレ設置促進や衛生環境改善活動などの公衆衛生活動も実施。

3 STOP評価結果

ガイドラインでは、評価のための視点として(1)Speed(迅速性)、(2)Target groups(被災者ニーズとの合致)、(3)Operation(活動効率性)、(4)Presence(認知度)というSTOP4項目を設定し、派遣決定から帰国までの一連の業務、活動等について、派遣前にあらかじめ準備した活動計画概要表及び評価調査表に沿って必要情報・データを収集・分析し、それぞれの視点から評価します。

(⇒) は検証情報・データの出所)

(1) 評価結果要旨

1) Speed (迅速性)

救助チームは、外務省による派遣命令から24時間以内に出発すること、及び発災から72時間以内に現地での救助活動を開始すること、また、医療チームは派遣命令から48時間以内に本邦を出発することがひとつの迅速性の指標となっています。

右指標については既に国内調査の段階で「達成済み」であることを確認しています。右に加え、今回訪問した多くの関係機関において、日本チームの到着の速さが評価されており、これらの情報を合わせ、救助・医療チームの派遣ともに迅速に派遣されたと判断します。

2) Target groups (被災者ニーズとの合致)

今回のオペレーションでは、救助・医療両チームともにブーメルデス県ゼンムリで救援活動を展開しました。調査団はこのゼンムリ地区(コミューン)の被災状況が他のコミューンに比べ甚大であったことを確認するため、県レベル及びコミューン・レベルの被災情報を外務省、内務省、県に求めましたが、最終的に全国レベルの数値の入手にとどまりました。この点は、ゼンムリの医療サイトを訪問した際に、担当行政官からのヒアリングにて、ゼンムリが最も被害が大きかった旨を確認できたことをもって、救助・医療チームともにニーズの高い被災地域で活動したものと判断します。

3) Operation (活動効率性)

今次震災において各国政府及びNGOなど民間を含めて約40チームが救援活動を展開しましたが、全体で生存者救出数15名(フランス8/スペイン3/オーストリア/日本・トルコ合同/ルクセンブルグ/イギリス各1)、遺体収容数254名(ロシア92、フランス48、スペイン47、ルクセンブルグ28、オーストリア8、イギリス7、ギリシャ7、日本5、チェコ5、

イタリア4、南アフリカ3)という救助実績に鑑みれば、地理的な制約やチームの規模などから判断し、救助チームは能力以上の救援活動をしたといえます。

医療チームに関しては、震災により一部が倒壊し、機能不全となったゼンムリ病院の機能を補完することが目的のひとつでしたが、今回の調査で同病院関係者より震災前の診療者数が1日平均120名であったことが確認でき、同チームの診療者数が1日平均約200名を超えたことから、同チームのオペレーションは効率的に進められたと判断できます。

また、関係機関のインタビューにおいても、医療チームの統制のとれた組織的な診療方法や資機材の機能性などが評価されており、これも医療チームの効率的な活動を示す材料といえます。

4) Presence (プレゼンス/認知度)

ヒアリング調査において、アルジェリア側関係機関及びUN機関の関係者は総じて救助・医療チームの活動を高く評価し、その貢献を認めていました。被災住民からの評価に関しては、救助チームについては救助活動現場でのヒアリングによると、その活動が十分に地元住民に感謝されていることが確認できました。医療チームの現地調査では、時間的な制約から、直接被災住民からの聞き取りができなかったため、これについては被災民キャンプの行政関係者に対するヒアリングや診療実績など間接的な方法により被災民の医療チームに対する信頼及び評価を確認することができました。

これら1)～4)のSTOP評価の結果から、全体的に今回のアルジェリアに対する国際緊急援助隊救助チーム及び医療チームは、それぞれの活動において、被災地における人的被害(肉体的、精神的)の軽減に寄与するとともに、その結果として、日本とアルジェリア国との友好関係の維持、増進に貢献し、当初の目的を達成したものと判断します。

(2) 各チーム評価結果

《救助チーム》

1) 迅速性

① 派遣決定から出発まで

外務省は5月22日14:45に国際緊急援助隊救助チームの派遣を決定し、救助チームの第1陣は同22日21:55、第2陣は同23日11:10に日本を出発しました。それぞれ派遣決定から7時間10分後、20時間25分後となっており、「派遣決定から24時間以内に出発」という達成目標をクリアしています。⇒別添1-1:救助チーム事前チェックリスト

フライトの選定及び席の確保については、派遣決定前よりエージェントと緊密に連絡をとり、成田―パリ間に関しては時間的な制約のなかで上記のとおり同日夜便で第1陣18名分、翌朝出発便で第2陣43名の席を確保しました。パリ―アルジェ間については、取り急

ぎ席の確保ができた4名分の席を確保し、第1陣先発隊として送りました。

②入国から救援サイト決定及び活動開始まで

第1陣先発隊4名は5月23日10:25ごろに被災国到着後、即座にアルジェ空港において、アルジェリア側窓口の災害調整官と協議し、ブーメルデス県のLEMAに向かいました。LEMAよりテニア市への派遣を要請され、テニア市に向かい現場を視察した結果、ニーズがないと判断し、ゼンムリ市へと移動した。16:15ごろにゼンムリに到着し、16:50には海岸沿いのホテル「コンプレックス・ル・ロータス」における救助活動を決定しました。

第1陣後発隊は5月23日14:25にアルジェに到着し、空港での入国審査及び通関はスムーズに済んだものの、一部携行資機材の紛失により空港出発まで2時間を要しました。その後、第1陣の待つサイトへ向かいましたが、災害後の混乱による渋滞により通常の約2倍の3時間を要し、19:20に活動サイトに到着。先発隊と合流し救助活動を開始しました。
⇒救助チーム活動報告書：2. 活動内容 (2) 活動記録

第2陣は5月23日22:50にアルジェ空港に到着し、第1陣後発隊同様に入国、通関はスムーズだったが、アルジェリア側のセキュリティー担当官の配置の遅れなどから空港からの出発が遅れ、さらに途中の渋滞により、現地サイト到着は5月24日4:10となりました。

第1陣の活動開始は、派遣決定から36時間35分後、災害発生から47時間36分後であり、第2陣の活動開始は派遣決定から45時間25分後、災害発生から56時間26分後となっています。迅速性の観点から「救助チームは発災後72時間以内に救援活動が開始される」ことを達成目標としており、右のとおりクリアしています。
⇒別添1-1

2) ターゲット・グループ

①被害が甚大な地域を活動サイトとして選定したか

公式記録としては確認できなかったが、ブーメルデス県庁でのヒアリングにおいて、公共事業局長より県内でもゼンムリ市がもっとも甚大な被害を受けた地域であったことを確認しました。

また、同市内での聞き取り調査により、なお5名が生き埋めの状態との情報を得た在ゼンムリ・エリ・バーリのホテル「ルコンプレックス・ル・ロータス」を活動サイトとして選定しました。
⇒別添2：現地評価調査ヒアリング結果

⇒別添3：被災地図

⇒救助チーム活動報告書：2. 活動内容 (2) 活動記録

②被災国現地対策本部（LEMA）との協議により活動サイトを選定したか

サイトの選定にあたっては、まずアルジェ空港において、先遣隊（石樽団長、石田副団長、川島中隊長、深井団員）がアルジェリア側窓口の災害調整官アブドゥラリ・ベグーラ

氏とサイト選定の協議・調整を行い、ブーメルデス県の現地災害対策本部に行くことを指示されました。

LEMAから活動の対象地域に関してテニア、ゼンムリ両市が指示されたが、具体的な両地域内での活動サイトはチームが両サイトを視察したうえで決定しました。

⇒救助チーム活動報告書：2. 活動内容 (2) 活動記録

③ 搜索・救助ニーズに的確に応えたか

5名の要救助者がいるとの情報のもと、搜索救助活動を開始し、23日夜には1名の生存者を救出し、また、その後2日にわたる搜索救助活動において、生き埋めになっていた全員の遺体（5名）を救出しました。結果的に行方不明者6名（うち1名は生存者）を全員救出したことになり、技術的な面も含め搜索・救助ニーズには的確に応えたものと考えられます。

⇒救助チーム活動報告書：2. 活動内容 (2) 活動記録

④ LEMA及び担当省庁等と協議・調整のうえ撤退時期を決定したか

特にLEMAとの協議はしませんでした。発災後72時間の経過（人命救助も目的とした搜索救助活動終了の国際的目安）、指示のあった地域での更なる搜索救助ニーズがないこと、さらに、他国救助チーム等の動向等を確認し、チームの撤退時期を決定しました。LEMAには上記の状況を説明し撤退日時を通報しました。

3) オペレーション

<情報>

① 派遣前の被災情報は正確であったか

派遣前に各団員に手渡された情報は、派遣直前の段階で入手し得る最大限の情報を提供しており、ほとんどの隊員は当該情報を「正確」、あるいは、「ほぼ正確」であったと認識しています。

⇒別添4-1：救助チーム帰国隊員アンケート結果

② 在アルジェリア日本大使館（日本大使館）からの情報提供は十分かつ正確であったか

現地にはJICA事務所はなく、これに代わって日本大使館から被災情報を入手しました。同情報の正確さに対する隊員の認識は①に同じ。

⇒別添4-1

③ LEMAで入手した情報は正確だったか

LEMAからは被災情報（被災者の多い地域等）とその地域を示す地図の提供しかありませんでした。

④ 要救助者情報を的確に収集したか

ホテルオーナー及び近隣住民からの聞き取り調査の結果、同ホテル倒壊現場には要救助者がいると判断し、サイトとして選定し、6名を救出しました。このサイトでは日本チームより先にルクセンブルグ、ドイツチームが生存者なしと判断し撤退した場所でもあり、比して搜索救助活動を続けた日本の救助チームは要救助者情報を的確に収集していたとい

えます。⇒救助チーム活動報告書：2. 活動内容 (2) 活動記録

<要員>

①人員体制は派遣方針に基づき整えられたか

救助チームの標準体制に従って、団長以下副団長、中隊長、救急救助といった救助隊員（救助犬、ハンドラー含む）と後方支援としての通信班や業務調整（広報団員含む）を適切に配置しました。⇒別添5-1：救助チーム隊員リスト

②チームの活動はキャパシティ（人員、機材、活動時間など）に相応していたか

救助チームは生存者の救出可能性が極めて低くなるとされている発災から72時間までは救出活動が続ける方針を掲げ、今回も右方針に従い、対応することで全員で継続して救助作業を展開できました。

隊員のアンケートでは、過半数がチームのキャパシティは現場のニーズに対して「適当」あるいは「能力以上をカバーした」としています。一部隊員は活動サイトを増やす余力もあったとしていますが、今回活動サイトを1箇所として3小隊が小隊単位で「救助－待機－休養」というシフトを組んで活動した背景には、①近隣に活動に適切なサイトがなかった、②最初のサイトではほぼ確実に6名が被災していた、さらに、③実際に同サイトで生存者が救出されたという状況があり、このような状況から、1箇所の救助活動に投入資源を集中させたチームの判断は適当であったといえます。⇒別添4-1

③指揮命令系統、業務分担は明確だったか

隊員アンケートにて指揮命令系統、業務分担ともに明確であったことが確認されています。⇒別添4-1

④通訳、運転手等の現地要員は適切に確保されたか

在日本大使館の手配によりほぼ必要数の通訳、運転手を手配することができましたが、基本的に英－仏通訳であり、日－仏通訳を期待していた一部隊員から通訳の人数が不十分との声が聞かれました。現地での通訳の手配に関しては、日本語－現地語通訳をまず第一優先で確保するが、人数的に足りない場合は英語－現地語通訳で補充します。今回の場合は後者に該当したため、隊員から右意見が聞かれました。⇒別添4-1

<技術>

①隊員の技術水準は要救助者を搜索救助するうえで現地救助機関の機能を代替できるレベルであったか

救助隊員は全員が日本国内においても本来の業務として救助活動あるいは同訓練をしている。隊員アンケートにおいても、ほぼ全員から今回の救助活動に関しては技術的に十分対応できたと報告しています。

また、到着時には重機械を使つての救助活動を実施していましたが、生存者がいる可能性があるとチームからの訴えにより手作業による搜索に方針転換し、結果として生存者を無事に救出したことも技術的な水準の高さを示すものと言えます。

⇒別添5-1：救助チーム隊員リスト

②通信機材を十分活用できたか

通信班の2名の隊員を中心に早期に通信体制を確立。事務局との円滑な連絡をとることができました。活動報告のみならず、写真の提供などタイムリーな情報提供に大きく貢献しました。⇒救助チーム活動報告書：別添1 活動報告メモ

<資機材>

①携行機材は派遣方針に基づき整えたか

3小隊が十分に活動できる資機材を携行した。機材の不整備、不足により、活動が阻害されることはありませんでした。⇒救助チーム活動報告書：別添1 活動報告メモ

②携行機材は要救助者を搜索救助するうえで現地救助機関の機能を代替できるレベルであったか

救助機材、搜索機材ともに十分に活動できるレベルのものを携行した。結果として生存者を含む活動サイトにおける要救助者全員を救出するなど、現地救助機関の機能を代替できるレベルでした。⇒救助チーム活動報告書：2. 活動内容 (2) 活動記録

⇒別添7-1

③隊員生活物資は質及び量的に適切であったか

救助チームでは活動開始後3日間分の食料を持参することとしています。今回の場合、5月23日に活動を開始し、23日、24日についてはすべて持参した食料で賅ったが、25日の昼食分で当該食料を使い切り、夕食分は現地調達しました。

隊員アンケートにおいても、食料以外の生活物資等を含め、ほぼ全員が「適当」あるいは「ほぼ適当」だったと回答しています。⇒別添4-1

<調整・協力>

①LEMAは十分な調整機能を果たしていたか

LEMAは混乱のなかで、被害が大きいと想定される地域での救助活動を日本チームに要請してきましたが、右状況から情報は正確ではありませんでした。その点では、LEMAは被災状況を十分把握しておらず、調整機能は十分ではなかったといえます。

②LEMA、搜索救助機関と定期的に情報交換し、情報の更新を図ったか

5月24日早朝（現地時間）に石樽団長他が生存者救出についてブーメルデス県庁、LEMA及び国連現地活動調整センター（OSOCC）に報告したほか、5月25日昼、さらに

撤退前日の5月26日にも同様に最終報告をしています。

このように、LEMA及びOSOCCとの情報交換及び情報の更新はできていたが、OSOCCの調整のもとで開かれる各国救助チーム間の定期会合には、開催時間及び場所等の連絡の不徹底、治安上の問題等により日本チームは参加しませんでした。

また、LEMA及びOSOCCにて収集した情報について隊員間で共有されていなかった点が多く、多くの隊員から指摘されています。⇒救助チーム活動報告書：2. 活動内容 (2) 活動記録

⇒別添4-1

③在アルジェリア日本大使館との連携は円滑であったか

現地では在日本大使館（JICA事務所はなし）と連絡を緊密にとり、通訳・車両の手配等の必要な便宜供与を確実に実施してもらいました。帰国前日には在日本大使館に対して最終報告も実施し、連携は円滑でした。⇒救助チーム活動報告書：別添1 活動報告メモ

<治安・安全>

①派遣前の治安・安全情報は正確だったか

一般的に得られる治安情報のほか、JICA内で利用している安全情報についても隊員に提供しました。また、現地ではLEMA、OSOCC及び在日本大使館より治安情報の入手に努めました。⇒救助チーム活動報告書：別添1 活動報告メモ

②活動中、宿泊場所も含め治安上の問題はなかったか

安全上の配慮から、宿舎は首都アルジェのホテルとしました。移動時には必ず警備員が同乗し、活動中も警備員による厳重な警備のもとでの活動でしました。活動・移動・宿泊中において、治安上問題となることは発生しませんでした。⇒別添4-1

③活動中、移動中も含め事故、病気等が発生せず、無事帰国したか

救助活動中に擦り傷を負ったり、軽い熱射病になる救急救助隊員や、調理中にやけどを負う隊員もいましたが、随行した4名の医療隊員の適切な処置により大事になるケースはありませんでした。⇒救助チーム活動報告書：4. 医療班報告

④必要な休養の確保に配慮したか

救助隊員を3班に分け、順番に交替して休憩をとるように努めました。休息場所としてホテルオーナーが倒壊ホテル横のロッジを無料提供してくれたため、ベッドでも休める環境であったが、ベッド数が足りず、多くの隊員は日蔭で休憩をとってまいりました。

到着直後の夜は徹夜の作業となりましたが、2日目以降は夜はかならずホテルに戻り休憩をとるようにしました。⇒救助チーム活動報告書：4. 業務調整員報告

⇒別添4-1

4) プレゼンス

①携行資機材へのロゴ・ステッカーは貼付されていたか

すべての携行機材にはロゴ・ステッカーが貼付されていました。

⇒別添8-1：救助チーム資機材写真

②他の援助機関にチームの活動が認識、評価されていたか

UNOCHAレポートで活動が紹介されたほか、LEMAに対する活動報告を行い、その活動は認識されていました。また地元新聞にも取り上げられ日本の救助チームの活動は広く広報されました。

⇒救助チーム活動報告書：別添5 UNOCHA Situation Report

⇒救助チーム活動報告書：別添7 報道関係資料

⇒別添9-1：救助チーム マスコミ報道件数一覧

③活動地域の住民にチームの活動が認識、評価されていたか

地元新聞の一面に日本の救助チームが大きく写真入りで紹介されるほど現地の人々に認識、評価されていました。

また食料調達の際に、地元の商店主が日本の救助チームの活動に理解を示し食材を非常に安く提供してくれるなど地域住民からも評価、感謝されていた。

⇒救助チーム活動報告書：別添1. 活動報告メモ (22) エピソード

④被災国自治体にチームの活動が認識、評価されていたか

活動の節目節目において、LEMAと同時にブーメルデス県庁にも活動報告を行っており、救助チームの活動は被災国自治体に認識、評価されていました。

現地評価調査の際も、訪問したほとんどの各関係機関で日本チームの救援活動について十分認識しており、また、感謝の意を表していました。

⇒救助チーム活動報告書：2. 活動内容 (2) 活動記録

⇒別添2：現地評価調査ヒアリング結果

⑤本邦にてチームの活動が認識、評価されていたか

事務局から発信するホームページとマスコミ向けのプレスリリースにより多くのマスコミに救助チームの活動が報道されました。生存者救出の写真は写真ニュースとして学校や駅の掲示板に掲示されることもあり、チームの活動は本邦において広く認識、評価されていたと考えられます。

⇒救助チーム活動報告書：別添7 報道関係資料

⇒別添9-1

⑥事務局はチームの活動について最新情報を国民に提供したか

現地サイトから得た情報を適宜プレスリリースやホームページを通して国民に提供しました。

⇒別添12：ホームページ掲載記録

《医療チーム》

1) 迅速性

①派遣決定から出発まで

今次医療チームの派遣に関しては、外務省から事務局に派遣決定の連絡が入ったのが5月24日8:25。事務局は右派遣決定を受け、Fネット（同時多数回線ファックス送信）により登録者に対して一斉に渡航の可否について確認し、午前11時に人選を終了しました。

フライトについては、派遣決定前からエージェントと緊密に連携しながら、隊員全員及び携行機材が搭載できる直近のフライトを確保しました。出発は5月25日21:55となりました。

迅速性の観点から、医療チームでは「派遣決定から48時間（2日間）以内に出発」することを目標としており、今回の場合、当該時間は37時間30分であり、右目標はクリアしています。⇒別添1-2：医療チーム事前チェックリスト

②入国から救援サイト決定及び活動開始まで

今次災害においては、先行派遣されていた救助チームに医療班が配置されており、同班医師を中心に、LEMA、県衛生部長及びブーメルデス救急病院との協議を通して、医療チームの活動サイト候補地をあらかじめ選定することができました。

その結果、医療チームはアルジェリア到着後、速やかに同サイト候補地の被災民キャンプに向かい、同キャンプ・サイトの責任者らと協議を行い、同サイトを医療チームの活動サイトとして円滑かつ迅速に決定し、活動を開始することができました。

⇒医療チーム活動報告書：2. 活動内容（4）活動記録

2) ターゲット・グループ

①被害が甚大な地域を活動サイトとして選定したか

アルジェリア側は今次災害の被災状況の詳細についてまだ正式な報告書が作成されていなかったため、医療チームのサイトが甚大な被害を受けた場所であったか否かを裏づけるデータは入手できませんでしたが、現地評価調査において先方関係者より同サイトを設置したゼンムリ市がブーメルデス県のなかでも最も被災規模が甚大な場所であったことを確認しました。

また、活動サイトを置いたゼンムリ市においては、中心となる病院が半壊し、全く診療できなくなっていたことを考えると、サイトの選定は適切であったと考えられます。

⇒別添2：現地評価調査ヒアリング結果

⇒別添3：被災地図

⇒医療チーム活動報告書：2. 活動内容（4）活動記録

②LEMAとの協議により活動サイトを選定したか

サイト決定にあたっては、LEMA及びブーメルデス県の救急病院の管理者からの要請を受け、先に活動を行っていた救助チームの小林団長、井上医師が現地に出向いて決定したものであり、現地側と日本側との協議のうえで決定しました。

⇒医療チーム活動報告書：2. 活動内容 (4) 活動記録

③患者の医療ニーズに的確に応えたか

現地医療機関の平常時・災害後の疾病構造や患者数は、中心となる医療機関が診療機能を停止していたことに加え、ゼンムリ市の行政機能が、全くといっていいほど破壊されていたため、活動期間中には正確なデータが得られませんでした。

しかしながら、医療チームの到着前に既に活動を行っていた現地医療機関の仮設診療所スタッフによれば、震災後は1日600人を超す患者が仮設診療所を訪れており、これに対し、医療チームも、連日200人以上の患者を診療したことから、患者数の面からは一定のニーズを満たしたと考えられます。

また、診療データで示したとおり、今回の活動では、小児・女性・高齢者といったいわゆる「災害弱者」の受診が多く、また、疾患構造としても、従来の派遣でみられた呼吸器系の疾患、皮膚・目の疾患といったいわば亜急性期の患者に加え、骨折などの新鮮な外傷の患者も少なくありませんでした。これに対し、今回派遣された医師隊員の専門分野は、救急・災害医療、小児科医療であり、質的にも医療ニーズに応じていたといえます。

精神科分野については、医師隊員の中には専門科はいなかったものの、まず医師隊員が初診を行い、器質性疾患を除外したのち、現地医療機関の精神科診療所に紹介するなどの連携を行うことができました。

しかしながら、皮膚科、眼科疾患については、薬剤不足や、現地医療機関や、他ドナーのサイトにも専門分野の医師がいなかったこともあいまって、ごく初歩的な診療サービス以外提供できなかったことは反省点と考えます。この点については、今後、チーム内に皮膚科・眼科専門医を加える、あるいは導入・中級研修で皮膚科・眼科の知識・技術講習を加えるといったことや、経口薬剤の見直しも含め検討されるべきです。

⇒医療チーム活動報告書：4. 活動報告 (3) 医療班 (4) 看護班 (5) 薬剤班報告

⇒医療チーム活動報告書：別添4 診療データ

④患者の優先度に偏りはなかったか

問診の時点で重篤と思われる患者は先に診察室に入れるなどのトリアージを行いました。また、患者のほとんどがサイト内あるいは近隣から来ており、一部遠隔地域の患者に対しては、警察に依頼し送迎してもらうなどの手段を取ったため、地域的な偏りもありませんでした。

⇒医療チーム活動報告書：4. 活動報告 (3) 医療班 (4) 看護班 (5) 薬剤班報告

⇒医療チーム活動報告書：別添4 診療データ

⑤被災国の救急医療の機能を代替したか

今般の現地評価調査において、倒壊したゼンムリ市病院関係者より、同病院では通常時に1日120名の患者を診療していたことを確認しており、上記のとおり医療チームが1日200人以上の診療実績をあげたことは、災害により機能を停止していた同病院の機能を十分代替していたこととなります。別添2：現地評価調査はリング結果

⑥LEMA及び医療機関等と協議・調整のうえで撤退時期／2次隊の派遣を決定したか

診療開始当時はほとんどが災害に関連した患者でしたが、日を追うにつれ、慢性疾患の患者が訪れる例がかなりの割合を占めるようになり、また、活動サイト周辺でアルジェリア国内の多くのドナーが、徐々に安定した診療を行い始めたため、早い時期から2次隊の派遣の必要性は低いと判断しました。

診療終了の時期についても、事前に現地の医療責任者、地域住民に伝え、医療チームの撤退後も継続して診療する必要がある患者については、現地医療機関へ紹介するなどの方策をとりました。⇒医療チーム活動報告書：別添3 先方への活動報告

3) オペレーション

<情報>

①派遣前の被災情報は正確であったか、及び在日本大使館からの情報提供は十分かつ正確であったか

派遣前に各団員にファックスあるいは手渡された情報はほぼ正確であり、これに沿って現地入りする前にサイトのイメージを描き、準備を行うことができた。在日本大使館からは、被災情報のみならず、各セクターの代表者が誰であるかなどの有用な情報提供があり、活動を円滑に行うことができました。

⇒別添4-2：医療チーム帰国隊員アンケート結果

②LEMAで入手した情報は正確だったか

他項でも記述されているとおり、ゼンムリ市では行政機能が全く麻痺し、LEMAも機能せず、情報入手ができませんでした。

この点については、早い時期からチームより、また在日本大使館からも、アルジェリア政府に申し入れました。活動半ばごろからはスタジアム内にブーメルデス県の出先機能としてアドミニストレーション・オフィスが開設されたものの、Rapid Health Assessmentをはじめとする保健医療に関する情報収集も、公衆衛生の啓蒙も、また各ドナー間の調整もされませんでした。

③患者情報を的確に把握したか

今回は、通訳が優秀でなおかつ十分な人数が確保できたこともあり、患者個人からの情報収集は非常にスムーズでした。しかし、人手の問題と、電源がない、砂塵が多いなどの

サイトの環境の問題で、サイトでは患者データの統計処理ができず、結果的に毎日カルテを宿舎に持ち帰り、翌日にまとめて集計を行ったため、再診患者のカルテが出ない、前日の診療情報を翌日に反映できないなどの問題が起きました。また、カルテ記載は日本語で行ったため、現地医師に引き継ぐことや、患者さんに渡すことも不可能でした。

今後、よりよい患者情報の把握のためには、カルテそのものや、診察券の導入をはじめとする患者管理方法、統計処理方法などについて改善する必要があります。

⇒医療チーム活動報告書：4. 活動報告 (3) 医療班 (4) 看護班 (5) 薬剤班報告

<要 員>

①人員体制は派遣方針に基づき整えたか

医師4名の体制であったため、ローテーションを組んで、診察とデータ収集・分析を行うことができました。また、女性である永井医師が小児科医として参加したことは、災害時には、小児・女性といった災害弱者の患者が多いこと、小児は母親に伴われて受診することが多いこと、イスラム圏では、男性医師に診察されることを嫌う女性がいることなどを考えると、まさに適材適所の人材でした。

なお、医師4名の体制で診療を行うには、薬剤師1名では絶対的に不足であり、連日看護師1名を薬局に配置せざるを得なかった。実際にはこの体制で大きな問題は起こらず、看護師が交代で調剤業務を学ぶことができたというメリットがあったものの、効率性や、安全面では今後検討の必要性があります。⇒別添5-2：医療チーム隊員リスト

②患者数はチームのキャパシティ（人員、機材、診療時間など）に相応していたか

診療時間については、当初午前9時から午後5時までとしていましたが、安全面の配慮から、宿舎をアルジェ市内に取らざるを得なかったこと、夕方のラッシュ時に2回にわたり市民の抗議行動による道路閉鎖に巻き込まれたこと、また、酷暑・砂塵の環境下で働く隊員の疲労が激しいことから、診療終了時間をやや前倒しにせざるを得ませんでした。しかし、診療体制が確立するにつれ、効率的に診察ができるようになり、診療時間短縮後も、患者数の極端な落ち込みはなく、患者側にも大きな混乱はありませんでした。

⇒別添4-2

③指揮命令系統、業務分担は明確だったか

朝日副団長の下、朝日、富岡、山畑隊員が主に成人患者を、永井隊員が主に小児と女性の患者を担当しました。また、朝日隊員は、アルジェリア当局や周辺ドナーとの折衝、マスコミ対応などを行い、また、公衆衛生面での指導をチーム内外に向けて広く行ったこと、永井隊員が仏語と公衆衛生の知識を生かし、連日地域住民や周辺ドナーから様々な情報を収集し、チーム内で共有できるようにしたことは特筆に値します。⇒別添4-2

④通訳、運転手等の現地要員は適切に確保されたか

前述のとおり、今回は多くの優秀な通訳を全活動期間を通じて雇用することができ、このことは診療効率を高めることに大きく貢献しました。しかし、その反面、ほとんどの通訳が全期間休みなしで勤務してくれたために、活動が日を重ねるごとに、通訳の疲労度が高まり、なかには、ストレスからくると考えられる不眠などを訴える者も現れたことは反省点であり、通訳についても、隊員同様、ある程度強制的にでも、交替で休みを取るようにすることが望まれます。

運転手に関しては特に問題なし。⇒別添 4-2

<技 術>

①隊員の技術は患者の医療ニーズに応じていたか

隊員アンケートにおいて、ほとんどの隊員が自分の担当業務についての技術、知識、経験等が患者のニーズの満たしていたと回答しています。

また、現地評価調査の際、時間的な制約から直接診療を受けた患者からのヒアリングはできませんでしたが、保健省やゼンムリ病院関係者へのヒアリングにおいて一様に日本チームが提供した現地での医療サービスに対して高い評価と感謝の意を示しており、当時の一定の医療ニーズを満たしたものと察します。⇒別添 4-2 ⇒別添 2

②診療指針に基づき実際に診療活動が行われたか

診療自体は、災害時診療の原則に沿って、高度な専門性を目指すのではなく、できるだけ多くの被災者に医療サービスを提供できるように、必要最低限の診察、治療、投薬を行い、より専門的な治療が必要な患者は、適宜現地の医療機関に紹介しました。

⇒別添 4-2

③感染症に係る情報収集、また増加、抑制のために必要な配慮、対策を講じたか

今回の活動では、LEMAが機能していなかったため、サイト全体の正確な感染症情報は知り得ませんでした。朝日、永井隊員が積極的に周辺ドナーからの聞き取りを行いました。また、アルジェリア当局へのトイレ整備の重要性の説明や、住民に対するうがい、手洗いなどの基本的な感染症予防策の啓蒙普及、さらに、我々の診療所周辺の環境整備などに積極的に取り組みました。⇒医療チーム活動報告書：4. 活動報告

⇒医療チーム活動報告書：別添 3 先方への報告

④活動サイト決定後、診療所が遅滞なく開設されたか

医療用テントに一部空気漏れが発生し、通常ならば1時間程度で終了するはずの設営に4時間程度を要しました。⇒医療チーム活動報告書：2. (4) 活動記録

⑤通信機器を十分活用できたか

成人・小児の各診療室と、受付、薬局には無線機を設置し、診療状況や、薬剤の問い合わせ

わせなどに活用し効果的にコミュニケーションをとることができました。⇒別添4-2

<資機材>

①携行機材は派遣方針に基づき整えたか

薬剤については、適切に準備されているとは言い難く、ニーズに合わせ今後の派遣時までに新たに補充するか、現在の定数を増やすなどの改善が必要と考えられます。

⇒別添7-3：医療チーム携行医薬品・資機材リスト

②隊員用生活物資は質及び量的に適切だったか

今回は高温の環境下での活動となったため、医師班から各隊員に、脱水防止に、積極的に水分摂取、電解質補給をするように指導しましたが、ポカリスエット、ミネラルウォーターは、持参分、現地調達分を含め潤沢に供給され、また、食事に関しても、レトルト中心の食事に、果物、野菜が添えられるなどの工夫がなされ、質・量ともに満足できるものでした。⇒別添7-3：医療チーム携行医薬品・資機材リスト

③供与資機材の選定及び手続きは適切だったか

日本から持ち込んだ資機材薬剤の残余分は、すべてアルジェリア側に供与しました。特に、薬剤については、上述のとおり、すべてカラー写真付きの英文解説書を添付したうえで、供与しました。

⇒医療チーム活動報告書：別添3 先方への活動報告（含・供与医薬品機材リスト）

<調整・協力>

①LEMAは十分な調整機能を果たしていたか

②LEMA、医療機関と定期的に情報交換し、情報の更新を図ったか

③他の援助機関、NGO等と定期的に情報交換し、情報の更新を図ったか

上述のとおり、活動開始時ではLEMAが機能していなかったためブーメルデス県が行政担当者をゼムリの被災民キャンプに配置した後も十分な医療調整機能を果たしたとはいえませんでした。しかし、同じスタジアム内のドナーとは、公式な会議の形式ではないものの、随時情報交換を行いました。

⇒医療チーム活動報告書：4. 活動報告 (3) 医療班報告

④移送などに関し現地医療機関、他の援助機関、NGOなどとの連携が円滑に行われたか

スタジアム内の医療機関・援助機関とは、積極的に連携し、患者の紹介・逆紹介を行いました。特に精神疾患、災害後ストレスの患者については、アルジェリアの精神科医が常駐しており、ただちに紹介できる体制が整っていました。また、手術が必要な患者についても、アルジェリア側の診療所との連携のもとで、スタジアム内に待機していた救急車を用いて高次医療機関に迅速に移送することができました。

⑤日本大使館との連携は円滑であったか

車両や通訳の手配等の便宜供与、情報収集、アルジェリア側との折衝、安全対策など、すべての面において日本大使館の全面的なバックアップを得たことで、円滑に現地の活動が展開できました。⇒医療チーム活動報告書：2. 活動記録

<治安・安全>

①派遣前の治安・安全情報は正確だったか

事前情報はきわめて正確であり、また、小林団長がつい最近まで日本大使館勤務であったため、より詳しい治安・安全情報を得ることができました。⇒別添4-2

②活動中、宿泊場所も含め治安上の問題はなかったか

日本大使館の配慮で、移動時は必ず警備担当者が随行し、また、ゼンムリの被災民キャンプ（スタジアム）内も、現地警察が厳重に警備にあたり、診察開始の際には患者の整理も行ってくれたため、サイト内では治安上問題になるようなことは起こりませんでした。

しかし、移動途上で道路封鎖に巻き込まれた際には、隊員・車両には全く被害はなかったものの、二時間以上の足止めを余儀なくされました。このような事態は今後の派遣でも予想されるため、サイトとの往還には、あらかじめ迂回路を準備しておくこと、移動用の車両内に、あるいは個人個人が、最低限の水と、ビスケット等の食料を準備しておくことも検討する必要があります。

また、余震発生による被害のため、急遽夜間診療を実施しました。団長、日本大使館セキュリティ関係者が同行することで安全を確保しましたが、そもそも治安の悪いアルジェリアにおいて夜間に移動し診療を行う必要があったのか、今後の可能性について検討する必要があります。⇒別添4-2

③感冒で一日現場を離れた隊員がいた以外、活動中、移動を含め大きな事故・病気はありませんでした。⇒別添4-2

④業務ローテーションに従い、必要な休養は取れたか

上述のとおり、サイトが高温、砂塵などで過酷な環境であったため、各班でローテーションを決め、任期中一日は必ず、サイトに行かず、宿舎内で適宜休養しながら、カルテ整理などの軽作業を行う日を設定しました。結果的には、全員がこの休養日を取ることができました。⇒別添4-2

4) プレゼンス

①診療所の開設について被災者に十分周知徹底したか

医療チームは、ゼンムリ病院近くに設置された被災民キャンプ内に診療テントを構えた

ため、同キャンプ内の被災住民のみならず、同地域以外の被災民にも十分よく目立ちました。くわえて、テント周辺にアナウンス・ボードを掲げ、日本チームの診療の開始について宣伝しました。1日平均200名を超える患者が診療テントに訪れた実績から、十分周辺の被災者に日本チームの活動は周知されていたものと考えられます。

⇒医療チーム活動報告書：別添4 診療データ

② 携行資機材へのロゴ・ステッカーは貼付されていたか

すべての資機材にステッカーが貼付されていました。

⇒別添8-2：医療チーム資機材写真

③ 他の援助機関にチームの活動が認識、評価されていたか

今次国際捜索救助チームの調整にあたったUNOCHA/OSSOCが引き上げた後、日本チームが活動を開始する時点では、未だ保健医療援助を現地で調整するについてUNOCHA/OSSOCは設置されていませんでした。日本チームはすでにWHOを中心にUNDACチームがニーズ調査を展開しているとの情報を得たため、当方より同UNDACチーム・マネージャーに面会を求め、情報交換を行うとともにプレゼンスの確保に努めました。

本チームが活動を展開したあとの時点で出されたUNOCHAのSituation Report No.8において本チームの救援活動が記載されていなかったことから、右指摘するとともに、次号には必ず載せるよう依頼しました。

同マネージャーは6月3日にゼンムリの本チームのサイトを来訪し、朝日副団長と今後の復興期の保健医療分野の協力について意見交換を行いました。なお、同マネージャーはキャンプ・サイト周辺での日本チームの知名度の高さに驚嘆していました。UNOCHAとしても周辺住民に対する日本チームの貢献度を十分認識したものと考えます。

⇒別添11：OCHA Situation Report No. 8

④ 活動地域住民にチームの活動が認識、評価されていたか

医療チームは、アルジェリア入国時の空港でのテレビ等の取材に始まり、現地サイトでは10回以上に及ぶテレビや新聞、ラジオからの取材を受け、紙上やテレビを通じて取り上げられました。このようなメディアによる報道から、医療チームのアルジェリア国内でのプレゼンスはたいへん高いものとなり、その貢献は広くアルジェリア国民も知れわたったものと思われまます。⇒別添9-2：医療チーム マスコミ報道件数一覧

⑤ 被災国自治体にチームの活動が認識、評価されていたか

また、日本大使がブーメルデス県知事に面会した際、医療チームの活動サイトについて十分なセキュリティー体制を確保するよう依頼しましたが、これに対して同知事より、（救助チームも含め）日本チームは震災当初から派遣してもらい感動している。被災者及びアルジェリア国民からの深い感謝の気持ちを日本に伝えてほしいとの発言がありました。これはアルジェリア当局にしっかりと医療チームの活動が評価されたことを意味し、

医療チームのプレゼンスはしっかり確保されています。

また、ブーメルデス現知事の指示により、右発言の数日後、医療チームのテントの隣にブーメルデス県からキャンプ・サイトに係わる行政統括責任者（Administrator）ほか数名が派遣（キャンプ内宿泊）され、医療チームの診療を待つ連日の長蛇の列を朝夕目の当たりにすることとなり、チームのプレゼンスと貢献を認識せざるを得なかったものと察せられます。

⑥本邦にてチームの活動が認識、評価されていたか

本邦でのメディアの報道振りから広く日本の国民にも医療チームの活動が認識されたと思われま。⇒別添 9 - 2 : メディア取扱件数

⑦事務局はチームの活動について最新情報を国民に提供したか

救助チーム同様に、現地サイトから得た情報を適宜プレスリリースやホームページを通して国民に提供しました。⇒別添 8 : ホームページ掲載記録・実績

第3章 外部有識者による評価

本章は、隊員による自己評価、事務局による評価の結果を踏まえ、現地調査に基づいて行うものである。現地調査は、外務省の調査団と同時に行われ、本評価者は2004年1月10日に関西空港を出発し、フランスのパリで乗り換え、翌11日アルジェリアの首都アルジェ着、現地の関係各機関や救助チーム及び医療チームの活動現場を視察し、意見聴取を行い、16日に帰国した。この評価者自身の日程からして、まず、救助チームの第1陣が派遣決定から36時間余、地震発生から47時間余で現地で活動しているのは隊員たちの疲労度なども考えると驚異的に思える。そして、現地の人々の評価も、遠い日本からいち早く駆けつけてくれ、しかも、生存救出者があったことに対して極めて高いものであった。次に、医療チームについても、迅速に派遣され、われわれ評価調査団も現地調査のため警備の人とともに高速道路を走り、山道と時りがたがた道を走ったが、その道を毎日1時間余をかけて往復し、砂埃等にまみれながらの悪条件下で診療に従事し、現地住民に感謝されていることは、そのご苦労とともに、高く評価される。

本評価は、事務局及び外務省調査団と共同で行った関係各機関等との英語→フランス語またはアラビア語、フランス語またはアラビア語→英語という正式の通訳を交えた質疑応答のほか、本評価者が行ったフランス語による聞き取りをもとにしている。

1 評価結果

(1) 救助チーム

救助チームの派遣目的及び任務は、アルジェリアの地震災害における人的(肉体的・精神的)被害の軽減であり、そのため、アルジェリア政府や他国援助機関と協力して地震被災者の捜索、救助、応急措置、安全な場所への移送などの活動を行うことであった。

救助チームは、災害発生から72時間までは全員が継続的に救出活動を展開し続け、しかも、交代制でスムーズに行ったことに対し、現地で作業を見守っていた住民達からの評価は極めて高かった。各国政府や民間を含め約40チームが救援活動を展開し、生存者の救出は全体で15名であった。15名の内8名はいち早く駆けつけたフランスの60名編成の救急隊が救出した。同じく飛行距離2時間足らずの西欧のオーストリア、英国、スペインのチームは日本チーム以上の規模であったが、日本同様に1名を救出した。日本より規模の大きい南アフリカやロシアには生存救出者はいない。

生存救出者15名という数は全体から見ればごく少数である。アルジェリアの場合も、阪神淡路大震災の場合と同じく、まず隣近所で助け合い、次に公的救助がきた、という。それでは、外国からの救助隊の派遣は、効率と費用の観点とどのような折り合いをつけるべきなのだろうか。

今回の評価の枠組みは派遣国の視点から組み立てられているように思われる。しかし、生存

救出者がゼロであっても、外国からの救助隊の活動が被災国及び国民の目にどのように映ったのかが評価の核心であり、評価の枠組みをこれと関連づけて見直すべきであろう。その意味では、広報は極めて重要であり、まず外国救助隊の存在そのものが被災者に広く知られていなければならない。その点では今回の活動についての日本の広報は成功していた。

住民の反応は、ブーメルデス県の関係者のほか、たとえば首都アルジェの大聖堂はフランスを代表する建築家ルコルビジエの作品であるが、そこでの住民からのヒアリング等を集約すると次のように言える。異口同音に言ったことは、遠い日本から来てくれたことに自分たちはとても励まされ、多くの国の救助チームが来たことによって自分たちが国際的に孤立しているのではないということを知り嬉しかった、ということである。つまり、費用対効果を超えるところに、海外救援の第一義的意味があり、この点では成功していた。

(2) 医療チーム

医療チームの派遣目的は、救助チームと同じく、アルジェリアの地震災害における人的(肉体的・精神的)被害の軽減であった。全体的な評価については、本評価者も、事務局評価と大略同様な評価をしている。外部評価調査団は、被災者のテントが張られ、医療チームがキャンプを設け活動したゼンムリ中心部にあるサッカースタジアムを視察したが、既にきれいに整地され、何の活動の痕跡も見い出せなかった。また、付近住民との接触もできず、直接の聞き取りはできなかった。日本の医療チームの活動に関する現地住民の評価は、主として現地医療関係者からのものであるが、極めて高いものであった。詳細な医療チーム活動報告書に自己評価と提言があり、本評価者もそれらの提言等が十分に検討され、今後に生かされることを期待する。

2 教訓・提言

アルジェリアについては、災害時に起きがちな窃盗や暴行、さらには大規模な騒動などの他に、反政府運動が続きテロ等による治安の悪さが心配されていた。結果的にはいずれも問題なく無事に任務を終了し得たことは喜ばしい。

今回初めて行われた夜間診療について触れておきたい。夜間診療は一般的に隊員の健康管理や昼間の診療への影響を考えれば必ずしも望ましいことではないように思えるが、余震による被害を考え夜間診療を決断した医療チームの判断は医療従事者としての熱意から出たものであり、高く評価され、尊重されるべきである。

なお、一般的に、治安に問題のあると思われる国における活動については、赤十字・赤新月社との協力関係をもう少し模索してみる価値があるであろう。

また、緊急援助、復興、開発という災害サイクルを考慮すれば、緊急援助と開発援助を初めからもっと連動させるべきである。そうすることで開発援助もスムーズに開始することができる。

最後に、本評価者は1995年1月の阪神・淡路大震災以来、同地で観察してきており、海外の災害救援の民間団体にかかわってきたので、災害救援の意味については、単なる費用対効果では計ることのしれないものがあることを痛く感じている。被災者の痛みをわがことのように感じる者のひとりとして、日本の緊急援助活動が更に充実することを期待するものである。

付 属 資 料

- 別添1-1：救助チーム事前チェックリスト
- 別添1-2：医療チーム事前チェックリスト
- 別添 2：現地評価調査ヒアリング結果
- 別添 3：被災地域地図
- 別添4-1：救助チーム帰国隊員アンケート結果
- 別添4-2：医療チーム帰国隊員アンケート結果
- 別添5-1：救助チーム隊員リスト（第1陣）
- 別添5-2：救助チーム隊員リスト（第2陣）
- 別添5-3：医療チーム隊員リスト
- 別添 6：各国チーム救助実績一覧
- 別添7-1：救助チーム携行機材リスト
- 別添7-2：医療チーム携行医薬品、資機材リスト
- 別添 8：救助チーム及び医療チーム資機材写真
- 別添 9：メディア別取扱い件数一覧
- 別添 10：医療チームローテーション表
- 別添 11：OCHA Situation Report No. 8
- 別添 12：ホームページ掲載記録
- 別添 13：事後評価調査概要

別添 1 - 1 : 救助チーム事前チェックリスト

救助チーム事前チェックリスト

(-----は適用外)

チェック事項	日 時	経過時間
● 災害発生	5月22日03:44(現地時間21日19:44)	-----
● 第1報入手	5月22日06:20(現地時間21日22:20)	発災から2時間36分
● 派遣決定	5月22日14:45(現地時間22日06:45)	発災から11時間1分

● 出発日時	(第1陣) 5月22日21:55(現地時間13:55) (第2陣) 5月23日11:10(現地時間23日03:10)	決定から7時間10分 発災から18時間11分 決定から20時間25分 発災から31時間26分
● 活動開始	(第1陣) 5月24日03:20(現地時間23日19:20) (第2陣) 5月24日12:10(現地時間24日04:10)	決定から36時間35分 発災から47時間36分 決定から45時間25分 発災から56時間26分

別添 1 - 2 : 医療チーム事前チェックリスト

医療チーム事前チェックリスト

(-----は適用外)

チェック事項	日 時	経過時間
● 災害発生	5月22日03:44 (現地21日19:44)	-----
● 第1報入手	5月22日06:20	発災から2時間36分
● 派遣決定	5月24日08:25	発災から52時間41分

● 出発日時	5月25日21:55	決定から37時間30分 発災から90時間11分
● 活動開始	5月28日01:04 (現地27日17:04)	決定から88時間39分 発災から142時間44分

別添 2：現地評価調査ヒアリング結果

1月10日（土）

●11：30 浦辺大使

- (1) 国際緊急援助隊(JDR)は何よりも迅速にチームを組織して日本を出発し、現地にて適切な場所を確保することが重要。当時健康管理のため一時帰国していたが、駐日アルジェリア大使に協力を願い、満席であったローマーアルジェ間のフライトを救助チームのために空けてもらい、同チームの先発隊に必要な席を確保した。
- (2) せっかく遙か遠くから日本チームがアルジェリアに来て被災地で救援活動を行うのであるから、それを市民や政府に知ってもらうことが大切であり、知ってもらわなくては意味がなく、援助していないのと同じ。認知され、被災者のみならず、アルジェリアの市民、政府関係者にありがたいと思ってもらうことが重要。そのため、救助チーム及び医療チームの到着時にはアルジェリアのメディア関係者を空港に招集するよう事前に手配し、空港にてメディアを通じて日本チームの到着を伝え、実際にその模様がその日の夜にテレビにて全国放送された。
- (3) 医療チームのサイトとなったゼムリの被災民キャンプでは、日本のチームの他にアルジェリアのチームや他のチームも活動していたが、地元の多くの被災民の方々が日本のチームに診てもらいたいと言っていたと聞いている。日本チームの組織的かつ機能的で素早い診療と医療テントの快適性が好評だった由。
- (4) 救助チームはトルコチームと合同で救助作業をしたが、トルコ大使は日本の救助方法や技術を賞賛していた。例えば、倒壊建物の上部から捜索するのではなく、横から棒カメラを使用して、閉じこめられている犠牲者とコミュニケーションを取りながら作業を進める点など。
- (5) 医療チームが現地に診療所をセットアップした日の帰路、大きな余震があった。報道では現地に更に被災者が増えていると伝えており、医療チームは、夜間であったが、サイトに戻りたいという意向が強く、JICAも既に了解したと言っているという。大使としては留めることも考えた。地震発生後3日目くらいから、被災地に集まる人々を狙ったテロ行為が出始めていた。医療チームの任務を達成することは重要であるが、無傷で活動を終了して帰国することが重要。実際に他の国のチームに被害(物資の不法没収等)もあった。

(質 疑)

宮崎団員：チーム到着時のメディアの招集手配はチームの活動に関して広報することが重要と認識しているためと理解してよいか。

大 使：そのとおり。アルジェリアのメディアに対してこちらからそのようにしないと、彼らは日本チームが来ていることさえわからない。

杉下団長：その広報効果は。

大 使：今回の日本チームの救援に関する広報効果は大きかった。UNOCHAの各国チームの展開状況を報じるWebでも日本チームの到着がいち早く載った。これはJDR始まって以来のことではないか。これまでは、他国のチームが救援活動を展開して、最後に日本チームが来るというのが通常であった。また、そうでないと財務省が派遣を認めないという時期もあった。今回の地震で公邸も被害を受け、一時的にホテルに滞在したが、同じホテルに長期滞在する民間の駐在員などからも、アルジェリアの取引先から日本の救援に対して感謝されることが多く、(取引先との良好な関係の維持促進の点から)ありがたいとの話を多く聞いた。これも一つの広報効果と考える。

杉下団長：今回は治安に問題のある地域でのJDRの活動であり、チームの安全確保と国際貢献のバランスをどう考えるか。

大 使：日本の社会は、JDRに関してもJICAの専門家についても、安全を求める度合いは他国に比べてかなり強い。治安の悪い時期に日本の専門家が一時退避したが、それを解いたのはJICAが一番最後。JICAの理事などに派遣の再開について話してもアルジェリアの高い危険度を理由に認めてもらえなかった。このような状況から、JDRチームに対して警備を必要とする度合いも大きい。一人でもチームの隊員が負傷でもすれば、以後のアルジェリアへの派遣にも大きく影響する。完全に安全ということはないが、取るべき措置は十分取る必要がある。他方、他の国のチームがどんどん現地で緊急援助を展開しているのに日本のチームだけが派遣されないというのも困る。当時、NGOからも現地にスタッフを派遣してよいかと聞かれたが、「治安上行けないところである」と回答した。しかし、JDRについて日本の国民の(治安の問題のある地域への派遣についての)許容度を測ることは難しい。

●15：00 外務省、内務省

外務省 Mr. Hanza Yahla-Cherif, Director, Asie Orientale Oceanne & Pacifique,
Ministry of Foreign Affairs

Mr. Rachid Sator, Deputy Director, same as above

内務省 Mr. Farid Aissioui, In charge of Study and Synthesis, Ministry of Interior

大使館 秋吉書記官

杉下団長：全体的な日本のJDRに対する評価を聞きたい。

Mr. Hanza：アルジェリア側が期待した以上のものであったことは明言できる。発災後、外務省では24時間体制を取っていたが、国際的な緊急援助に関しては在日本大使館及び駐日アルジェリア大使からの申し入れが最も早く、そのような日本の迅速な対応とアルジェリア

側の日本の技術及び経験に対する救援ニーズが一致したことが、日本チームの迅速な派遣につながったと理解しています。

坂田団員：震災対応の本部はどこに置かれましたか。

Mr. Hanza：首相府に置かれた。首相府に各省の非常事態対応局 (National Crisis Management Cell) が集められ、災害対策本部が設置された。国際チームの調整は外務省が所管し、例えば、日本からのチームが空港に到着したという情報を外務省が空港に配置している職員から入手した場合は、外務省は首相府の同本部にその旨を連絡し、首相が活動サイトを選定し、外務省に指示し、右を受けて外務省から空港に右指示を伝える、という指揮体系を取った。右プロセスを経て日本チームはブーメルデス県のサイトが割り当てられた。コミュニケーションの問題等はなかったと認識している。

坂田団員：こちらの理解では、空港ではUNOCHAの空港レセプションセンターがアルジェリア当局と協力して各国チームのサイト選定を進めていたと理解しているが、そうではないのか。(これに対しては上記説明が繰り返された) また、日本チームにブーメルデス県のサイトを割り当てた際に、アルジェリア当局のチームも同サイトに配置したか。

Mr. Hanza：アルジェリア側のチームを同じサイトに配置し、両チームのリーダーがコミュニケーションを取りながら作業する体制を整えた。

坂田団員：今次災害にかかわる被害の実態、救出記録、各国チームの活動記録などをまとめた公式な災害報告書は作成しているか。

Mr. Hanza：報告書は作成していないが、ブーメルデス県を訪問した際に当該データ、情報は入手可能と思う。

正木団員：日本のチームの活動は被災地の人々に十分認識されていると考えるか。

Mr. Hanza：被災地で自国民以外の外国の人間が救出作業をしているのを見れば、普通は二度とそのことは忘れない。

正木団員：日本チームの緊急援助活動によるアルジェリア側へのインパクトは。

Mr. Hanza：同チームの活動以降、日本からの援助にかかわる調査団が増えている。これもJDR効果の一つと考える。

1月11日(日)

●09:10 保健省

保健省 H.E. 保健大臣
Mr. Shergui M-Lamine, Dept. of International Relations保健省国際局長
Ms. Yedjoubi Afifa, Consultant in communication, Div. of Health Service
Ms. Benfeenatki Nacera, Director, Div. of Health Service
Ms. Hattali Nadia, Director, Div. of Planning and normalization
日本大使館 浦辺大使
秋吉書記官

保健大臣

- (1)日本の今次緊急援助に対して心より感謝する。日本のたいへん組織的なJDRの活動を高く評価するとともに、右活動はアルジェリアの科学技術の向上に寄与したと認識している。
- (2)どんな活動においても評価することは重要であり、それとおして進歩や改善が図られると理解している。その意味からも今回の評価調査の必要性は認識している。

(質 疑)

杉下団長：今回のJDRの活動をとおして、アルジェリア側に何らかの改善、例えば制度面などが見られたか。

大臣：保健省だけでなく、関係省庁すべてにかかわることであるので、この場では統一的な回答することは困難だが、日本のチームが極めて迅速で、効率的で、適切な活動を展開したことは確かである。日本からの提言等を今後の各分野の改善に役立てたいと考えている。

(場所を変えて実務者からのヒアリング)

坂田団員：医療チームを評価するためには被災状況にかかわる情報・データが必要であるが、保健省で入手することは可能か。具体的には、地域別の死者、負傷者、建物(特に病院ほか医療施設等)の倒壊状況、ゼンムリ病院の震災前の患者数、レスキュー活動による救出者数、遺体数、各国救援チームの活動内容など。

国際局長：保健省にはない。ブーメルデス県で入手が可能であろう。当時、15ほどの国際援助チームが活動していたが、その中で4～5チームが自己完結的な救援活動を実施していた。そのなかでも日本チームの自己完結の度合いはたいへん高かった。医療チームから供与された医薬品及び医療資機材にはたいへん感謝している。ゼンムリでの医療チームの活動は地元の被災者にたいへん感謝されたと認識している。

●10：30 住宅省（CGS、CTC含）

住宅省 Dr. Mohamed Belazougui, Director, CGS
 Dr. Mr. Moulay Ali B., Presidenta Director General（帰国研修員／筑波）
 Mr. Kamal Nasri, Deputy Director, Div. of Technical Regulations
 Ms. Benhabiles Simoucha, Deputy Director, Div. of International Coop.
日本大使館 秋吉書記官

杉下団長：専門家チームからの助言・提言はどのような点で有益であったか。

Mr. Belazougui：専門家チームから帰国前に仮の報告書(Preliminary Report)の提出があった。最終報告書を待っているが、いまだ届いていない。日本語版はインターネットで入手できたが、理解できない。最終レポートを送ってもらいたい。今回の評価調査に関する質問表をもらったが、最終レポートを受け取っていない現状では正式に回答できない。とりあえず回答したが、正式には最終レポートを受け取ってから提出したい。技術的にも経験の面からも専門家との意見交換は有意義であったが、残念ながら期間が短かった。最終レポートでは多くの有用な提言が含まれているであろう。

坂田団員：当時の専門家チームに確認する必要があるが、そちらのいう仮の報告書が専門家の正式報告書ということが考えられる。1週間ほどの活動で詳細の調査報告書を提出することは専門家チームのキャパシティーを越えている。

Mr. Moulay：今回のような短い期間では意見交換はできるが、その結果をもって何らかの改善につなげるのは難しい。専門家チームが滞在中に収集したデータの分析結果などを含めた詳細なレポートを期待していた。

Ms. Benhabiles：専門家チームが大臣にレポートを提出したときに、チームの代表は「このレポートはFirst impression」と言っていた。あるフランス専門家は偶然地震の2日前にアルジェリアに来ており、震災後数日の間に、アルジェリアの建築基準について詳細な調査をして、実際に災害現場にて不適切な事例を指摘・指導するような直接的な方法を取っていた。このような助言・提言の方法を求める。

Mr. Moulay：提出された簡略な報告ではなく、日本の技術と経験を生かした、今後のアルジェリアの長期的な地震対策に有用な提言がほしかった。地震対策に関していろいろな分野があるが、それらを検討するのに専門家チームの滞在期間は短すぎた。防災面、新技術（GISなど）などの分野に関しても助言、提言を期待したい。

杉下団長：本調査団は当該最終報告書の提出については約束できないが、そちらが述べられた内容については報告書に反映させる。

正木団員：専門家チームの活動はアルジェリアの市民にどのように認識されているか。

Mr. B ：専門家チームの活動の結果については、アルジェリアの大学関係者、研究者、エンジニ

アなどが参加したセミナーで報告され、テレビや新聞でも報道された。

Mr. Kamal Nasri：日本から地震の専門家が来るということを聞けば、一般の市民は日本の技術、経験への信頼から、安心する。

1月12日（月）

●10：10 ブーメルデス県防災局、内務省

防災局 Mr. Ladjici Toueik, Chief of Dept., Dept. of Civil Protection, Boumerdes
Mr. Yeddou Mohamed, Chief of Principal Unit, Dept. of Civil Protection
Mr. Kherrousi Zaine, Director, Dept. of Civil Protection

内務省 Mr. Aissiaoui Farid, Director, Div. of Study and Synthesis, Ministry of Interior

日本大使館 原書記官
秋吉書記官

杉下団長：今次地震災害に対して各国から救助チームが派遣されてきたが、防災局はこれらのチームとの情報交換・管理をどのように行ったか。

防災局：毎朝8時から定例のミーティングを開催し、防災局より各チームに対して被災情報を更新するとともに救助作業の進捗について概要を説明した。各国チームからは前日の救助作業の報告を受け、作業を進めるうえでの問題点や必要な便宜供与事項を確認した。

正木団員：国連との連携はどのように図られたか。

防災局：国連チームに対して防災局内にスペースを提供し、毎朝の定例会合を合同で行った。

正木団員：メディア関係者も同会合に参加していたか。

防災局：参加していた。

芹田団員：海外から民間の救援チームの支援もあったか。

防災局：フランスなどは官・民両方のチームが派遣されてきた。官ベースのチームだけでなく、多くの民間チームが派遣された理由としては、まず地理的な近さとともに普段からの両国間の緊密な関係がある。くわえて言葉の問題がないことがあげられる。

坂田団員：今次災害の被害状況(死者、負傷者、倒壊建物等)及び各国チームの活動・救助実績についてのデータを入手したい。

防災局：正式なデータは災害対策本部(National Cell of Crisis Management)が作成中である。同本部に確認して後日提供する。防災局としては復旧に関して同本部の方針(優先事業)に基づき学校の再開やインフラの整備など復旧・復興作業を進めている。

坂田団員：日本のJDRはいかにブーメルデス県の救援活動に貢献したと考えるか。

防災局：日本チームの貢献は認めるが、重要なことは救出された犠牲者の数などの数字ではなく、遙か遠い日本から震災直後の悲惨な状況の時にJDRが救援に駆けつけてくれたこと。そのことが被災した市民に対して心理的な支えとなった。それが重要であり、また、今次災害で国内の救助チームと各国チームが協力して救助活動を展開したが、それぞれの

チームが技術や経験を学びあえたことも有益であった。

坂田団員：各国チームの救助実績表のなかで日本チームの遺体救出数が記録されていなかった。5遺体を救出したことは事実であるので右修正をお願いしたい。また、トルコチームに関して生存者救出実績がなかったが、日本チームが生存者を救出したときはトルコチームとの合同作業であったため、トルコチームにも救出数を記録してもらいたい。

防 災 局：了解した。

芹田団員：今次震災にかかわる救援活動について誰がイニシアティブを取ったか。

防 災 局：どのような国も地震に対して十分準備できているという状況はない。アルジェリアでも平時から子供への防災教育(アラートへの対応、どのように災害時に身を守るか等)を実施している。同様に大人や諸機関・組織に対しても徹底を図っている。

Mr. Aission：震災の1時間後に通信が途絶したが、内務省はその数時間後に担当職員らを現場に派遣し、被災状況を把握するとともに市民に対して避難の手段などについて指導した。

正木団員：JDRが日本から派遣されたことについて一般の市民は知っているか。

防 災 局：日本チームが到着したことはテレビなどのメディアをとおして報じられている。ただ、各国の救援チームの活動期間は数日間であり、直接市民とコミュニケーションを取る機会は少ない。コミュニケーションができたのは救助作業を合同で行ったスタッフや救出された人などに限られる。ただ、日本チームのテントは子供たちの関心の的であったことは聞いている。

杉下団長：今回のJDRの派遣はアルジェリア政府から日本政府に対する要請に基づくものであるが、ブーメルデス県当局はその要請の課程にどのようにかかわったか。

防 災 局：まず内務大臣が現場に入り、その後大統領が現場を視察し、災害の規模を確認したうえで国際チームの支援が必要と判断し、要請した。

●12：40 ブーメルデス県保健局

保健局 Dr. M. Naamani, Director, Division of Health and Housing, Dept. of Health

内務省 Mr. Aissiaoui Farid, In charge of Study and Synthesis, Ministry of Interior

日本大使館 秋吉書記官

Director：日本の医療チームは迅速に派遣され、当局の求めに応じ、最も被害がひどかった地域をサイトで救援活動を行った。心より医療チームの活動に対して感謝する。当時のゼンムリのキャンプは既に被災民テントは撤去されて、供与された資機材についても同キャン

プから移動させた。現在はゼンムリ近郊の仮設病院(トレイラズ・サイト)で活用している。

杉下団長：日本チームの貢献に満足しているか。

Director：十分満足している。医療チームの活動期間中、ゼンムリだけでなく近郊の地域からも診療のために訪れた市民もあり、毎日多くの市民とチームが接することで、日本人とゼンムリ市民との距離が縮まるなどのよい影響が生じたと考える。

杉下団長：文化的な問題などは聞いていないか。

Director：聞いていない。

鈴木団員：被災民キャンプでは日本チームのほかにアルジェリアチームが医療活動を行っていたが、被災民はどのように判断してどちらのチームに診てもらったのか。

Director：アルジェリアチームは主に小児科、歯科の専門医を配置した。

鈴木団員：日本チームが大きな余震の後に夜間キャンプに戻り診療を行ったことについてどう考えるか。

坂田団員：その事実を知っていたか。

Director：知らなかった。

●13：45 ブーメルデス大学

ブーメルデス大学

Ms. Kesri Rafika, Rector, Univ. of Boumerdes学長

Mr. Tairi Abdelaziz, Vice Rector

内務省 Mr. Aissiaoui Farid, Director, Div. of Study and Synthesis, Ministry of Interior

日本大使館 秋吉書記官

学 長：震災当時の日本の救援活動に対して心より感謝する。同大学も甚大な被害を受けた。46名が死亡し、500家族の家屋が倒壊した。大学関係の建物のうち80%が被害を受け、倒壊したものもあった。

杉下団長：専門家チームの報告は届いているか。

学 長：専門家チームが去る6月に大学を訪れ、工学及び地震学関係者とともに活動した。被災した建築物の倒壊の形態などについて助言を受けたが、活動期間は短かった。正式な報告を受けているのは外務省であると思うが、大学としては報告書自体は受け取っていない。

正木団員：専門家チームの活動は市民に知られているか。

Mr. Aissin：専門家チームに関しては、内務省の危機管理局職員が一括して対応しており、大学関係者以外、一般市民との接触する機会はほとんどなかった。

正木団員：専門家チームの活動内容について大学の年報などに記載する予定はあるか。

Mr. Aissin：内務省の危機管理局の所管である。

ブーメルデス県庁

ブーメルデス県

Mr. Khenaka Azesoine, Director, Div. of Public Works, Dept. of C.P.

内務省 Mr. Aissiaoui Farid, In charge of Study and Synthesis, Ministry of Interior

日本大使館 原書記官

秋吉書記官

杉下団長：JDRの活動に対する印象を聞きたい。

Mr. Azosioine：日本チームの地震に関する経験の深さ、派遣の迅速性を目の当たりにしたことはブーメルデス県にとってよい刺激が与えられたと理解している。そのような日本チームを受け入れることができ、誠に光栄である。去る9月にスイスで開催された先般の震災に対する国際連携にかかわるレビュー会合にて日本政府に対して感謝の意を伝えた。

坂田団員：ブーメルデスでの被災状況に関して死者数、負傷者数、倒壊建物数などの詳細なデータが入手したい。

Mr. Azosione：死者約1400名、負傷者約11000名。被災後1.5か月間で28000テントを被災民に供給した。また、医療センターや精神センターも設置した。

坂田団員：ゼンムリは行政区画としては、市、町あるいは区となるのか。同じ行政区がブーメルデス内にいくつあるか。そのなかでのゼンムリの被災規模を確認したい。

Mr. Azosione：ゼンムリの行政区は「コミューン」。ブーメルデス県内に32のコミューンがある。各コミューンの被災規模を比較するデータは県にはないが、ゼンムリが最も被害が大きかったコミューンであることは事実である。

1月13日（火）

●10：35 ゼンムリ／救助チーム活動サイト

調査団は、救助チームの活動現場であったブーメルデス県ゼンムリ・エル・バーリのホテル「コンプレックス・ル・ロータス」を視察したが、冒頭、同ホテル・オーナーの兄アイサ・アダム氏より当時のホテル倒壊の一連の写真及びホテル見取り図を用いて被害状況の説明があった。引き続き行われた質疑応答の内容は以下のとおり。

坂田団員：震災時の死亡者、負傷者などゼンムリの被害状況を確認したい。

ゼンムリ・コミュニケーション職員：死者約180人、負傷者約1000人。

坂田団員：日本のレスキューチームはどのようにプロセスで搜索救助活動に着手したのか。

アダム氏：弟（ホテルのオーナー）や周りに集まった住民が犠牲者の埋まっているところを指摘して、それに従ってチームが作業をした。チームの隊員は住民とコミュニケーションを取りながら作業を進めていた。

坂田団員：日本チームの活動ぶりについてどのような印象を持っているか。

アダム氏：日本チームの隊員はただ黙々と救助活動に続けていた。チームの組織的な作業方法から多くを学んだ。シフト制を敷いて活動していたが、シフト間の交替も素早くかつスムーズだった。救助活動に対する士気も高かった。遙か遠くの国からゼンムリの犠牲者を助けるためにやって来てくれた日本チームに対し、いくら感謝しても感謝しきれない。（別れ際に、当時レスキューチームにホテルから手交された感謝状を改めて授与された。）

●11：30 ゼンムリ／医療チーム活動サイト

当時の医療チームの活動サイトであったゼンムリのサッカースタジアムを視察したが、被災民テントは完全に撤去され、また、地震の被害を受けたゼンムリ病院も取り壊されていた。同病院の機能は近隣の仮設病院（プレハブ）に移されていた。同プレハブ病院にて、ゼンムリ病院のウワリー院長ほか関係者にインタビューした。

坂田団員：日本の医療チームについてどのような印象を持っているか。

ウワリー院長：医療テントは違ったが、同じ被災民キャンプの中で一緒に働いた。日本チームがゼンムリのキャンプで被災民に医療サービスを提供してくれたことに対して心より感謝する。ゼンムリ病院も一部倒壊するなど機能不全の状態であり、日本の医療チームには右病院の一部機能を支援してもらった。

Dr. グラムリア(赤新月)：日本の医療チームの活動は極めて価値が高く、キャンプ内の医療チームの中でも最も目立っていた。患者からの印象は、日本チームの隊員は誠実でたいへんまじめで、安心して診てもらえるとうものであった。

坂田団員：キャンプ内外で、JDRに対する市民の評判はどのようなであったか。

Dr. ウワリー院長：一人ひとりに聞いた訳ではないが、毎日日本チームのテントに押し寄せる患者の波を見れば、市民がどれだけ日本チームを信頼していたかがわかる。

坂田団員：供与資機材については現在どうなっているか。

Dr. ウワリー院長：市の中心部のボーディムネール病院で管理し現在も活用している。

防災局教育・訓練センター

同センターにおいて被災概況詳細、震災に対する防災局の対応プロセス、海外からの救援チーム実績、海外からの物資供与実績などについて一連の説明を受けた。(別添3：内務省／防災局資料)

各国チームの活動実績一覧において日本チームの部分で、レスキューチームは61名と記載されていたが、医師及び救助犬の部分が「なし」となっていたため、医師2名、看護師2名、救助犬2頭、さらに医療チーム22名(医師4、看護士7、薬剤師1、他10名)について修正するよう依頼し、了解の旨を確認した。

1月14日（水）

●09：35 UNDP

UNDP Mr. Henri Francois Morand, Deputy Resident Representative,
Mr. Moncef Ghrib, Programme Advisor
Mr. Djahida Bdukhalfa, Programme Advisor
Mr. Francis Dubois, Officer in Charge
日本大使館 秋吉書記官

芹田団員：震災時、誰がUNの中でイニシアチブを取ったのか。

Mr. Francis：去る9月、スイスにてUNOCHAの主催でINSARAG(国際搜索救助諮問グループ)参加国が集まり、アルジェリア当局からの参加も得て、アルジェリア地震の際の搜索救助オペレーションに関してレビュー会合を開催した。会合では、あくまでUN/INSARAGは被災国政府当局の救助活動を支援すること、INSARAGガイドラインに沿って国際連携のもとで活動すること、OSOCCの効果的な運営などについて話し合った。

芹田団員：空港のレセプション・センターにおいて日本チームとのコンタクトはあったか。

Mr. Francis：個別にコンタクトはしていない。

坂田団員：空港到着からサイト選定までのプロセスのなかで日本チームはUNの調整にどのようにかかわったか。

Mr. Francis：詳しくはわからないが、在日本大使館と密接に連携して行動していたことが印象に残っている。

坂田団員：外務省で海外からのチームに対する活動サイトの割り当てをどのように行ったか聞いた際、担当官は、外務省の空港スタッフから各チームの隊員構成、規模等の情報を外務本省危機対策局に伝え、そこから首相府の危機対策本部に右情報を伝えられ、首相が具体的なサイトを外務省に伝え、空港スタッフを通じて各チームに指示された、との説明があった。私の理解では、そのプロセスのなかにUNあるいはレセプション・センターが関与するはずだが、それが欠けていたので確認したかった。

Mr. Henri：被災国当局とUNとの関係には微妙なものがある。主体はアルジェリア当局で、UNはあくまでサポートする側であるとし、調整することの重要性は皆わかっているが、誰も調整されたくないし、調整する側にもなりたくない。

斉藤団員：日本の医療チームについて知っていたか。

Mr. Francis：レスキューチームと一緒にカウントしていた。

正木団員：専門家チームを合わせて日本から3チーム来ていたが。

Mr. Francis：日本大使館の山田書記官をとおして日本からの3チームについてはよく知っている。

●11：05 トリビューン紙

トリビューン Mr. Ghazali Abdelkrim, Director, Edition
Mr. Tagaroute Madelkrim, Chief Editor
Mr. Gherab Hasene, Editor
Mr. Hamidouche Youmes, Journalist
Mr. Mamart Yahmaud, Journalist
Mr. Yakoul Hasna, Journalist
Ms. Nokrani Karim, Journalist
Mr. Nechti Lyes, Journalist
日本大使館 秋吉書記官

杉下団長：地震発生後、どのように正確な被災情報を入手したか。

Mr. Ghazali：毎日被災地へ記者を派遣し、記者はいろいろなソースから情報を入手するよう努めた。情報収集の体制としては、スタッフを①被災状況、②救援活動、③地震関連の専門家とのコンタクトという3タスクに分けて取材した。

Ms. Nokrani：日本の医療チームを取材したが、初日から精力的に活動しており毎日休みなく集中的に仕事をしていたという印象を持っている。

正木団員：日本チームのアルジェリアへの派遣についてどこから情報を得たか。

Mr. Ghazali：大使館の担当書記官から入手。

正木団員：日本から救助チーム、医療チームに加えて専門家チームがアルジェリアに派遣されたことを知っていたか。

Mr. Ghazali：日本が地震多発国であることはよく知られている。記者としては日本から専門家チームが来ると聞けば、彼らがどんな分析をするか大きな関心をもつ。

宮崎団員：医療チームを取材したときの小林団長の対応はどうだったか。

Ms. Nokrani：インタビューは長時間にわたったが、活動の詳細など十分必要な情報を入手できた。たいへんいい印象が残っている。

●14：00 公共事業省

公共事業省 Mr. Boudaba Youcef, General Director, Technical Control of Public Works
Mr. Dhidheli Zahir, Director, Research Department
Mr. Necib Hocine, Director, Roads Department
Mr. Daoud Abdehafid, Director, Airport Infrastructure Department
Mr. Djiar Youcef, Deputy Director, Bridge Department
Ms. Aiche Aicha, Inspector

日本大使館 秋吉書記官

杉下団長：先回のアルジェリア地震に対して日本から救助チーム、医療チーム及び地震関連の専門家チームが派遣されたが、右専門家チームの貢献度合いを伺いたい。

Mr. Boudaba：震災時の日本からの支援に深く感謝したい。日本の地震に関する経験及び技術はアルジェリアにとってたいへん有用と考える。

坂田団員：CTCから専門家チームの報告書は入手したか。

Mr. Boudaba：受け取っていない。ただ、公共事業省内にCTCのカウンターパート機関があるので、そちらに届いているかもしれない。同報告書については技術面での助言・提言を期待している。レポートの提出ではなく、我々としてはこれからの復旧・復興に必要な協力に関心がある。

正木団員：専門家チームのプレゼンスはどうだったか。

Mr. Dhidheli：心理的に日本チームの存在は大きく、激励の言葉をかけてもらったことが大きな励みとなった。日本からの救援は、我々の復旧・復興事業に対する邁進の度合いを加速させるのに大いに貢献した。

専門家チームは、救助チームや医療チームほどVisibleではないが、専門家チームがアルジェリア市民に与えた心理的な安定・安寧は大きい。専門家チームの支援を市民に伝えるのは我々の役割であると思っている。私たちの仕事はまだ終わっていない。今後も協力が続くことを期待する。

斉藤団員：専門家チームの活動は効率・効果的であったか。

Positiveな面ではメディアなどで広報されたためプレゼンスが大きくなったこと。
Negativeな面としてはレポートがないこと。

斉藤団員：派遣のタイミングは、及びチームの構成はどうであったか。

Mr. Boudaba：派遣のタイミングはたいへん迅速であった。日本は地震分野の技術に関してはアル

ジェリアと日本は友好国であると思っている。今後の協力の進展に期待したい。

●15：25 内務省

Commissary Saadi, Department of National Security

Captain Nenguelati, Department of Civil Protection

Mr. Aissiaoui Farid, Director, Div. of Study and Synthesis, Ministry of Interior

内務省にて以下のとおり最新の被害状況を確認した。

死者 : 2,287名

負傷者 : 11,450名

倒壊建物 : 208,043棟

被災家族 : 43,980家族 (約250,000名)

●17：20 大使報告

大使館 浦辺大使

今村参事官

秋吉書記官

杉下団長より次のとおり総括報告した。

(1) 今回の評価調査をとおりJDRがアルジェリア側からたいへん感謝されていることを感じた。

JDRの活動そのものによるところも大きいと思うが、くわえて在日本大使館を通じた広報活動にもよるところが大きい。日常からの現地メディアとの良好な関係が今回のような情報提供の迅速さにつながったものと思う。とにかく先方からは、遠い国から迅速に飛んで来てくれた、という印象が強かった。

(2) 治安に問題のある地域でのJDRが活動を展開する際の治安・安全リスクと人道的な国際貢献の関係(バランス)という問題がある。今回の医療チームは余震の被災者への救援を目的として夜間にアルジェからゼンムリに移動したが、この行動はアルジェ当局には知られていない。「行ったことへのチームとしての満足感」に比べて「成果(実際の夜間診療患者数)はそれほどでもなかった」ことを見ると、ハイリスク、ハイリターンの考え方からしても、そこまでやらなくてもよかったのではないか、という気もする。実際にこのときに何らかの事故が医療チームに発生していたとすると、そのときの責任の所在はどこに、誰にあったのか、大使なのか、団長なのか、事務局長なのか、が不明である。今後、問題が生ずる前に体制を整えておく必要がある。

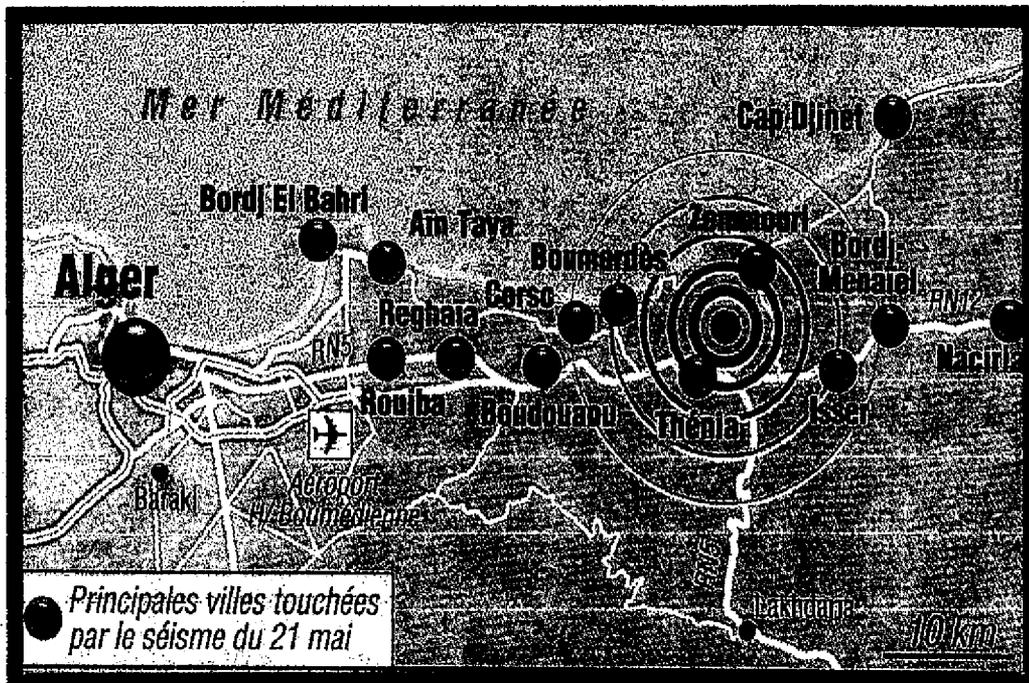
(3) 専門家チームの報告書について詳細版の提出を求められた。必ず送付すべき。

(4) 坂田より補完。(既述「報告要旨」のとおり)

REPUBLIQUE ALGERIENNE DEMOCRATIQUE ET POPULAIRE

MINISTRE DE L'INTERIEUR ET DES COLLECTIVITES LOCALES

DIRECTION GENERALE DE LA PROTECTION CIVILE



SEISME DU 21 MAI 2003

ALGER ET BOUMERDES

別添4-1：救助チーム帰国隊員アンケート結果

●は回答者数

1 派遣前に事務局から提供された現地の被災状況は正確でしたか。

正確だった ●●●●●●●●●●●●●●●●
ほぼ正確だった ●●●●●●●●●●●●●●●●
不正確なところが目立った 例えば→（具体的に記述して下さい）
わからない ●●●
<p>その他→（具体的に記述して下さい）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 提供情報はニュースの切り抜きのみであり、正確か否かの問題ではない。 ・ 実際に被害の大きかった所へ行っておらず、最初に聞いていた被害状況とは異なる場所で作業していたため。 ・ 仕方のないこととは思いますが、もうちょっと情報が欲しかったと思います。 ・ ただし入手できていることについて。 ・ 当時の最新情報を含み、非常に正確性があった。現地の気候情報も参考になった。

2 現地において日本大使館及びJICA事務所から提供のあった被災状況に係る情報は十分でしたか

十分だった ●●●●●●●●●●
ほぼ十分だった ●●●●●●●●●●●●●●●●
不十分なところが目立った ●●●● 例えば→（同）
<ul style="list-style-type: none"> ・ 日本チーム現地到着情報提供を依頼すると「まだ、震災現場に行っていないので」との回答ですべて伝聞情報のみであった。 ・ 被災地の範囲・規模が事前に伝えられていなかった。 ・ 地理的情報が少なかった。地方消防・警察の活動状況等の情報が少なかった。 ・ 一部しか見ていないのでよくわからない。
わからない ●
その他→（同）

3 捜索・救助実績（捜索範囲、建物数、要救助者発見数、救出数など）はチームのキャパシティー（人員体制、資機材など）に比べて適当でしたか

	チームのキャパシティー以上をカバーしていた ●●●●●●●●●●
	適当だった ●●●●●●●●●●●●●●●●
	<p>もっと実績をあげることができた ●●●●●●●●●●</p> <p>例えば→(同)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 可能であれば他の現場を捜索したかった。 ・ 救助活動の日数が少なかったため、余力があった。 ・ 日本の活動範囲が狭すぎる。現地でもっと情報を取り、分散して活動してもよいと思う。 ・ 少人数で多くのサイトを回ることも可能であったはず。 ・ 3小隊に別れ、人数も各小隊10名以上、機材も充実していたので、もう少し広い範囲の救助活動ができたと思う。 ・ 60名で1ヶ所の活動であったので、いくつかの小隊で異なる場所での活動も可能であったかもしれない。 ・ 他の現場でも作業をしたかった。 ・ 活動場所の大きさ(一度に活動できる人数)が小さかったため、直接作業できる人数は限られていた。1, 2個小隊で交代しても十分作業はできた。小隊単位で別サイトへの活動も可能である。 ・ 他の被災地を確認していないため詳しくは分からないが、捜索場所について一箇所のみならず、3つの小隊が存在していたので、これらを点在させても、捜索の人員としても不足なく行えたのではないのでしょうか。 ・ もう少し日程を延長して他の現場にも行くべきではないだろうか。隊員の疲労度はまだまだであると1週間は大丈夫だったと思います。
	わからない
	<p>その他→(同)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 3庁合同の班編成により効率よく作業が行えた。 ・ ホテルオーナーが手配した重機が2台あったため対応できたが、もし無かったら大変な重労働になった。 ・ 3交代でスムーズな体制で活動できた。 ・ 個々の技量、性格の知らない者同士が現地にて団結し、全力を出し切った結果としては適当といえる。

4 活動中の指揮命令系統は明確でしたか

	明確だった ●●●●●●●●●●●●●●●●
	ほぼ明確だった ●●●●●●●●●●●●●●
	不明確なところが目立った ●

<p>その他→ (同)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ かつ同時よりも移動時の方が危険を感じる時が多かった。 ・ 運転が荒かった。出発まで時間がかかった。 ・ ほぼ十分でしたが、なかなか意思が伝わらないのと、運転手の関係かわかりませんが、出発に時間がかかった。 ・ 通訳でうまく通じない時があった。 ・ 意思疎通を可能にするため、日本語が可能な通訳が良い。 ・ 移動がきつかった。 ・ 今回のような活動ではほぼ十分といえると思うが、分散に注意するともう少し必要と思う。 ・ 通訳の通訳となり、正確な内容が伝わらない。日本語→現地語の通訳が必要。 ・ 車内での待機時間が長かった。お国柄なのか運転が荒い。

7 自分の捜索・救助技術は現地での救援活動に十分対応できましたか。

十分対応できた ●●●●●●●●●●●●●●●●
ほぼ対応できた ●●●●●●●●●●●●●●●●
<p>一部対応できないところがあった ●●</p> <p>例えば→ (同)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ もっと情報収集をし、少人数の班で編成し、たくさんのサイトでサーチ・レスキューが実施できたと考える。 ・ 資機材の応用した使用法を知らなかった。
<p>対応できない部分が多かった</p> <p>例えば→ (同)</p>
わからない
<p>その他→ (同)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 体力、気力があれば特に問題ない。 ・ 資機材については一度しか取り扱っていないものもあったが、すぐに扱えるようになった。 ・ 私の場合は、もう少し山岳救助の技術を取り入れたかったのですが、山岳を知っている小隊長でないと使えないということが分かりました。でも十分倒壊家屋等の現場でも通用することが実感できました。 ・ 警察・消防・海保とも協力し救助できた。

8 通信資機材等の携行機材は十分活用できましたか

十分活用できた ●●●●●●●●●●
ほぼ活用できた ●●●●●●●●●●●●●●●●

だいたい把握していた	●●●●●●●●
チームの一部の隊員が把握していた	●●●●●●●●●●●●●●
わからない	●●●●●●●●
<ul style="list-style-type: none"> ・周りでの動きについては、隊員レベルで把握している人は少ないのでは？ 	
その他→（同） <ul style="list-style-type: none"> ・情報は末端の隊員まで届いていない。要改善。 ・していなかったと思われる。 ・把握していたかもしれないが、末端の隊員にまで情報は届いていなかった。 ・日本チーム単体のみで活動していたので、情報は入ってきていなかったと考える。 ・もっと現地本部に積極的に情報収集に行くべきであると思う。 ・班員には細かい情報は伝わっていなかった。 	

11 治安状況について何か問題がありましたか

問題なかった	●●●●●●●●●●●●●●
身の危険を感じるほどの問題はなかった	●●●●●●●●●●●●●●●●●●
身の危険を感じた	
例えば→（同）	
活動の継続は困難と感じた	
その理由は→（同）	
わからない	
その他→（同） <ul style="list-style-type: none"> ・現場周辺に現地人が多数いたが、アルジェリア軍が配置しており、また現地人もある程度協力的であった。 	

12 怪我、病気などはなかったか。救助活動における休養の確保など業務環境に関する問題がありましたか

問題なかった	●●●●●●●●●●●●●●●●●●
ほとんど問題なかった	●●●●●●
業務遂行上、支障があった	
例えば→（同）	
わからない	
その他→（同） <ul style="list-style-type: none"> ・長時間の移動で身体の抵抗力が低い上に、独特な気候のため、下着を替えずに昼夜作業した者の中には、夜、汗が冷え体調を崩した者もいた。 ・医療チームのおかげで安心して活動できた。 	

い。せっかくの救助資機材も活用が制約され、ひいては生存者救出が手遅れとなってしまうかねない。

- ・ 緊急援助活動は、不断の検証と改善が目標達成のために重要であると思料されるので、今回の反省点を活かしてください。我々も引き続き協力させていただきます。
- ・ 今回最初の成田出発時点で JICA の用意してくださった個人装備はかなり充実したもので、今後も継続してほしいとともに、リスト表があれば、あらかじめ FAX 等で流して頂ければ（派遣準備が整っている所属へ）用意する側としては余計なものを除くことができ、ありがたいと思います。
- ・ 今回の出勤においては医療班、通信班、救助犬、隊の支援などシステムとして充実していたと感じる。ただ器はできたものの、中身についてはまだ改善の余地があると思う。また救急救命士の有資格者と医療班の連携についても研修・訓練するべきと思いました。
- ・ もっと長く救援活動を行いたかった。
- ・ 今回の JDR において、活動方針が明確にされていない。生存者の救出を第一目標とするなら、明らかに生存が望めない要救助者を発見した場合にその作業を中心に持っていくのはどうか。遺体回収の作業は最低限の人数で他の生存者を捜索する必要があったのではないか。遺体搬出作業を中心とすることで「他の生存者を救出するチャンスを失う」ことになす。隊員全体に方針を伝えるべきである。今後も遺体収容に重点を置くことはどうかと思う。
- ・ 現場での情報が隊員まで伝わってこない。隊員はただ作業するだけではなく、最新の情報に基づき活動している。効率のよい活動のためには必要である。
- ・ 医療チームとの合同編成は隊員にとっても救助活動にあっても有効でした。今後も同様の構成が望ましいと思います。
- ・ 現地で被災状況や他の救助チームの進展状況などもっと知りたかった。
- ・ JICA や医療スタッフの皆さんが食事や健康維持等細かな点まで気を遣っていただき感謝しています。おかげさまで誰一人けががすることなく任務をまっとうできました。
- ・ 今回、本部連携班、救助班、医療班、通信班と分けて活動したが、全てうまく連携がとれ、大きな成果をあげることができた。今後も今回の様な編成にしていきたいと思います。
- ・ 今回の派遣で、多くの方が JDR に携わっており、その方々のおかげで我々救助隊員が活動できて今回の成果につながったのだと改めて思いました。1点だけ参考になればと思います。9.11のアメリカ中樞同時テロの際は羽田や待機中空港には政府専用機がとまっていた。今回は民間機であったので乗り換えや出発時間に限界があり、到着時間に関係しました。政府専用機やチャーター機を使用すれば金がかかりますが、到着は早まり、生存者救出の可能性も大きくなると思います。

- ・ 現地の救助チームが積極的であったため、こちらの活動もスムーズに行うことができた。資材等は、もっと活用してもよかったと思う。
- ・ 現地の人とのコミュニケーションがとても難しいと感じた。後進国なのでなおさらそう思った。以後も先進国より後進国への出動が多くなるとも思うのでそのあたりをもっと見直すべきだと思います。また派遣後の情報も多少いただければ幸いです。
- ・ 小隊資機材の中にもレスキューツールを入れてもらいたい。(活動範囲がもっと広がる。)
- ・ 今回の個人装備として準備されたザックがたいへん役にたった。
- ・ 食料事情に関しても、レトルトパックや缶詰で困ることはなく、ありがたく感じた。
- ・ 第1陣の派遣時の携行資機材がエンジンカッターのみで、他国の救助隊の資機材を借用できなければ生存者の救出も困難なことになったと思慮されます。そのため、今後の派遣にあたっては、最低限の破壊資機材「削岩機、レスキューツール動力なし(ハンドポンプ)、ストライカー」の携行を提言させていただきます。
- ・ 救助犬は捜索活動のみならず、待機中の疲労した隊員にメンタル面での良い影響があったと思います。救助、医療、救助犬3者が一つとなった救助隊が国際的スタンダードになっている昨今、今後の派遣にも救助犬の帯同派遣を希望します。
- ・ 今回は移動が少なく、同一場所での活動であったため、うまく活動できたと思います。今後、小隊単位で移動する場合のことを考え、更に訓練・資機材の取り扱いの習熟に努めなければならないと思っています。

3 診療実績はチームのキャパシティー（人員、資機材、医薬品など）に比べて適当でしたか

	チームのキャパシティー以上をカバーしていた ●●●
	適当だった ●●●●●●●●●●●●●●●●
	もっと実績をあげることができた ●● 例えば→（同） - 救急ナースの背景が一樣なのは問題。耳鼻科、小児科、眼科、皮膚科などの豊富な臨床背景を持ったナースが揃えば、もっと効果があげられただろう。PMC では、それほど専門的な知識ではなく、むしろ最もありふれた各疾患をいかに正確に手際よくこなしていくかが大切。医 - 医薬品に偏りがあり、今回の地震においては不必要なものが多数あった。薬
	わからない
	その他→（同）

4 活動中の指揮命令系統は明確でしたか

	明確だった ●●●●●●
	ほぼ明確だった ●●●●●●●●●●●●
	不明確なところが目立った ●● 例えば→（同） - 移動時に、1 台の車に団長、副団長が 3 人一緒に乗っており、（住民デモによる道路の）ブロック時は不安だった。看
	わからない
	その他→（同） - 臨機応変な対応が求められたため、固定した業務分担ではなかった。業

5 チーム内の業務分担は明確でしたか（無回答1看）

明確だった ●●●●●●
ほぼ明確だった ●●●●●●●●
不明確なところが目立った ● 例えば→（同） -看護班において、その日その日の分担はしっかりとこなしていたと思うけれど、トータルでの各分担は意識していなかった。しかし、みんなで意見を出し合える点はよかった。看
わからない
その他→（同） -それぞれの専門分野を中心に手薄なところは皆でカバーするという分担ができたいたのがよかった。医

6 通訳、運転手などの現地要員は十分でしたか

十分だった ●●●●●
ほぼ十分だった ●●●
（ ）については人数的に不十分だった -通訳 ●●●●●ただし途中で充足 -通訳 ●●● -診療補助 ●
（ ）については技術的、能力的に不十分だった ●● -時に運転手の運転を危険と感じた。医 -かなりのスピードを出し危険と感じた。看2 -公衆衛生活動に着手したため、簡易トイレの件で通訳が不足していた。看
わからない
その他→（同） ●● -特に通訳は我々のチームの一員としてよいくらいよく働いた。できれば、彼らに我々のチームの特徴、背景などをもっときちんと伝えたり、ミーティングに参加してもらってコメントをもらうということもできればなおよかった。医 -日数がたつごとに通訳の方も慣れてきて、こちらの意図することを察してくれるようになった。通訳の方々にとっても助けられた。ドライバー、セキュリティーもよかった。看 -一部例外として両者を必要とされ、困惑する日があり、多少問題があった。医調

7 自分の担当業務について技術、知識、経験などの観点からに患者のニーズを十分満たして
 いましたか。(無回答 1 看、2 業)

十分満たしていた ●●
ほぼ満たしていた ●●●●●●●●●●
満たせない部分が多かった ● 例えば→ (同) -業務はともかく、知識・経験は未熟だった。看
わからない ●●
その他→ (同) -必要薬品で入手できないものがあった。薬 -現地医師団との交流によって情報を得ようと努めたが、慢性疾患のケアや保健行政に対 する知識の不足が患者のニーズを拾いきれなかった部分かと考える。医 -受付で多忙になると、患者への声掛けが不十分であった。なかなか言葉の壁もあって訴 えを理解できず、ニーズ的には満足とは行かなかった。看 -語学の問題で勉強させられた。しかし、自分なりに患者のニーズに応えられた。医調

8 JMTDR マニュアルに基づいて診療しましたか (無回答 2 看、3 業、1 医調)

マニュアルの方針に沿って診療した ●●
ほぼマニュアル通りに診療した ●●
参考程度にマニュアルを活用した ●●●●●●●●●●
ほとんどマニュアルは活用しなかった ● その理由は→ (同) -時間的な余裕がなかった。業
わからない
その他→ (同) -字が小さすぎる。医 -標準投与量が書いていない (例、メベンダゾール) 医 -携行医薬品がマニュアルと一部異なる。医 -マニュアル、カルテなどは迅速なアップデートが必要。(特にカルテ) 医

9 通信資機材等の携行機材は十分活用できましたか（無回答 1 看）

	十分活用できた ●●●●●
	ほぼ活用できた ●●●●
	<p>活用できない／しないことが多かった ●●●●●</p> <p>その理由は→（同）</p> <ul style="list-style-type: none"> －通信機材は無線機くらいが団員に活用されていた。国内連絡は各自がホテルから、公用私用とも電話、ファックスにて行った。Internet を活用できる場を提供したほうがよい。医 －総合的な災害対策を想定しているため多くの必要な物資が不足していた。リストで確認するだけでなく、中身の実物の確認を初日にきちんとすべき。医 －ニーズに必ずしも合わないかもしれないが、緊急用の挿管セットは揃えるべき。看 －最初にジュラルミンを開けて、災害に合ったものを現地へ運び込むことができれば、もう少し活用できた。看 －インマルサットの利用方法を理解していない。医調
	<p>一部足りなかった ●●●</p> <p>例えば→（同）</p> <ul style="list-style-type: none"> －薬品 －今後は隊員全員が連絡できるように無線（トランシーバー）などを各個人が携帯する。医調 －当初、リーダーと隊員の連絡ができないことがあった。業
	わからない
	<p>その他→（同）</p> <ul style="list-style-type: none"> －JICA 調整員の業務となっていた。業 －JDR の旗、帽子、が必要。業 －ジャケットとベストにはメディカル・チームとわかる標記があったほうがいい。業

10 隊員の生活環境・物資は質量ともに適当でしたか

	<p>適当だった ●●●●●</p>
	<p>ほぼ適当だった ●●●●●</p>
	<p>質の点で不十分なものがあつた ●●●</p> <p>例えば→ (同)</p> <p>－トイレの問題。業</p> <p>－朝、夕食がホテル内のみであり、きちんと食事は摂れるものの、飽きた。お昼は楽しみだった。看</p> <p>－宿泊ホテルが高額だった。(他に保安上問題のないホテルがなかったかもしれない)</p> <p>業</p> <p>－レトルト等で豚肉の入つたものがあり、アルジェリアでは不適當であつた。業</p>
	<p>量の点で不十分なものがあつた ●</p> <p>例えば→ (同)</p> <p>－ローカルスタッフも多いのでカップを増やすべき。業</p>
	<p>わからない</p>
	<p>その他→ (同)</p> <p>－非常に満足しえる状態でした。医</p> <p>－宿泊場所を確保してくれた大使館には感謝したい。昼食については先が読めない部分があるので致し方ないが、日にちごとの分配がもう少し均等であればよかった。(最後が少し豪華だったので。逆よりはいいですが。) 医</p> <p>－現地でのどのように隊員がお金を使い生活していくのか等、金銭のことについて事前に詳しく知っておきたい。導入研修時に説明してもらいたい。看</p>

11 現地災害対策本部、現地医療機関、援助機関、NGO等の活動内容について最新情報を把握していましたが

	把握していた ●●●
	だいたい把握していた ●●●●●●●●●●
	チームの一部の隊員が把握していた ●●●●●
	わからない
<p>その他→(同)</p> <p>－混沌とした状態であった。医</p> <p>－現地政府による対策本部がほぼ機能していなかった。状況説明は、逐次、報告を受けていて十分だった。医</p> <p>－チームの一部の隊員が把握し、ミーティングで話し合った。看</p> <p>－(現地対策本部がきちんと機能していなかったので仕方ないが)われわれのキャンプ地以外の被災状況、救援状況等、もう少し系統だった情報が欲しかった。ミーティング・ルームに掲示板、ホワイト・ボード、模造紙などを用意できないだろうか。医</p>	

12 治安状況について何か問題がありましたか

	問題なかった
	身の危険を感じるほどの問題はなかった ●●●●●●●●●●●●●●
	<p>身の危険を感じた ●●●●</p> <p>例えば→(同)</p> <p>－帰路途中、住民デモによる道路閉鎖。薬、看2、業</p> <p>－余震の発生で目の建物の倒壊、夜間診療帰路での住民トラブルによる交通渋滞等、今回はたくさんありすぎた。看2</p>
	<p>活動の継続は困難と感じた</p> <p>その理由は→(同)</p>
	わからない
<p>その他→(同)</p> <p>－外務省の方と一部隊員が住民による道路ブロックの際にバス外に出て喫煙をしていたと報告があり、安全管理としてはかなり重要な問題と受け取っている。看</p> <p>－テロリストの多い危険地帯であったが、セキュリティー面で一部禁止事項が厳しいと感じたが、逆に危険を感じずに済んだことは配慮をいただいていることと思う。看</p>	

13 業務環境について何か問題がありましたか (無回答1看)

問題なかった ●●●●●●
ほとんど問題なかった ●●●●●●●●●●
<p>業務遂行上、支障があった ●●</p> <p>例えば→ (同)</p> <p>－カルテをその都度、宿泊所へ持ち帰ったため、治療継続性が失われている。2日分の薬の処方で快方に向かい、再び来ないことを前提にしている。不変、悪化した患者が出た場合、他の診療機関と協議、紹介しなければならない場合、診療に問題を生じ、クレームをつけてきた場合に同対処するのか。現在のカルテ体制は、疫学の調査・研究を前提としており、患者情報が患者に還元されていない。根本的に考え直すべき。患者さんのことを本当に考えた診療体制になっているのかどうか、根本的に検証を要する。医</p> <p>－診療記録のコンピューターへの打ち込み作業などは、災害急性期の休養時間を割いてまで行うべきことであろうか。医</p> <p>－日々のミーティングが長すぎたため、隊員の休息が不十分であり、健康管理の上で体調を崩したり、崩しかけたことが多かった。翌日の日報に差し替えられるものは日報をもっと活用すべきだった。看</p> <p>－最終日は診療しないことになっていたが、医師1名が個人で勝手に行っており、(他隊員は全員作業をしていた)、データ入力や他患者への影響も考慮し、アルジェリアチームへトランスファーするなどしていくべきだった。看</p> <p>－粉塵ダストにより隊員が体調を崩しやすい状況であった。看</p> <p>－フランス語、アラブ語による意思疎通が難しく、細部までの伝達は不足している通訳に頼る環境だった。業</p>
わからない
<p>その他→ (同)</p> <p>－トイレの問題。医</p> <p>－あえて言えば、トイレ (公共、チーム用) とチームテント裏のどぶ。医2</p> <p>－強いてあげるなら、現場の手洗いとトイレ。看</p>

17 PDM と同様に事前に配布した緊援隊評価調査表の項目で「調査事項」及び「必要データ」の部分は適当だと思いますか。 (無回答 1 看)

	適当だと思う ●●●●●●●●●●
	調査事項が足りない／不適當 ● 例えば→ (同)
	必要データが足りない／不適當 例えば→ (同)
	わからない ●●●●
	その他→ (同) ー 発災 1 - 2 週間、途上国でこのような統計学的数値を担当者に求めても無理なことは皆が知っているのに、なぜ執着するのか。stereotype はこちら側ではなかろうか。医 ー 指標そのものにどのくらい意味があるのか。不明確なものが多かった。医

18 その他

(1) 一般

- 団長、副団長を中心によくまとまっていた。(医)
- 今後まだまだ改善の余地は多い。十分な準備期間を持って行う活動ではないので、できるだけシンプルで、ムダのない構成にすべき。(医)
- 医療チームの目的と原則を明確にし、何が優先事項なのかを定めて、冷静で論理的な意思決定がもっとなされるべき。たとえば、夜間ミッションに関しては、救急処置、クリニックの運営、安全管理、ectのうち、どの項目を優先して判断すべきであったのか。本当に(医療チームが活動を展開するうえで)最大の山場(好機)であったのか。(医)
- チームの協調性を強く訴え、全隊員に把握させ、個人プレーをなくすよう努めるべき。(医調)
- チームにはさまざまな人間がいる。それをどのようにリーダーが、あるいは各人が支えあったり、コントロールするか、心理的、身体的ケアをしあうかといった研修が必要。(現実的には)短期なので、2-3日で(リーダー等が人材を)見極め、適材適所主義で良い。(業)

(2) 活動報告書

- 最終日に相手政府への提言(報告書)とJICA提出用の報告書の締め切りについて、一悶着あった。三井氏の指摘の通り相手国への報告、提言、指摘のほうを重視すべきと考える。JICAへの日本文の報告は後日でもよい。相手国への提言の作成にもっと全体協議、討議時間を割くべきであった。(医)

(3) 指揮命令系統

- 今後も自己完結型のミッションを行うのであれば、軍隊組織に準じるような、迅速で指揮命令系統の整った集団に育成すべき。(医)

(4) チーム構成、隊員配置

- 今後、亜急性期から慢性期をつなぐ活動をメインとするのであれば、チームの構成も、たとえば、①仏語、アラビア語を解するメンバーを増やす(最低限英語でのコミュニケーションは必要。通常時に語学研修を補助するような仕組みはいかがか。)、②マグレブの文化・社会背景を解するメンバーを増やす、③他のチームとの情報交換、調整、情報収集を担当するメンバーを増やす、などそれなりの対応が必要。(医)
- 現地見取り図、テント配置図作成任務、そして専門家チームへの橋渡し役として土木建築分野の隊員参加が必要。(業)
- 看護師、医療調整員、業務調整員については適材適所を考慮し、ある程度固定すべき。医療活

- 動が多忙なときに、受付方法などの引継ぎ説明時間を作る余裕はそれほどない。(業)
- 医療調整員の役割をもっと詳しく事前に伝えるべき。(医調)
 - 業務調整員(JICA以外)と医療調整員の違いがはっきりしない。(業)
 - いろいろな職種が入り混じっている中、もっと合理的に仕事(診療に関して)としてこなせるということがたくさんあった。例えば受付業務。(看)
 - JICA調整員と一般業務調整員は異なる。むしろ、一般調整員は医療調整員の仕事内容に類似。受付にはトリアージも含め看護関係も必要だが、現地の人たちの宗教や文化・習慣などを理解し、上手に患者をコントロールするなど、NGO経験者や協力隊経験者のほうが優れているように思う。このあたりの調整と研修が重要。(業)
 - 公衆衛生を行うにはそのメンバーと予算をつけるべき。(業)

(5) 資機材

- 欠陥機材(黄色テント)があり、しっかり点検が必要。(医調)
- 大工道具の増強、キャップの提供が必要。(医調)

(6) 仮設トイレ設置

- 被災地に仮設トイレを設置するため、その予算化と人員配置が必要。避難民キャンプ等の状況にもよるが、トイレのニーズに対応するための手段を派遣準備段階で考慮する。つまり、標準図や英仏スペイン等の訳付きの見積書、材料表などを準備し、災害時の対応を可能にしておく。実施不可能なら取りやめる。(業)
- 仮設トイレ設置の調査等に別枠の通訳が必要。(公衆トイレを設置する場合)業

(7) 日本国内への啓蒙、広報

- 日本の後方支援部隊は活動中間地点で活動概要、写真などを国内メディアに広く訴える等して日本国民の関心がアルジェリア被災民から離れないような努力をしたか。阪神淡路大震災の後の状況が9700km離れたところで進行していて、G8でも救援アピールが出された。PRの主目的はJDRの活動ではなく、被災民のことを日本国民にリマインドさせることです。(医)

(8) 連携・調整

- われわれのチームとしては、それなりに実績を挙げることができたと思うが、他の組織(アルジェリアの医師団)ともっと協同で活動できれば効果は大きかったと思う。(医)

(9) 夜間診療

- －余震に対して夜間診療を行ったが、現場のセキュリティーも十分であり、大使館のバックアップを受けて、移動も安全であった。(医)
- －予め十分な情報を団長等を通じて得ていたこともあり、皆それなりに配慮できた。夜間のミッションは本当に必要な活動だったのかどうか慎重な事後検討が必要。(医)
- －小林団長を通じてレスキューの概況やアルジェリアの一般情報を提供いただけたのは非常に重要であった。JICA 事務所が現地にいることを十分にカバーできていたと感じる。欲を言えば、到着日のミーティングに大使館の方にも参加いただき概況説明があればなおよかった。(医)
- －大きな余震が移動中にあり、その場をすぐ脱出できたが、チームの車両がホテルに向かうのと反対に、現地の救急車が十数台向かっていった。二次災害を考え、サイトに戻らなかったことは安全面等から考えてもよかった。しかし、夜間診療は皆にどのような判断で決定したかを説明することも遅く、また、多数の隊員は必要性があると考えていなかった。安全面のことを第一と考えると、行くべきではなかった。(看)

以上

別添5-1：救助チーム隊員リスト（第1陣）

	氏名 Name	所属先 Occupation	指導科目 Assignment
1	石樽 利光 Mr. Toshimitsu Ishigure	外務省国際緊急援助室長 Overseas Disaster Assistance Division, Ministry of Foreign Affairs	団長 Leader
2	中本 敦也 Mr. Atsuya Nakamoto	消防庁 Fire and Disaster Management Agency, Ministry of Home Affairs	副団長 Sub-leader
3	渡辺 道雄 Mr. Michio Watanabe	警察庁 National Police Agency	副団長 Sub-leader
4	羽山 登志哉 Mr. Toshiya Hayama	海上保安庁 Japan Coast Guard	副団長 Sub-leader
5	石田 幸男 Mr. Yukio Ishida	JICA国際緊急援助隊事務局災害援助課 Secretariat of Japan Disaster Relief Team Japan International Cooperation Agency	副団長 Sub-leader
6	廣瀬 竜夫 Mr. Tatsuo Hirose	警察庁 National Police Agency	通信 Communication
7	寺内 克元 Mr. Katsumoto Terauchi	警察庁 National Police Agency	通信 Communication
8	川島 一郎 Mr. Ichiro Kawashima	消防庁 Fire and Disaster Management Agency, Ministry of Home Affairs	中隊長 Captain
9	山田 哲夫 Mr. Tetsuo Yamada	消防庁 Fire and Disaster Management Agency, Ministry of Home Affairs	救急救助 Rescue
10	鈴木 忍 Mr. Shinobu Suzuki	消防庁 Fire and Disaster Management Agency, Ministry of Home Affairs	救急救助 Rescue
11	松原義夫 Mr. Yoshio Matubara	警察庁 National Police Agency	救急救助 Rescue
12	日笠照男 Mr. Teruo Higasa	警察庁 National Police Agency	救急救助 Rescue
13	長谷川提司 Mr. Teiji Hasegawa	海上保安庁 Japan Coast Guard	救急救助 Rescue
14	稲葉健人 Mr. Takehito Inaba	海上保安庁 Japan Coast Guard	救急救助 Rescue
15	中武貞美 Mr. Sadami Nakatake	警察庁 National Police Agency	業務調整 Coordination
16	玉越哲治 Mr. Tetsuji Tamagoshi	海上保安庁 Japan Coast Guard	業務調整 Coordination
17	深井久美 Ms. Kumi Takahashi	JICA総務部広報課 Japan International Cooperation Agency	業務調整 Coordination
18	原田勝成 Mr. Katsunari Harada	JICA国際緊急援助隊事務局災害援助課 Secretariat of Japan Disaster Relief Team Japan International Cooperation Agency	業務調整 Coordination

別添5-2：救助チーム隊員リスト（第2陣）

	氏名 Name	所属先 Occupation	指導科目 Assignment
1	山川 良博 Mr. Yoshihiro Yamakawa	警視庁警備部警備第二課 National Police Agency	救急救助 Rescue
2	大牟田 義貢 Mr. Yoshitsugu Omuta	警視庁警備部警備第二課 National Police Agency	救急救助 Rescue
3	羽賀 忠範 Mr. Tadanori Haga	警視庁警備部警備第二課 National Police Agency	救急救助 Rescue
4	小川 英文 Mr. Masayasu Ogawa	警視庁警備部災害対策課 National Police Agency	救急救助 Rescue
5	西 文宏 Mr. Fumihiko Nishi	警視庁警備部第二機動隊 National Police Agency	救急救助 Rescue
6	佐戸 聖史 Mr. Takashi Sado	警視庁警備部第三機動隊 National Police Agency	救急救助 Rescue
7	瀧 茂雄 Mr. Shigeo Taki	警視庁警備部第四機動隊 National Police Agency	救急救助 Rescue
8	天辰 孝太郎 Mr. Kotaro Amatatsu	警視庁警備部第五機動隊 National Police Agency	救急救助 Rescue
9	岩野 徹 Mr. Toru Iwano	警視庁警備部第六機動隊 National Police Agency	救急救助 Rescue
10	瀬戸 善史 Mr. Yoshifumi Seto	警視庁警備部第七機動隊 National Police Agency	救急救助 Rescue
11	石崎 文雄 Mr. Fumio Ishizaki	警視庁警備部第八機動隊 National Police Agency	救急救助 Rescue
12	大貫 龍夫 Mr. Tatsuo Onuki	警視庁警備部第九機動隊 National Police Agency	救急救助 Rescue
13	谷 英哉 Mr. Hideya Tani	警視庁警備部特科車両隊 National Police Agency	救急救助 Rescue
14	菅原 義美 Mr. Yoshimi Sugawara	仙台市消防局 Fire and Disaster Management Agency, Ministry of Home Affairs	救急救助 Rescue
15	大井 剛 Mr. Tsuyoshi Oi	仙台市消防局 Fire and Disaster Management Agency, Ministry of Home Affairs	救急救助 Rescue
16	舟木 重喜 Mr. Shigeyoshi Funaki	川口市消防本部 Fire and Disaster Management Agency, Ministry of Home Affairs	救急救助 Rescue
17	宮崎 克美 Mr. Katsumi Miyazaki	川口市消防本部 Fire and Disaster Management Agency, Ministry of Home Affairs	救急救助 Rescue
18	大塚 一孝 Mr. Kazutaka Otsuka	朝霞地区一部事務組合埼玉県南西部消防本部 Fire and Disaster Management Agency, Ministry of Home Affairs	救急救助 Rescue
19	金子 孝博 Mr. Takahiro Kaneko	朝霞地区一部事務組合埼玉県南西部消防本部 Fire and Disaster Management Agency, Ministry of Home Affairs	救急救助 Rescue
20	浦川 和幸 Mr. Kazuyuki Urakawa	東京消防庁 Fire and Disaster Management Agency, Ministry of Home Affairs	救急救助 Rescue
21	宮本 和敏 Mr. Kazutoshi Miyamoto	東京消防庁 Fire and Disaster Management Agency, Ministry of Home Affairs	救急救助 Rescue

	氏名 Name	所属先 Occupation	指導科目 Assignment
22	中藤 克哉 Mr. Katsuya Nakafuji	東京消防庁 Fire and Disaster Management Agency, Ministry of Home Affairs	救急救助 Rescue
23	安永 豊 Mr. Yutaka Yasunaga	東京消防庁 Fire and Disaster Management Agency, Ministry of Home Affairs	救急救助 Rescue
24	富岡 豊彦 Mr. Toyohiko Tomioka	東京消防庁 Fire and Disaster Management Agency, Ministry of Home Affairs	救急救助 Rescue
25	渡辺 憲司 Mr. Kenji Watanabe	京都市消防局 Fire and Disaster Management Agency, Ministry of Home Affairs	救急救助 Rescue
26	村井 広一 Mr. Hirokazu Murai	京都市消防局 Fire and Disaster Management Agency, Ministry of Home Affairs	救急救助 Rescue
27	小倉 章史 Mr. Shoji Ogura	第三管区海上保安本部羽田特殊救難基地 Japan Coast Guard	救急救助 Rescue
28	寺島 龍也 Mr. Tatsuya Terashima	第三管区海上保安本部羽田特殊救難基地 Japan Coast Guard	救急救助 Rescue
29	齋藤 一世 Mr. Issei Saito	第三管区海上保安本部羽田特殊救難基地 Japan Coast Guard	救急救助 Rescue
30	岡 大一郎 Mr. Taichiro Oka	第三管区海上保安本部羽田特殊救難基地 Japan Coast Guard	救急救助 Rescue
31	切通 亮 Mr. Ryo Kizushi	第三管区海上保安本部横浜海上保安部 Japan Coast Guard	救急救助 Rescue
32	原田 篤 Mr. Atsushi Harada	第三管区海上保安本部横浜海上保安部 Japan Coast Guard	救急救助 Rescue
33	廣瀬 功一 Mr. Koichi Hirose	第七管区海上保安本部福岡海上保安部 Japan Coast Guard	救急救助 Rescue
34	小楠 幸康 Mr. Yukiyasu Ogusu	第七管区海上保安本部福岡海上保安部 Japan Coast Guard	救急救助 Rescue
35	一田 大輔 Mr. Daisuke Ichida	第七管区海上保安本部福岡海上保安部 Japan Coast Guard	救急救助 Rescue
36	長濱 真吾 Mr. Shingo Nagahama	第十一管区海上保安本部 Japan Coast Guard	救急救助 Rescue
37	井上 潤一 Mr. Junichi Inoue	東京災害医療センター National Hospital Tokyo Disaster Medical Center	救急医療 Doctor
38	福島 憲司 Mr. Kenji Fukushima	埼玉医科大学総合医療センター Saitama Medical Center, Saitama Medical School	救急医療 Doctor
39	後藤 美智子 Ms. Michiko Goto	東京災害医療センター National Hospital Tokyo Disaster Medical Center	救急医療 Nurse
40	吉岡 留美 Ms. Rumi Yoshioka	(株) JA-LPガス情報センター	救急医療 Nurse
41	小林 正雄 Mr. Masao Koboyashi	外務省中東アフリカ局中東一課地域調整官 Ministry of Foreign Affairs	業務調整 Coordination
42	沖田 陽介 Mr. Yosuke Okita	JICA国際緊急援助隊事務局災害援助課 Secretariat of Japan Disaster Relief Team Japan International Cooperation Agency	業務調整 Coordination
43	大友 仁 Mr. Hitoshi Otomo	JICA国際緊急援助隊事務局災害援助課 Secretariat of Japan Disaster Relief Team Japan International Cooperation Agency	業務調整 Coordination

別添 5 - 3 : 医療チーム職員リスト

	氏名 Name	所属先 Occupation	指導科目 Assignment
1	小林 正雄 *1 Mr. KOBAYASHI MASAO	外務省中東アフリカ局中東一課地域調整官 Ministry of Foreign Affairs	団長 Leader
2	朝日 茂樹 Mr. ASAHİ SHİGEKI	弘前大学医学部公衆衛生学	副団長 (救急医療) Doctor
3	坂田 英樹 Mr. SAKATA HİDEKI	JICA国際緊急援助隊事務局災害援助課	副団長 (業務調整) Coordination
4	三井 孝次 *2 Mr. MITSUI KOJI	外務省経済協力局国際緊急援助室	評価 Evaluation
5	富岡 譲二 Mr. TOMIOKA JOJI	国立国際医療センター救急部	救急医療 Doctor
6	山畑 佳篤 Mr. YAMAHATA YOSHIHIRO	(株) 麻生飯塚病院	救急医療 Doctor
7	永井 周子 Ms. NAGAI SHUKO	京都大学大学院医学系研究科社会健康医学専攻	救急医療 Doctor
8	金澤 豊 Mr. KANAZAWA YUTAKA	長浜赤十字病院看護部	チーフナース (救急看護) Nurse
9	一木 あずさ Ms. ICHIKI AZUSA	特定医療法人慈泉会相澤病院救急医療センター	救急看護 Nurse
10	石田 昭子 Ms. ISHIDA AKIKO	J M T D R 登録看護師	救急看護 Nurse
11	寺村 佐穂 Ms. TERAMURA SAHO	J M T D R 登録看護師	救急看護 Nurse
12	山本 真弓 Ms. YAMAMOTO MAYUMI	J M T D R 登録看護師	救急看護 Nurse
13	中村 朱実 Ms. NAKAMURA AKEMI	日本医科大学付属病院	救急看護 Nurse
14	高岡 誠子 Ms. TAKAOKA SEIKO	大阪府立千里救命救急センター	救急看護 Nurse
15	渡邊 暁洋 Mr. WATANABE AKIHIRO	日本医科大学付属病院薬剤部	薬剤管理 Pharmacist
16	三木 淳 Mr. ATSUSHI MIKI	松阪地区広域消防組合消防本部松阪南消防署	医療調整 (救急救命士) Paramedic
17	東出 直明 Mr. HIGASHIDE NAOAKI	松阪地区広域消防組合消防本部松阪南消防署	医療調整 (救急救命士) Paramedic
18	前林 清和 Mr. MAEBAYASHI KIYOKAZU	神戸学院大学人文学部	業務調整 Coordination
19	中沢 真三 Mr. NAKAZAWA SHINZO	(株) 東海コンサルタンツ	業務調整 Coordination
20	大野 龍男 Mr. ONO TATSUO	JICA国際緊急援助隊事務局災害援助課	業務調整 Coordination
21	大友 仁 *1 Mr. OTOMO HITOSHI	JICA国際緊急援助隊事務局災害援助課	業務調整 Coordination
22	臼井 嘉一 Mr. USUI YOSHIKAZU	(社) 青年海外協力協会	業務調整 Coordination

*1 : 派遣中の救助チームから現地で合流

*2 : 派遣期間 (2003. 5. 30-2003. 6. 7)

別添6：各国チーム救助実績一覧

	国名	救助隊員	医療隊員	救助犬	生存者救助	遺体収容	備考
1	スイス	87	3	9	0	0	
2	フランス	245	11	21	8	48	
3	イタリア	60	0	6	0	4	
4	ドイツ	40	0	14	0	0	
5	スペイン	131	1	4	3	47	
6	オーストリア	156	4	53	1	8	
7	モロッコ	43	2	0	0	0	
8	リビア	25	6	0	0	0	
9	ポーランド	28	2	6	0	0	
10	ベルギー	72	0	7	0	0	
11	ポルトガル	31	0	6	0	0	
12	ロシア	76	0	0	0	92	
13	トルコ	25	0	1	1	0	*
14	スウェーデン	75	0	12	0	0	
15	チェコ	17	0	3	0	5	
16	スロベニア	3	0	0	0	0	
17	ルクセンブルグ	7	0	0	1	28	
18	日本	61	4	2	1	5	**
19	イギリス	94	0	6	1	7	
20	中国	35	0	5	0	0	
21	ギリシャ	33	0	0	0	7	
22	チュニジア	62	35	2	0	0	
23	韓国	21	0	2	0	0	
24	ハンガリー	10	0	4	0	0	
25	アイスランド	17	0	0	0	0	
26	オーストラリア	39	0	0	0	0	
27	エジプト	0	13	0	0	0	
28	南アフリカ	82	0	4	0	3	
29	キューバ	0	30	0	0	0	
	計	1575	111	167	16	254	

* 日本チームと合同で生存者を救出

** ドル子チームと合同で生存者を救出

別添7-1：救助チーム携行機材リスト

機材名	Tool	Quantity	cart No.	Total	容積	重量 (kg)
JDRヘルメット	helmet	12	1	12	0.205	16.8
JDRヘルメット	helmet	12	4	48	0.18	16
救助チーム用 雨合羽(上下) L(11), LL(9)	Gore-Tex raincoat	20	1	20	0.095	20
救助チーム用 雨合羽(上下) L	Gore-Tex raincoat	20	1	20	0.095	20
救助チーム用 雨合羽(上下) LL	Gore-Tex raincoat	20	1	20	0.095	20
救助チーム用作業服(JDRユニフォーム) L	JDR uniform	30	2	30	0.09	22
救助チーム用作業服(JDRユニフォーム) LL	JDR uniform	30	2	30	0.09	22
帽子(隊長用)	JDR cap	53	1	53	0.052	5
ベルト	JDR uniform belt	60	1	60	0.035	14
ズボン裾止め用バンド	JDR uniform bottom band	94	1	94	-	-
コードリール	cord reel (5A/125V)	3	1	3	0.09	27
投光器セット	floodlight	1	1	1	0.18	45
三脚	floodlight tripod	1	1	1	0.035	6
投光器セット	floodlight	1	1	1	0.18	45
三脚	floodlight tripod	1	1	1	0.035	6
燃料携行缶(ガソリン缶)	Fuel Container	1	1	1	0.039	3
ザック	personal equipment	35	6	35	0.199	21.7
ザック	personal equipment	21	5	21	0.124	14.6
エアータント(大型)	air tent (large)	1	1	1	1.51	230
エアータント(大型)用キャリア	carrier of air tent (large)	1	1	1	-	-
アルミ支柱2本、太パイプ6本組	parts of air tent	1	1	1	0.1	21
ベグ	parts of air tent	18	1	18	0.015	17
蛍光灯	fluorescent	2	1	2	0.184	42
テント用ファン 本体・カーテン入り	fan for air tent	1	1	1	0.091	26
テント用ファン 付属品	fan for air tent	1	1	1	-	-
テント	tent, living shelter	1	3	3	0.12	25
タープ(日除け用テント)	tent	1	2	2	0.036	10
簡易組立トイレ	toilet	1	4	4	0.139	22
折り畳み机(ポータブルテーブル)	table	3	2	6	0.113	13
折り畳み椅子	chair	6	2	12	0.14	13
シュラフ	sleeping bag	10	2	20	0.095	10
シュラフ	sleeping bag	20	2	40	0.19	27
防水シート	vinyl sheet	10	1	10	0.09	25
浄水器	water purifier	1	1	1	0.068	19
発電機	generator	1	2	2	0.249	59
乾パン	food	80	1	80	0.087	17
フルーツ缶詰(桃)	food	80	1	88	0.068	31
ソーセージ缶詰等	food	160	1	160	0.064	23.4
インスタントスープ等	food	508	1	508	0.064	11
割り箸、ゴミ袋等	table ware	500	1	500	0.082	17.3
カップそば等	food	226	1	226	0.082	7.5
レトルトカレー等	food	154	1	154	0.064	16
非常用保存アルファ米(五目ご飯)	food	95	3	95	0.021	3
非常用保存アルファ米各種	food	50	4	200	0.024	6.4
ミネラルウォーター	drinking water	24	30	720	0.026	13
ミネラルウォーター	drinking water	12	6	72	0.02	19
単1アルカリ乾電池	dry battery	100	1	100	0.011	14.5
単2アルカリ乾電池	dry battery	102	1	102	0.015	7
単3アルカリ乾電池	dry battery	200	1	200	0.005	5
単4アルカリ乾電池	dry battery	100	1	100	0.01	2
総合ビタミン	vitamin	20	1	20	0.01	3
ボウカムセット	fiber-scope	1	1	1	0.238	60
チェーンソーセット	chain saw	1	1	1	0.166	27
エンジンカッター	engine cutter	1	1	1	0.196	48
縛帯セット	rescue sling	1	1	1	0.28	71
ワイヤー梯子(ダンプ車入り)	wire ladder	1	1	1	0.186	19
救助用ロープ各種	rescue rope	1	1	1	0.08	19
チルホール	portable winch	1	1	1	0.183	62
担架類	stretcher	1	1	1	0.277	30
救助機材(1)A	striker set	1	1	1	0.296	75
救助機材(1)B	striker set	1	1	1	0.296	75
救助機材(2)用ケース	crow bar	1	1	1	0.227	74
投光器 A用	floodlight	1	1	1	0.305	56
投光器 B用	floodlight	1	1	1	0.305	56
投光器三脚(ダンプ車入り)	floodlight tripod	2	1	2	0.061	14
コードリール A(ダンプ車入り)	electric code reel	2	1	2	0.063	18
コードリール B(ダンプ車入り)	electric code reel B	2	1	2	0.063	18

機材名	Tool	Quantity	cart No.	Total	容積	重量 (kg)
燃料携行缶 (ダンプ・缶入り)	fuel container	2	1	2	0.091	9
工具セット (ダンプ・缶入り)	tool set	1	1	1	0.047	15
軍手等	disposable cotton gloves	100	1	1	0.309	41
ランプセット	hard case	1	1	1	0.209	46
テント	tent, living shelter	1	1	1	0.12	25
調理用ストーブ	cooking stove & Pan	2	1	2	0.039	6
ボウカメセット	fiber-scope	1	1	1	0.238	60
チェーンソーセット	chain saw	1	1	1	0.166	27
エンジンカッター用ケース	engine cutter	1	1	1	0.196	48
縛帯セット用ケース	rescue sling	1	1	1	0.28	71
ワイヤー梯子 (ダンプ・缶入り)	wire ladder	1	1	1	0.186	19
救助用ロープ各種	rescue rope,	1	1	1	0.08	19
テルホール	portable winch	1	1	1	0.183	62
担架類	stretcher	1	1	1	0.277	30
救助機材 (1) A	striker set	1	1	1	0.296	75
救助機材 (1) B	striker set	1	1	1	0.296	75
救助機材 (2) 用ケース	crow bar	1	1	1	0.227	74
投光器 A用ケース	floodlight	1	1	1	0.305	56
投光器 B用ケース	floodlight	1	1	1	0.305	56
投光器三脚 (ダンプ・缶入り)	floodlight tripod	2	1	2	0.061	14
コードリール A (ダンプ・缶入り)	electric code reel	2	1	2	0.063	18
コードリール B (ダンプ・缶入り)	electric code reel B	2	1	2	0.063	18
燃料携行缶 (ダンプ・缶入り)	fuel container	2	1	2	0.091	9
工具セット (ダンプ・缶入り)	tool set	1	1	1	0.047	15
軍手等	disposable cotton gloves	100	1	1	0.309	41
ランプセット	hard case	1	1	1	0.209	46
テント	tent, living shelter	1	1	1	0.12	25
調理用ストーブ	cooking stove & Pan	2	1	2	0.039	6
ボウカメセット	fiber-scope	1	1	1	0.238	60
チェーンソーセット	chain saw	1	1	1	0.166	27
エンジンカッター用ケース	engine cutter	1	1	1	0.196	48
縛帯セット用ケース	rescue sling	1	1	1	0.28	71
ワイヤー梯子 (ダンプ・缶入り)	wire ladder	1	1	1	0.186	19
救助用ロープ各種	rescue rope,	1	1	1	0.08	19
テルホール	portable winch	1	1	1	0.183	62
担架類	stretcher	1	1	1	0.277	30
救助機材 (1) A	striker set	1	1	1	0.296	75
救助機材 (1) B	striker set	1	1	1	0.296	75
救助機材 (2) 用ケース	crow bar	1	1	1	0.227	74
投光器 A用ケース	floodlight	1	1	1	0.305	56
投光器 B用ケース	floodlight	1	1	1	0.305	56
投光器三脚 (ダンプ・缶入り)	floodlight tripod	2	1	2	0.061	14
コードリール A (ダンプ・缶入り)	electric code reel	2	1	2	0.063	18
コードリール B (ダンプ・缶入り)	electric code reel B	2	1	2	0.063	18
燃料携行缶 (ダンプ・缶入り)	fuel container	2	1	2	0.091	9
工具セット (ダンプ・缶入り)	tool set	1	1	1	0.047	15
軍手等	disposable cotton gloves	100	1	1	0.309	41
ランプセット	hard case	1	1	1	0.209	46
テント	tent, living shelter	1	1	1	0.12	25
調理用ストーブ	cooking stove & Pan	2	1	2	0.039	6
地中音響探知器	sonar detector	1	1	1	0.051	15
削岩機	rock drill	1	1	1	0.208	90
削岩機	rock drill	1	1	1	0.163	49
削岩機	rock drill	1	1	1	0.163	49
レスキューツール (1/4) 油圧式	power unit	1	1	1	0.335	98
レスキューツール (2/4)	spreader	1	1	1	0.167	66
レスキューツール (3/4)	cutter	1	1	1	0.198	60
レスキューツール (4/4)	ram cylinder	1	1	1	0.026	22
電動ハンマードリル	electric hammer drill	1	1	1	0.047	24
日用品セット	daily necessity	1	1	1	0.095	31
日用品セット	daily necessity	1	1	1	0.095	21
日用品セット	daily necessity	1	1	1	0.095	34
日用品セットY0204ケース	daily necessity	1	1	1	0.095	32
ドクターズキッド	Doctor's TOOL	1	1	1	0.026	12
救助犬	Rescue Dog 1	1	1	1		
	Rescue Dog 2	1	1	1		
	Dog food	1	1	1		
			196		19	4,274

別添7-2：医療チーム携行医薬品、資機材リスト

	収納	機材名	在庫数
1		ドクターズキット00201	1
	上部1	ディスポーザブル 舌圧子 レギュラー	5
	上部1	ニュースタイ N3	2
	上部1	ニュースタイ N4	2
	上部1	ニュースタイ N5	2
	上部1	バンドエイド S (Junior/100枚入)	100
	上部1	バンドエイド L (200枚入)	200
	上部1	トランスポア 1インチ	1
	上部1	トランスポア 1/2インチ	1
	上部1	スキנקロージャー 6×75 (50枚/箱)	50
	上部1	ソフラチュール30×10cm	10
	上部1	三角布 105×105×150	1
	上部1	サージパッド 5インチ×9インチ	10
	上部2	駆血帯 ゴムチューブ	1
	上部2	翼付針セット 21G	2
	上部2	翼付針セット 25G	2
	上部2	ディスポ注射器 2.5ml	2
	上部2	ディスポ注射器 10ml	2
	上部2	ディスポ注射針 18G	2
	上部2	ディスポ注射針 21G	2
	上部2	ディスポ注射針 23G	2
	上部2	カテラン針 23G	2
	上部2	三方活栓 R型 R-1	2
	上部2	輸液セット (小児用)	2
	上部2	輸液セット (標準型)	2
	上部2	延長管 250mm (2.0ml)	2
	上部2	ソルラクト 1000ml	2
	底部	手術用マスク M-302S 滅菌済	2
	底部	ペンライト (ディスポ式)	1
	底部	手洗ブラシ NO.66 耐熱白ナイロン	1
	底部	薬袋 100×140×0.04mm (エムパック E-4・200枚/袋)	10
	底部	タイコス血圧計 DR-A 2	1
	底部	電子体温計実測式 抗菌防水 (MC100B)	1
	底部	聴診器 リットマンタイプ	1
	底部	滅菌済手術手袋 サンソフト6.5	1
	底部	滅菌済手術手袋 サンソフト7	1
	底部	滅菌済手術手袋 サンソフト7.0	1
	底部	ノーボン (ディスポ) K-1	2
	底部	オイフ (ディスポ) 6cm円穴	2
	底部	ビニール袋 (中間ゴミ袋)	4
	底部	外科セット (滅菌済)	1
	底部	手術用キャップ	2
	底部	イソジン 10% 250ml	1
	底部	採尿コップ 200ml	5
	底部	湿布薬	24
	底部	(ワンショット・60枚入)	60
	底部	キシロカイン 1% 20ml	40
	底部	ピクシリン 250mg 100Cap	100
	底部	ブルフェン 100mg 100錠	100
	底部	メモ用紙	1
	底部	JDRマークシール 大	1
	底部	JDRマークシール 中	3
	底部	軍手	1
	底部	ペン 赤、黒 (各1)	2
	底部	マジック 赤、黒 (各1)	2
	底部	ユニバーサル診断セット A-138.10.118	1
	底部	サムスプリント (ロール型万能副子) SAM488 108×488	2
	底部	ギブスシート	2

	収納	機材名	在庫数
2		ドクターズキットD0202	1
	上部1	ディスプレイザブル 舌圧子 レギュラー	5
	上部1	ニュースタイ N3	2
	上部1	ニュースタイ N4	2
	上部1	ニュースタイ N5	2
	上部1	バンドエイド S (Junior/100枚入)	100
	上部1	バンドエイド L (200枚入)	200
	上部1	トランスポア 1インチ	1
	上部1	トランスポア 1/2インチ	1
	上部1	スキנקロージャー R-1541 6×75 (50枚/箱)	50
	上部1	ソフラチュール30×10cm	10
	上部1	三角布 105×105×150	1
	上部1	サージパッド 5インチ×9インチ	10
	上部2	駆血帯 ゴムチューブ	1
	上部2	翼付針セット 21G	2
	上部2	翼付針セット 25G	2
	上部2	ディスポ注射器 2.5ml	2
	上部2	ディスポ注射器 10ml	2
	上部2	ディスポ注射針 18G	2
	上部2	ディスポ注射針 21G	2
	上部2	ディスポ注射針 23G	2
	上部2	カテラン針 23G	2
	上部2	三方活栓 R型 R-1	2
	上部2	輸液セット (小児用)	2
	上部2	輸液セット (標準型)	2
	上部2	延長管 250mm (2.0ml)	2
	上部2	ソララクト 1000ml	1
	上部2	ソララクト 1000ml	1
	底部	手術用マスク M-302S 滅菌済	2
	底部	ペンライト (ディスポ式)	1
	底部	手洗ブラシ NO.66 耐熱白ナイロン	1
	底部	薬袋 100×140×0.04mm (ユニパック E-4・200枚/袋)	10
	底部	タイコス血圧計 DR-A 2	1
	底部	電子体温計実測式 抗菌防水 (MC100B)	1
	底部	聴診器 リットマンタイプ	1
	底部	滅菌済手術手袋 サンソフト6.5	1
	底部	滅菌済手術手袋 サンソフト7	1
	底部	滅菌済手術手袋 サンソフト7.0	1
	底部	ノーボン (ディスポ) K-1	2
	底部	オイフ (ディスポ) 6cm円穴	2
	底部	ビニール袋 (中間ゴミ袋)	4
	底部	外科セット (滅菌済)	1
	底部	手術用キャップ	2
	底部	イソジン 10% 250ml	1
	底部	採尿コップ 200ml	5
	底部	湿布薬	24
	底部	ワンショット・60枚入	60
底部	キシロカイン 1% 20ml	20	
底部	キシロカイン 1% 20ml	20	
底部	ピクシリン 250mg 100Cap	100	
底部	ブルフェン 100mg 100錠	100	
底部	メモ用紙	1	
底部	JDRマークシール 大	1	
底部	JDRマークシール 中	3	
底部	軍手	1	
底部	ペン 赤、黒 (各1)	2	
底部	マジック 赤、黒 (各1)	2	
底部	ユニバーサル診断セット A-138.10.118	1	
底部	サムスプリント (ロール型万能副子) SAM488 108×488	2	
2-②	底部	ギブスシート	2

	収納	機材名	在庫数	
3		医薬品セットG0201	1	
	G-1-1	アセチルサリチル酸 330mg/T	1000	
	G-1-1	アセチルサリチル酸 81mg/T	1000	
	G-1-1	イブプロフェン 100mg/T	600	
	G-1-1	メベンダゾール 100mg/T	60	
	G-1-1	胃腸薬	1000	
	G-1-1	アスレンスリン酸ナリウA 2mg/T	1000	
	G-1-1	アミノフィリン 100mg/T	100	
	G-1-2	アンピシリン 250mg/Cap	600	
	G-1-2	アンピシリン 100mg/g	500	
	G-1-2	テトラサイクリン 250 mg/Cap	100	
	G-1-2	エリスロマイシン 200mg/T	100	
	G-1-2	クロラムフェニコール錠 250mg/T	500	
	G-1-2	クロラムフェニコール錠 250mg/T	500	
	G-1-2	スルファアジジン錠 400mg+80mg/T	200	
	G-1-2	メトロニダゾール 250mg	300	
	G-1-3	プロメタジン 25mg/T	100	
	G-1-3	臭化デキストロメトラン Sy 2.5mg+15mg/ml	500	
	G-1-3	ナリジスク酸クロラムフェニコール Sy 31.25mg/ml	500	
	G-1-3	ポントールシロップ	500	
	G-1-3	ナリジスク酸 250mg/T	1000	
	G-1-3	ナリジスク酸 Sy 50mg/ml	500	
	G-1-3	センノシドA&B 12mg/T	100	
	G-1-3	複合ビタミン剤	500	
	G-1-3	クオルフェニラミン 6mg/T	2500	
	G-1-3	フロセמיד 40mg/T	100	
	G-1-4	メチルドパ 250mg/T	500	
	G-1-4	硫酸銅 1.2mg/g 13.5ml	5	
	G-1-4	スルファアジジン銀 1%	2000	
	G-1-4	クオールヘキシジン	40	
	G-1-4	マルチスティックス	100	
	G-1-4	採尿コップ 200ml	20	
	G-1-4	カルテ (英語版)		
	G-1-4	薬袋 85×60×0.04mm (コナック B-4・300枚/袋)	300	
	G-1-4	薬袋 120×85×0.04mm (コナック D-4・200枚/袋)	200	
	G-1-4	薬袋 100×140×0.4mm (コナック E-4・200枚/袋)	200	
	G-1-5	小分け用容器：軟膏用	100	
	G-1-5	1L用容器：消毒薬希釈、調整用	4	
	G-1-6	ソフラチュール30×10cm	80	
	G-1-6	薬袋 85×60×0.04mm (コナック B-4・300枚/袋)	1200	
	G-1-6	薬袋 100×140×0.04mm (コナック E-4・200枚/袋)	600	
	4		医薬品セットG0202	1
		G-2-1	リドカイン	5
G-2-1		塩化メチルロザニリン	25	
G-2-1		クロトリマゾール1%10g	50	
G-2-1		硫酸ゲンタマイシン	100	
G-2-1		クロタミトン	300	
G-2-1		エリスロマイシン 10mg/g	35	
G-2-1		オフロキサシン 5ml	50	
G-2-2		小分け用容器：(50ml・3.5g)	25	
G-2-2		臭化チルスコボラミン 20mg/ml/A	10	
G-2-2		ニフェジピン 10mg/Cap	120	
G-2-2		エピネフリン 0.1% 1ml	20	
G-2-3		リドカイン 1% 20ml/V	160	
G-2-3		リドカイン 1% 20ml/V	20	
G-2-3		リドカイン 1% 20ml/V	60	
G-2-3		塩酸ケタミン 500mg/10ml/v	10	
G-2-3		塩酸ケタミン 200mg/20ml/v	10	

	収納	機材名	在庫数
4-②	G-2-4	スルピリン 25%, 1ml/A	100
	G-2-4	スルピリン 10%, 2ml/A	100
	G-2-4	アミノフィリン注射液	30
	G-2-4	塩酸ヒドララジン 20mg/ml/A	20
	G-2-4	フロセミド 20mg/A (10mg/ml, 2ml/A)	10
	G-2-4	リドカイン 1% 100ml/V	200
	G-2-5	アンピシリン 1g/v	10
	G-2-5	アンピシリン 1g/v	10
	G-2-5	アンピシリン 1g/v	20
	G-2-5	ベンジルペニシリンカリウム 注射用100万単位	10
	G-2-5	クロラムフェニコール 1g (力価) /瓶	10
	G-2-5	1L*リ容器 : 消毒薬希釈、調整用	1
	G-2-6	ブドウ糖注射液 50%20ml/A	50
	G-2-6	生理食塩液 20ml/A	50
	G-2-7	ソフラチュール30×10cm	40
	G-2-7	湿布薬	72
	5		医薬品セットG0203
G-3		アセチルサリチル酸 300mg/T	2000
G-3		アセチルサリチル酸 81mg/T	1000
G-3		メベンダゾール 100mg/T	180
G-3		アンピシリン 100mg/g	1500
G-3		アンピシリン 1g/v	30
G-3		アンピシリン 1g/v	20
G-3		アンピシリン 1g/v	10
G-3		テトラサイクリン 250 mg/Cap	400
G-3		エリスロマイシン 200mg/T	900
G-3		クロラムフェニコール錠 250mg/T	800
G-3		クロラムフェニコール Sy 31.25mg/ml	500
G-3		スルファトキサリム+トリメトプリム 400mg+80mg/T	1800
G-3		ナリジスク酸 Sy 50mg/ml	500
G-3		メトロニダゾール 250mg	700
G-3		複合ビタミン剤	1000
G-3		クロタミトン	200
G-3	塩化ベンザルコニウム+EtOH 0.2%+83%	1	
6		医薬品セットG0204	1
	G-4	生理食塩液 1L	10
	G-4	生理食塩液 20ml/A	50
	G-4	生理食塩液 20ml/A	50
	G-4	生理食塩液 20ml/A	50
	G-4	消毒液 ミルトン 1L	1
	G-4	ポピドンヨード液 10%	3
	G-4	オキシドール 3%	1
	G-4	カルテ (英語版)	
	G-4	小分け用容器 : (60ml ・ 3.5g)	41
	G-4	1L*リ容器 : 消毒薬希釈、調整用	1
	7		医薬品セットG0205
G-5		乳酸リンゲル液 1L	20
G-5		生理食塩液 1L	10
8		医薬品セットG020	1
	G-OP-1	スルファドキシム・ピリメタリン製剤	300
	G-OP-1	メベンダゾール 100mg/T	480
	G-OP-1	アミノフィリン 100mg/T	1000
	G-OP-1	アミノフィリン 2.5% 10ml/A	30
	G-OP-1	硫酸第一鉄 50mg/T	1000
	G-OP-1	葉酸 5mg/T	1000
	G-OP-1	フェントリン 0.4%	300
	G-OP-1	クロラムフェニコール錠 250mg/T	100
	G-OP-1	クロラムフェニコール錠 250mg/T	1800
	G-OP-1	クロラムフェニコール 1g/v	100

	収納	機材名	在庫数	
9		医薬品セットG0207	1	
	G-0P-2	クロラムフェニコール Sy 31.25mg/ml	4500	
	G-0P-2	乳酸リンゲル液 1L	10	
	G-0P-2	生理食塩液 1L	10	
10		医療資機材セットR0201	1	
	R-1-1	綿棒 木軸 片綿 10A1512 (10本入/袋)	400	
	R-1-1	リンスキンL (40袋入/箱)	360	
	R-1-2	カットメン 500g 脱脂綿 8cm×16cm	500	
	R-1-2	乳酸リゲル液 ソルラクト 1000ml	2000	
	R-1-2	延長管 250mm	30	
	R-1-3	速乾性擦式手指消毒剤 ウェルバス 1L	1	
	R-1-3	殺菌消毒剤 5%ヒピテン 500ml	4	
	R-1-3	外用消毒剤 イソジン 250ml	4	
	R-1-3	外用消毒剤 オキシドール 500ml	1	
	R-1-3	消毒液 ミルトン 1L	1	
	R-1-4	延長管 250mm	42	
	R-1-4	延長管 250mm	18	
	11		医療資機材セットR0202	1
R-2-1		万能壺 250cc STEEL	3	
R-2-1		万能壺 500cc STEEL	3	
R-2-1		柄付メス (ディスポ) #10	20	
R-2-1		外科セット (滅菌済)	2	
R-2-2		バイクリル 針付縫合糸 (8本/pack×12) /箱	192	
R-2-2		バイクリル 針付縫合糸 (8本/pack×12) /箱	192	
R-2-2		バイクリル 針付縫合糸 (24本入) 5/0	24	
R-2-2		ユニバーサル診断セット	3	
R-2-3		滅菌絹製縫合糸 JISNO.2 (40cm×6本/袋×10) /pack	300	
R-2-3		滅菌絹製縫合糸 JISNO.3 (40cm×6本/袋×10) /pack	300	
R-2-3		滅菌絹製縫合糸 JISNO.4 (40cm×6本/袋×10) /pack	300	
R-2-3		滅菌絹製縫合糸 JISNO.5 (40cm×6本/袋×10) /pack	300	
R-2-3		サージロン 針付縫合糸 U. S. P. 2-0 (5本入/24袋/箱)	360	
R-2-3		サージロン 針付縫合糸 U. S. P. 3-0 (5本入/24袋/箱)	480	
R-2-3		サージロン 針付縫合糸 U. S. P. 4-0 (5本入/24袋/箱)	480	
R-2-4		ネラトンカテーテル (横1穴) 2号 (2.0mm)	2	
R-2-4		ネラトンカテーテル (横1穴) 3号 (2.5mm)	2	
R-2-4		ネラトンカテーテル (横1穴) 4号 (3.0mm)	2	
R-2-4		ネラトンカテーテル (横1穴) 6号 (4.0mm)	2	
R-2-4		ネラトンカテーテル (3孔) 2号 (2.0mm)	2	
R-2-4		ネラトンカテーテル (3孔) 3号 (2.5mm)	2	
R-2-4		ネラトンカテーテル (3孔) 4号 (3.0mm)	2	
R-2-4		ネラトンカテーテル (3孔) 6号 (4.0mm)	2	
R-2-4		Forleyバルーンカテーテル 8Fr	10	
R-2-4		Forleyバルーンカテーテル 14Fr	10	
12			医療資機材セットR0203	1
		R-3-1	翼付針セット 21G	42
	R-3-1	翼付針セット 21G	8	
	R-3-1	翼付針セット 25G	42	
	R-3-1	翼付針セット 25G	8	
	R-3-1	スーパーキャス 22G	100	
	R-3-1	スーパーキャス 20G	100	
	R-3-1	ディスポ注射器 2.5mL	10	
	R-3-1	ディスポ注射器 10mL	10	
	R-3-1	SIMCチューブ鉗子 145	2	
	R-3-1	劇痛麻酔注射液 (局所麻酔剤) 1%キシロカイン 100ml	200	
	R-3-2	ディスポ注射針 18G	92	
	R-3-2	ディスポ注射針 21G	92	
	R-3-2	ディスポ注射針 23G	92	
	R-3-2	カテラン針 23G	92	
	R-3-2	三方活栓 R型 R-1	40	

	収納	機材名	在庫数
12-②	R-3-2	三方活栓 L型 L-1	40
	R-3-2	布パン 25×5m (ニチパン No. 25 10個/箱)	50
	R-3-3	滅菌済検診用手袋 (SDグローブ) M	200
	R-3-3	滅菌済検診用手袋 (SDグローブ) S	200
	R-3-3	滅菌済手術手袋	6
	R-3-3	滅菌済手術手袋	6
	R-3-3	滅菌済手術手袋	6
	R-3-3	輸液セット (小児用) 60滴=1mL	5
	R-3-3	輸液セット (標準型)	5
	R-3-3	延長管 250mm 2.0mL	10
	R-3-3	多用途チューブ NS-520-4FR 外径1.35mm 長さ40cm	10
	R-3-3	フィーディングチューブ 8FR 長さ106cm	5
	R-3-3	スパイナル針 22GX3inch 76mmφ	5
	R-3-4	タオル 上物 白色	10
	13		医療資機材セットR0204
R-4-1		ギブス用下巻包帯 ハイギブスシート 3裂 幅10cm×4.5m	6
R-4-1		キャストリングテープ 3インチ	4
R-4-1		キャストリングテープ 5インチ	4
R-4-1		サムスプリント (ロール型万能副子) SAM488	10
R-4-1		ギブスカッター (万能ハサミ)	1
R-4-1		ギブス用手袋	6
R-4-2		フタ付バット 27×21×4cm 3号	2
R-4-2		ノーボン (ディスポ)	10
R-4-2		角型トレー (ディスポ) 225×145×30	50
R-4-3		オイフ (ディスポ) 6cm円穴	50
R-4-3		オイフ (ディスポ) 6cm円穴	50
R-4-4		アルフェンスシーネ N02.	12
R-4-4		アルフェンスシーネ N04.	6
R-4-4		ビニール袋 (ゴミ袋)	10
R-4-4	ビニール袋 (中間ゴミ袋)	10	
R-4-4	ビニール袋 (A4サイズゴミ袋)	10	
14		医療資機材セットR0205	1
	R-5-1	ディスポーザブル 舌圧子	100
	R-5-1	ディスポーザブル 舌圧子	100
	R-5-1	伸縮包帯 ニュースタイ N3	10
	R-5-1	伸縮包帯 ニュースタイ N4	10
	R-5-1	伸縮包帯 ニュースタイ N5	10
	R-5-1	リスター 14.5CM (マイクロカット包帯剪刀)	6
	R-5-1	手術用マスク M-302S 滅菌済	10
	R-5-1	薬杯 ST 50cc	10
	R-5-1	綿棒 木軸 両綿 1A754D	50
	R-5-1	フェザーカミソリ (ナイフ型)	40
	R-5-1	軍手	1
	R-5-1	トランスポア 1インチ (サージカテーブ・12巻/箱)	12
	R-5-1	トランスポア 1/2インチ (サージカテーブ・24巻/箱)	48
	R-5-1	スキנקロージャー R-1541 6×75mm (50枚/箱)	50
	R-5-1	バンドエイド S (Junior/100枚入)	200
	R-5-1	テープ付ガーゼ (サージパッド・20袋/箱)	20
	R-5-1	テープ付ガーゼ (サージパッド・20袋/箱)	20
	R-5-2	ペンライト (ディスポ式)	6
	R-5-2	自動巻尺 2m	3
	R-5-2	手洗ブラシ NO.66 耐熱白ナイロン	7
	R-5-2	プラスチック蓋 5g (100個/袋)	100
	R-5-2	薬袋 100×140×0.04mm (エポック E-4・200枚/袋)	200
	R-5-2	スキנקロージャー R-1541 6×75mm (50枚/箱)	50
	R-5-3	タイコス血圧計 DR-A 2	3
	R-5-3	小児用 マンシエット E	1
	R-5-3	小児用 マンシエット D	1
	R-5-3	駆血帯 T6 (M5)	1

	収納	機材名	在庫数
14-②	R-5-4	打診器 (新米式)	3
	R-5-4	電子体温計実測式 抗菌防水 (MC-107BW)	6
	R-5-4	ソフラチュール10×10cm	60
	R-5-5	聴診器 リットマンタイプ	9
	事務局	カルテ (英語版)	
15		医療資機材セット R0206	1
	R-6	ディスポーザブル 舌圧子6inch (15cm)	400
	R-6	ニュースタイ N3	10
	R-6	ニュースタイ N4	10
	R-6	ニュースタイ N5	10
	R-6	プラスチック壺 5g (100個/箱)	1900
	R-6	薬袋 100×140×0.04mm (エプック E-4・200枚/袋)	1800
	R-6	ノーボン (ディスポ) K-1	40
	R-6	綿棒 木軸 両綿 1A754D	500
16		医療資機材セット R0207	1
	R-7	翼付針セット 21G	50
	R-7	翼付針セット 25G	50
	R-7	ディスポ注射器 2.5mL	100
	R-7	ディスポ注射器 10mL	100
	R-7	輸液セット (標準型)	10
	R-7	輸液セット (標準型)	85
	R-7	輸液セット (小児用)	8
	R-7	輸液セット (小児用)	87
	R-7	フィーディングチューブ 8FR 長さ106cm	50
	R-7	ディスポ注射器 50mL	20
17		医療資機材セット R0208	1
	R-8	滅菌済手術手袋 サンソフト6.5	50
	R-8	滅菌済手術手袋 サンソフト7	50
	R-8	滅菌済手術手袋 サンソフト7.5	50
	R-8	タオル 上物 白色	10
18		医療資機材セット R0209	1
	R-9	ハイグプシート 3裂 幅10cm×4.5M	26
	R-9	キャストリングテープ 3インチ 7.6cm×3.6m	16
	R-9	キャストリングテープ 5インチ 12.7cm×3.6m	16
	R-9	サムスプリント (ロール型万能副子) SAM488□108×488mm	12
	R-9	N03. アルミ副子 1×75×400mm	12
	R-9	N04. アルミ副子 1×100×400mm	6
19		医療資機材セット R0210	1
	R-10	手術用マスク M-302S 滅菌済	100
	R-10	スパイナル針 22GX3inch 76mm□	50
	R-10	携帯用煮沸消毒器 27cm	1
	R-10	救急用人工蘇生器 (手動式) AIW-3	1
	R-10	マッキントッシュ氏喉頭鏡用ブレード 大 (3)	1
	R-10	マッキントッシュ氏喉頭鏡用ブレード 中 (2)	1
	R-10	マッキントッシュ氏喉頭鏡用ブレード 小 (1)	1
	R-10	マッキントッシュ氏喉頭鏡用ブレード 極小 (0)	1
	R-10	マッキントッシュ氏喉頭鏡用ハンドル	1
	R-10	気管内チューブ カフ無 NO3.5	1
	R-10	気管内チューブ カフ無 NO4	1
	R-10	気管内チューブ カフ無 NO4.5	1
	R-10	気管内チューブ カフ無 NO5	1
	R-10	気管内チューブ カフ無 NO6	1
	R-10	気管内チューブ カフ付 NO7	1
	R-10	気管内チューブ カフ付 NO7.5	1
	R-10	気管内チューブ カフ付 NO8	1
	R-10	気管内チューブ カフ付 NO8.5	1
	R-10	スタイレット 大	1
	R-10	バイドブロック 大	1
	R-10	バイドブロック 中	1

	収納	機材名	在庫数
19-②	R-10	バイドブロック 小	1
	R-10	サージカルキャップ ディスポーザブル CC-802A	200
	R-10	ユリケアー閉鎖式導尿バック 1セット1個入り	5
20		医療資機材セットR0211	1
	R-11	紙オムツ 大人用	50
	R-11	サージカルテープ 50mm×9.0m (オートクレーブ)	6
	R-11	サージカルテープ 12mm×9.0m (オートクレーブ)	24
	R-11	採尿コップ 200ml	265
	R-11	カットメン 500g 脱脂綿	1
	R-11	バンドエイド L (100枚入)	200
	R-11	バンドエイド S (Junior/100枚入)	100
21		医療資機材セットR0212	1
	R-12	ニュースタイ N3	90
	R-12	ニュースタイ N4	90
	R-12	ニュースタイ N5	90
22	-	ソルラクト 10L	10
23	-	ソルラクト 10L	10
24	-	ソルラクト 10L	10
25	-	生理食塩液 10L	10
26	-	生理食塩液 10L	10
27	-	生理食塩液 10L	10
28		脱脂綿	100
		脱脂綿	3500
		脱脂綿	250
		脱脂綿	2000
29		バンドエイド 医家向包装	8000
		バンドエイド 医家向包装	500
		バンドエイド 医家向包装	1000
		バンドエイド 医家向包装	500
		バンドエイド 医家向包装	500
30		救急絆創膏 OQバン	500
		救急絆創膏 OQバン	1000
		救急絆創膏 OQバン	200
		救急絆創膏 OQバン	300
		救急絆創膏 OQバン	600
		救急絆創膏 OQバン	900
		救急絆創膏 OQバン	400
		救急絆創膏 OQバン	60
		ディスポ'メディカル クレソ	10
		ディスポ'メディカル クレソ	10
		ディスポ'メディカル クレソ	10
		ディスポ' ニードルホルダー	10
		ディスポ' 注射針抜取鉗子	10
		ディスポ' ピンセット (オートクレーブ不可)	25
		ディスポ' ピンセット (オートクレーブ不可)	25
		ディスポ' ピンセット (オートクレーブ不可)	25
		ディスポ' ピンセット (オートクレーブ不可)	25
		ディスポ' ピンセット (オートクレーブ不可)	25
		ディスポ' ピンセット (オートクレーブ不可)	25
		ディスポ' カテーテル ピンセット	10
	ディスポ' ピンセット (オートクレーブ可能)	10	
	ディスポ' ハサミ	10	
	ディスポ' メディカルハサミ	10	
31		伸縮性テープ	72
		伸縮性テープ	48
		伸縮性テープ	24
32		ニチバン♂ (絆創膏)	10
		ニチバン♂ (絆創膏)	10
		ニチバン♂ (絆創膏)	10

	収納	機材名	在庫数
32-②		ニチバン♂ (絆創膏)	10
		ニチバン♂ (絆創膏)	10
		紙バン	60
33		アミホータイ	5
		アミホータイ	5
34		包帯 (耳付綿ホータイ)	5
		包帯 (耳付綿ホータイ)	5
		包帯 (耳付綿ホータイ)	5
		包帯 (耳付綿ホータイ)	10
		包帯 (耳付綿ホータイ)	10
		包帯 (耳付綿ホータイ)	5
		pH試験紙	2
		pH試験紙	2
		アテックスクリンバンド グローブ	0
		アテックスクリンバンド グローブ	100
		アテックスクリンバンド グローブ	100
35		エースタイH (伸縮包帯)	50
		エースタイH (伸縮包帯)	50
		エースタイH (伸縮包帯)	50
36		脱脂綿	1250
		日本薬局方ガーゼ タイプI	750
		日本薬局方ガーゼ タイプI	750
		日本薬局方ガーゼ タイプI	750
37		ステラーゼ滅菌パック入	500
		ステラーゼ滅菌パック入	500
38		ステラーゼ滅菌パック入	500
		テトラゼX滅菌パック入	300
		テトラゼ滅菌パック入	100
		テトラゼ滅菌パック入	100
		テトラゼ滅菌パック入	10
39		日本薬局方ガーゼ タイプ□	500
		ワンショット□ (消毒用アルコール)	100
		ワンショット□ (消毒用アルコール)	550
		翼付静注針セット	500
40		圧迫粘着包帯	78
		圧迫粘着包帯	52
		圧迫粘着包帯	26
41		圧迫粘着包帯	24
		圧迫粘着包帯	24
42		診療セット	1
		脱脂綿	0
		包帯	6
		包帯	25
		B ナージテープ	15
		B ナージテープ	1
		ニュースタイ	4
		アパータイ	1
		サージ加テープ	2

	収納	機材名	在庫数
42-②		ロープ	0
		ガゼ	35
		三角巾	4
		サージバット	3
		茶色テープ	3
43		生理食塩液 1L	1
		生理食塩液 500ml	2
		アイリム 針付縫合糸 1/2丸針 17mm	96
		アイリム 針付縫合糸 1/2丸針 17.4mm	96
		サミアプリント	4
		液体キャリア	4
		ニュースタイ	10
		デイスン プラスティック手袋	24
		柄付メス(デイスン)	20
		メス(デイスン 5刃)	100
		キャストイングテープ	10
		キャストイングテープ	3
		キャストイングテープ	10
		ディスポーザブル 舌圧子	87
		P包帯	5
		アイリム包帯	1
		アイリム包帯	1
		シリンジ	7
		シリンジ	2
		シリンジ	7
		ケアセットA/B各1	0
		柄付メス(デイスン)	9
		デイスン ハサミ等	0
	ギプス用綿包帯	5	
44		日用品セットY0301	1
		強カライト(蛍光灯付)	2
		補給用キャンドル(3本入)	42
		3徳スコップ	1
		蚊取線香	200
		ファイル	2
		ファイルカラー仕切りカード	48
		穴あけパンチ	1
		単1 アルカリ乾電池	10
		単2 アルカリ乾電池	10
		単3 アルカリ乾電池	10
		トランジスターラジオ	1
		双眼鏡	1
		目覚まし時計	2
45		日用品セットY0302	1
		コッヘル	1
		やかん	1
		まな板セット(包丁付)	1
		カップ	12
		食器セット	4
		プラスチックボール	20
		プラスチックカレー皿	20
		割り箸	100
		布たわし	3
		ふきん	5
		ポリタンク	2
		ポリタンク	2
		ポリタンク	4
		缶切り	1
		食器洗い中性洗剤	600

	収納	機材名	在庫数
45-②		クレンザー	400
		タオル	5
46		日用品セットY0303	1
		ティッシュペーパー	2800
		トイレットペーパー	24
		石鹸	24
		粉石鹸	1350
		ドライバーセット	1
		貫通ドライバー (プラス)	1
		貫通ドライバー (マイナス)	1
		折りたたみのこぎり	1
		なた	1
		ニッパー	1
		電工ペンチ	1
		釘抜き付ハンマー	1
		剪定ハサミ	1
		裁縫セット	1
		ほうき	1
		鉛筆 (HB)	12
		シャーペン (0.5mm)	5
		シャーペン芯	80
		消しゴム	5
		コンパス	1
		定規 (30cm)	2
		メジャー (10m)	1
		ホッチキス普通サイズ	4
		ホッチキス普通サイズ用針	10000
		修正液 テープタイプ	2
		修正液 リキッドタイプ	4
		ミニ鉛筆削り	1
		ポストイット (大)	1000
		ポストイット (中)	2000
		ポストイット (小)	4000
		クリアホルダー (透明)	40
		蛍光ペン (黄色)	10
	蛍光ペン (緑色)	10	
	はさみ	4	
	カッター	10	
	クッキングストープとナベ	1	
47		日用品セットY0304	1
		乾湿温度計	1
		ボールペン 黒	15
		ボールペン 赤	15
		油性マジック 黒色	4
		油性マジック	3
		マジック	1
		ノート	5
		用せんバサミ	12
		セロテープ	2
		のり	5
		一般用瞬間接着剤	2
		タッグタイトル 白	10
		ビニールテープ	6
		封筒	10
		封筒	26
		封筒	90
		クリップ	100
		クリップ	500
		電卓	2

	収納	機材名	在庫数	
47-②		ガムテープ	5	
		風糸	100	
		輪ゴム	100	
		フィルム	20	
		ポリ袋	100	
		ポリ袋	100	
		ポリ袋	120	
		軍手	30	
		防水スプレー	2	
		メモ用紙	5	
		爪切り	2	
		ザイル (ロープ)	1	
		厚紙	100	
		ペーパーボックス	5	
		燃料給油ポンプ	1	
		漏斗	1	
		国旗	2	
		クッキングストーブとナベ	1	
	48		コードリール	3
	49		燃料携行缶 (ガソリン缶)	1
50		毛布	10	
51		毛布	10	
52		エアーテント・小型	1	
53		エアーテント・小型 付属品	1	
54		エアーテント・小型	1	
55		エアーテント・小型 付属品	1	
56		タープ (日除け用テント)	1	
57		タープ (日除け用テント)	1	
58		タープ (日除け用テント)	1	
59		簡易組立トイレ	1	
60		簡易組立トイレ	1	
61		折り畳みベッド	2	
62		折り畳みベッド	2	
63		折り畳みベッド	2	
64		折り畳みベッド	2	
65		折り畳み机 (ポータブルテーブル)	3	
66		折り畳み机 (ポータブルテーブル)	3	
67		折り畳み椅子	6	
68		折り畳み椅子	6	
69		シュラフ	20	
70		防水シート	5	
71		防水シート	5	
72		浄水器	1	
73		発電機	1	
74		発電機	1	
75		発電機	1	
76		フルーツ缶詰 (オレンジ)	80	
77		ポカリスエット	160	
		フルーツ缶詰 (桃)	7	
		フルーツ缶詰 (みかん)	10	
78		レトルトシチュー	25	
		レトルト中華丼	25	
		インスタントスープ	40	
		インスタントスープ	24	
		割り箸	100	
		先割れスプーン	100	
		紙コップ	100	
		紙皿 (深皿タイプ)	100	
		ゴミ袋 (大)	50	

	取納	機材名	在庫数
78-②		ゴミ袋 (中)	50
		ゴミ袋 (小)	50
		ガムテープ (白)	5
		マジック (黒)	5
79		ミネラルウォーター	12
80		ミネラルウォーター	12
81		ミネラルウォーター	12
82		ミネラルウォーター	12
83		ミネラルウォーター	12
84		ミネラルウォーター	12
85		ミネラルウォーター	12
86		ミネラルウォーター	12
87		ミネラルウォーター	12
88		ミネラルウォーター	12
89		ミネラルウォーター	12
90		総合ピタ錠	20
91		ウナ虫除けスプレー	35
92		ロッジ型テント	1
93		ロッジ型テント	1
94		ロッジ型テント	1
95		トランス (1.5KVA in220V out100V)	1
96		アルファー米等	50
97		アルファー米等	50
98		アルファー米等	50
99		アルファー米等	50
100		アルファー米等	50
101		T shorts (L:40, LL:20)	60

別添 8：救助チーム及び医療チーム資機材写真

(救助チーム)



(医療チーム)



別添9：メディア別取扱い件数一覧

メディア別件数

(単位：件数)

メディア	言語	ソース	救助 チーム	医療 チーム	専門家 チーム	合計
新聞	日本語	日本国内新聞社	19	12	0	31
	英語	各新聞社	0	0	0	0
	フランス語	現地新聞社	13	36	9	58
インターネット	英語	外信(AFP・ロイター・CNN等)	3	0	0	3
	英語	国際機関(UNOCHA・CDC)	3	2	0	5
	日本語	各新聞社・通信社	6	1	0	7
プレスリリース	フランス語	アルジェリア政府広報サービス(APS)	1	1	1	3
インターネット	英語	日本政府(外務省・JICA)	0	2	0	2
	日・英	日本政府(外務省・JICA)	3	0	1	4
	日本語	日本政府(外務省・大使館・JICA)	2	5	1	8
プレスリリース	フランス語	日本政府(大使館)	2	3	1	6
総合計			52	62	13	127

(2) メディアソース別取扱一覧

	ソース名	分類	言語	月日	写真/ 図の有無	日本 記事 特集	ハ タ 記 事	件数			合計	備考
								救助	医療	専門家		
1	外務省	インターネット	日・英	5/22 5/23		1		1			1	
2	日本大使館	プレスリリース	仏語	5/22		1		1			1	
1 3	UNOCHA	インターネット	英語	5/22				1			1	
2 4	UNOCHA	インターネット	英語	5/22				1			1	
5	毎日新聞	インターネット	日本語	5/22			1	1			1	
6	日本大使館	プレスリリース	仏語	5/23		1		1			1	
7	JICA	インターネット	日・英	5/23		1		1			1	
8 9	アルジェリア政府公報サービス(APS)	プレスリリース	仏語	5/23			1	1			1	
10 9	朝日新聞	一般日刊紙	日本語	5/23	1			1			1	
10 10	朝日新聞	一般日刊紙	日本語	5/23			1	1			1	
8 11	産経新聞	一般日刊紙	日本語	5/23			1	1			1	
9 12	東京新聞	一般日刊紙	日本語	5/23				1			1	
13	日経新聞	一般日刊紙	日本語	5/23			1	1			1	
6 14	毎日新聞	一般日刊紙	日本語	5/23			1	1			1	
15	時事通信	インターネット	日本語	5/23	1		1	1			1	
16	UNOCHA	インターネット	英語	5/23				1			1	
17	JICA	インターネット	日・英	5/24	1	1		1			1	
20 18	CNN	インターネット	英語	5/24	1			1			1	
37 19	Le Jeune Indépendant	独立系日刊紙	仏語	5/24				1			1	
5 20	Le Soir D'Algérie	独立系日刊紙	仏語	5/24				1			1	
36 21	Liberte	独立系日刊紙	仏語	5/24	1			1			1	
15 22	朝日新聞	インターネット	日本語	5/24	1			1			1	
17 23	共同通信	インターネット	日本語	5/24	1			1			1	
16 24	時事通信	インターネット	日本語	5/24	1		1	1			1	
14 25	日経新聞	一般日刊紙	日本語	5/24	1			1			1	
18 26	毎日新聞	インターネット	日本語	5/24			1	1			1	
13 27	読売新聞	一般日刊紙	日本語	5/24	1		1	1			1	
19 28	ロイター	インターネット	英語	5/24	1		1	1			1	
38 29	El Moudjahid	政府系日刊紙	仏語	5/25				1			1	
39 30	El Moudjahid	政府系日刊紙	仏語	5/25				1			1	
40 31	El Moudjahid	政府系日刊紙	仏語	5/25		1		1			1	
22 32	産経新聞	一般日刊紙	日本語	5/25	1		1	1			1	
21 33	日経新聞	一般日刊紙	日本語	5/25				1			1	
34	毎日新聞	一般日刊紙	日本語	5/25			1	1			1	
24 35	読売新聞	一般日刊紙	日本語	5/25	1		1	1			1	
25 36	読売新聞	一般日刊紙	日本語	5/25	1	1		1			1	中部版
26 37	読売新聞	一般日刊紙	日本語	5/25	1	1		1			1	中部版
38	読売新聞	一般日刊紙	日本語	5/25			1	1			1	
27 39	ロイター	インターネット	日本語	5/25	1			1			1	
44 40	El Moudjahid	政府系日刊紙	仏語	5/26				1			1	
43 41	Horizons	政府系夕刊紙	仏語	5/26				1			1	
42 42	La Tribune	独立系日刊紙	仏語	5/26	1			1			1	
45 43	毎日新聞	一般日刊紙	日本語	5/26	1	1		1			1	
44	JICA	インターネット	日本語	5/27	1	1		1			1	
45	日経新聞	一般日刊紙	日本語	5/27			1	1			1	
49 46	El Moudjahid	政府系日刊紙	仏語	5/28				1			1	
50 47	El Moudjahid	政府系日刊紙	仏語	5/29	1			1			1	
46 48	Le Matin	独立系日刊紙	仏語	5/29	1			1			1	
47 49	毎日新聞	一般日刊紙	日本語	5/30			1	1			1	
48 50	読売新聞	一般日刊紙	日本語	6/2	1	1		1			1	中部版
51	外務省	インターネット	日本語	6/2	1	1		1			1	
51 52	L'expression	独立系日刊紙	仏語	6/3				1			1	
52 53	Le Jeune Indépendant	独立系日刊紙	仏語	5/24	1				1		1	

	ソース名	分類	言語	月日	写真/ 図の有無	日本 記事 待集	ペタ 記事	件数			合計	備考
								救助	医療	専門家		
54	日本大使館	プレスリリース	仏語	5/25			1		1		1	
54	55 L'expression	独立系日刊紙	仏語	5/25		1			1		1	
53	56 時事通信	インターネット	日本語	5/25			1		1		1	
57	外務省	インターネット	英語	5/26		1			1		1	
58	日本大使館	プレスリリース	仏語	5/26			1		1		1	
56	59 読売新聞	一般日刊紙	日本語	5/26			1		1		1	中部版
60	JICA	インターネット	日本語	5/27		1			1		1	
66	61 El Moudjahid	政府系日刊紙	仏語	5/27	1				1		1	
62	62 La Nouvelle République	独立系日刊紙	仏語	5/27					1		1	
59	63 La Tribune	独立系日刊紙	仏語	5/27			1		1		1	
64	64 La Tribune	独立系日刊紙	仏語	5/27	1				1		1	
63	65 Le Jeune Indépendant	独立系日刊紙	仏語	5/27	1				1		1	
66	Le Jeune Indépendant	独立系日刊紙	仏語	5/27	1	1			1		1	
67	67 Le Soir D'Algérie	独立系日刊紙	仏語	5/27	1	1			1		1	
69	68 L'expression	独立系日刊紙	仏語	5/27	1	1			1		1	
65	69 Liberté	独立系日刊紙	仏語	5/27	1				1		1	
77	70 UNOCHA	インターネット	英語	5/27			1		1		1	
60	71 読売新聞	一般日刊紙	日本語	5/27		1			1		1	中部版
72	読売新聞	一般日刊紙	日本語	5/27			1		1		1	
61	73 読売新聞	一般日刊紙	日本語	5/27			1		1		1	
71	74 El Moudjahid	政府系日刊紙	仏語	5/28	1				1		1	
72	75 Horizons	政府系夕刊紙	仏語	5/28	1				1		1	
58	76 読売新聞	一般日刊紙	日本語	5/28	1	1			1		1	中部版
70	77 読売新聞	一般日刊紙	日本語	5/28	1	1			1		1	中部版
78	JICA	インターネット	日本語	5/29	1		1		1		1	
79	JICA	インターネット	英語	5/29			1		1		1	
75	80 El Moudjahid	政府系日刊紙	仏語	5/29		1			1		1	
74	81 Le Soir D'Algérie	独立系日刊紙	仏語	5/29					1		1	
76	82 UNOCHA	インターネット	英語	5/28					1		1	
73	83 読売新聞	一般日刊紙	日本語	5/29	1	1			1		1	中部版
78	84 La Tribune	独立系日刊紙	仏語	5/31	1				1		1	
83	85 La Tribune	独立系日刊紙	仏語	6/1	1				1		1	
82	86 L'authentique	独立系日刊紙	仏語	6/1					1		1	
80	87 Liberté	独立系日刊紙	仏語	6/1					1		1	
81	88 Liberté	独立系日刊紙	仏語	6/1	1				1		1	
79	89 読売新聞	一般日刊紙	日本語	6/1	1	1			1		1	中部版
90	JICA	インターネット	日本語	6/2	1		1		1		1	
86	91 Horizons	政府系夕刊紙	仏語	6/2	1				1		1	
85	92 Le Matin	独立系日刊紙	仏語	6/2	1				1		1	
84	93 読売新聞	一般日刊紙	日本語	6/2	1	1			1		1	
89	94 La Tribune	独立系日刊紙	仏語	6/3					1		1	
87	95 読売新聞	一般日刊紙	日本語	6/3	1	1			1		1	中部版
96	日本大使館	プレスリリース	仏語	6/4		1			1		1	
97	JICA	インターネット	日本語	6/4	1		1		1		1	
90	98 El Moudjahid	政府系日刊紙	仏語	6/4	1	1			1		1	
92	99 El Moudjahid	政府系日刊紙	仏語	6/4	1				1		1	
91	100 La Tribune	独立系日刊紙	仏語	6/4	1				1		1	
88	101 読売新聞	一般日刊紙	日本語	6/4	1	1			1		1	
102	JICA	インターネット	日本語	6/5	1		1		1		1	
100	103 El Moudjahid	政府系日刊紙	仏語	6/5	1	1			1		1	
93	104 La Tribune	独立系日刊紙	仏語	6/5	1				1		1	
102	105 L'authentique	独立系日刊紙	仏語	6/5	1		1		1		1	
94	106 読売新聞	一般日刊紙	日本語	6/6	1	1			1		1	中部版
97	107 El Moudjahid	政府系日刊紙	仏語	6/7		1			1		1	
95	108 El Watan	独立系日刊紙	仏語	6/7		1			1		1	
96	109 El Watan	独立系日刊紙	仏語	6/7		1			1		1	
98	110 La Tribune	独立系日刊紙	仏語	6/7		1			1		1	

ソース名	分類	言語	月日	写真/ 図の有無	日本 記事 特集	ベタ 記事	件数			合計	備考	
							救助	医療	専門家			
99 111 Le Jeune Indépendant	独立系日刊紙	仏語	6/7		1			1		1		
101 112 La Tribune	独立系日刊紙	仏語	6/8	1	1			1		1		
104 113 アルジェリア政府公報サービス(APS)	プレスリリース	仏語	6/20		1			1		1		
103 114 Le Matin	独立系日刊紙	仏語	不明	1				1		1		
115 外務省	インターネット	日・英	6/6		1				1	1		
116 JICA	インターネット	日本語	6/11		1				1	1		
117 日本大使館	プレスリリース	仏語	6/12		1				1	1		
105 118 アルジェリア政府公報サービス(APS)	プレスリリース	仏語	6/14		1				1	1		
106 119 La Nouvelle République	独立系日刊紙	仏語	6/14	1	1				1	1		
107 120 L'authentique	独立系日刊紙	仏語	6/14		1				1	1		
114 121 El Moudjahid	政府系日刊紙	仏語	6/15	1	1				1	1		
122 La Tribune	独立系日刊紙	仏語	6/15	1	1				1	1		
109 123 El Watan	独立系日刊紙	仏語	6/15		1				1	1		
111 124 Horizons	政府系夕刊紙	仏語	6/16		1				1	1		
110 125 Liberté	独立系日刊紙	仏語	6/16	1	1				1	1		
113 126 El Watan	独立系日刊紙	仏語	6/17		1				1	1		
112 127 La Tribune	独立系日刊紙	仏語	6/18	1	1				1	1		
128 東京新聞	一般日刊紙	日本語	—			1			1	1		
129 —	インターネット	—	—			1			1	1		
合計					63	51	33	52	62	15	129	

別添10：医療チーム業務ローテーション表

医療チーム業務ローテーション表

	医師班	看護師班	薬剤班	医療調整班	業務調整班
5月30日		金澤 豊			
5月31日		山本 真弓		東出 直明	前林 清和
6月1日	朝日 茂樹	石田 昭子	渡邊 暁洋		坂田 英樹
6月2日	富岡 譲二	高岡 誠子			小林
6月3日	永井 周子	寺村 佐穂			大野 龍男
6月4日	山畑 佳篤	中村 朱実		三木 敦	中沢 真三
6月5日		一木あずさ			大友・臼井

休養の人は午前はゆっくり休んでください。午後はカルテ整理等があります。

別添11 : OCHA Situation Report No. 8

ALGERIA - Earthquake - May 2003

OCHA Geneva contributions report

(as reported by donors)

as of 26-March-2004

Donor Description Value in US\$ Channel

6 humanitarian workers, 500 kg of equipment
including detection equipment*

0 Action

d'Urgence

International

Action d'Urgence

International

For relief works 150,000 Bilateral AGFUND

36-member Disaster Relief Unit including a
SAR component and medical element; 6 dogs*

0 Bilateral Austria

Other Austrian SAR Teams of 109 persons and
54 dogs*

0 Bilateral Austria

SAR Team of 73 persons, 7 dogs, 2,000
blankets, 100 family tents, 5 WHO emergency
kits, medical supplies, 1 water purification
station and electric generator*

0 Bilateral Belgium

Flight with supplies containing blankets, tents
and medical supplies*

0 Bilateral Belgium

500 family tents - EUR 53,000 58,177 Bilateral Belgium

CAD 200,000 137,931 IFRC Canada

SAR Team 30 members, 3 dogs* 0 Bilateral China

30 doctors and 10 tons of medicines and
medical supplies*

0 Bilateral Cuba

9 rescuers with equipment, 3 dog handlers and
1 physician*

0 Bilateral Czech Republic

1,000 blankets, 3-high volume tents, medical
material and medicines - CZK 741,000

25,000 Bilateral Czech Republic

DKK 300,000 for relief operations 44,313 Bilateral Denmark

20 1 sq.m. watertanks, 100 25-litre jerrycans,
1,000 blankets*

0 Bilateral Denmark

EUR 36,681 for relief aid 40,264 DEMA Denmark

8 personnel, 20 MTs of materials including 5
trucks of water and purification equipment*

0 Eaux de

Marseille

Eaux de Marseille

4 flights containing relief items; conducting a
rapid emergency assessment of needs*

0 Bilateral European Commission

1

* Value of contribution not specified

** Estimated value

Donor Description Value in US\$ Channel

EUR 1,000,000 for medical, sanitary and
temporary housing

1,097,694 UN Agencies
and NGOs

European Commission

127 civil protection personnel, 10 dogs, 1 field
hospital, 25 medical personnel, 2 telecom
experts*

0 Bilateral France

208 tents, 2,400 blankets, 2,000 body bags, 2

trailers, 1,500 food rations, field hospital accessories, 3.8 tons of medicines/medical equipment*
0 Bilateral France
Relief aid for various projects 194,286 NGOs France
Dispatch of civil protection personnel and materials
1,790,889 Bilateral France
Operation of field hospital - EUR 31,500 34,577 Bilateral France
Medical evacuation of injured young girl* 0 Bilateral France
10,000 blankets, 1,500 tents and 2 vehicles* 0 French RC French Red Cross
Charter with 14 sniffer dogs and 31 SAR experts - EUR 122,000
133,918 RC/Germany Germany
Cost sharing in charter re transport of heavy rescue equipment - EUR 34,000
37,321 Bilateral Germany
Charter with 15 tons of relief items (medical supplies, tents, sleeping bags, etc) including 100 SG 20 tents (10 persons) - EUR 267,000
293,084 RC/Germany Germany
SAR Team of 13 persons, 1 dog, ambulance, telecommunication and SAR equipment*
0 Bilateral Greece
100 tents and water* 0 Bilateral Greece
Medical and sanitation equipment* 0 HI Handicap International
SAR Team - 17 persons* 0 Bilateral Iceland
Establishment of water treatment centres and installation of bladder tanks*
0 IFRC International Federation of Red Cross and Red Crescent Societies
In response to IFRC Appeal - CHF 5,476,422 3,883,987 IFRC International Federation of Red Cross and Red

Crescent Societies

2,000 blankets, 200 tents, 400 kitchen sets,
10,000 canned goods; 2 staff for assessment
mission - CHF 70,000

53,846 ARCS Iran Red Cross

2

* Value of contribution not specified

** Estimated value

Donor Description Value in US\$ Channel

6 civil protection specialists; SAR Team - 11
personnel and 6 dogs)*

0 Bilateral Italy

Dispatch from UNHRD in Brindisi consisting of
health kits, pre-fab buildings, water purification
unit, tents, plastic rolls, latrines, blankets, body
bags, water tanks and kitchen sets

156,402 OCHA Italy

Japan Disaster Relief Expert Team of 7

members to examine conditions of buildings*

0 Bilateral Japan

61-person Disaster Relief Team; 22-person

Medical Team*

0 Bilateral Japan

21-member USAR Team with 2 dogs* 0 Bilateral Korea (Republic of)

SAR Teams - 31 persons, 18 dogs* 0 Bilateral Luxembourg

Assessment team from Greece 0 MDM M_decins du Monde

3 experts from MSF Belgium* 0 MSF Medecins sans

Frontieres

Field hospital and 23 staff* 0 Medilor Medilor

EUR 50,000 57,142 OCHA Monaco

45-member SAR Team* 0 Bilateral Morocco

In response to IFRC Appeal - NOK 1,050,600 148,180 IFRC Norway

Cash from pre-positioned funds for local

purchase of relief items

50,000 OCHA Norway

Dispatch of 70 warm climate tents, 2 water purification units, 20 5,000 water tanks, 20 10,000-litre water tanks, 61 1,000-litre pall tanks, 16 pall tanks for storage, 2,000 emergency drinking water kits and 7,000 10-litre jerry cans from UNHRD - NOK 2,25

313,197 OCHA Norway

To cover transport and other costs of shipment from Brindisi UNHRD

88,403 OCHA Norway

Emergency cash grant for local purchase of relief items

50,000 OCHA OCHA

Dispatch of a 10-person UNDAC Team* 0 OCHA OCHA

SAR Teams of 27 people and 6 dogs* 0 Bilateral Poland

USAR Team - 31 members with 6 dogs; 7 mt of materials*

0 Bilateral Portugal

3

* Value of contribution not specified

** Estimated value

Donor Description Value in US\$ Channel

SAR Team of 66 people with equipment and 6 dogs*

0 Bilateral Russian Federation

10,000 cartons foodstuff, 1,070 cartons medicines, 2,000 cartons milk, 2,200 tents, 9,400 blankets, 2,200 rugs

874,854 Bilateral Saudi Arabia (Kingdom of)

EUR 15,000 16,465 Secour

Populaire

Francais

Secour Populaire

Francais

Tents and blankets 28,540 ARCS Slovenia

3-person SAR Team* 0 Bilateral Slovenia

80-man heavy rescue team including medical personnel, engineers, 4 dogs, equipment and medical supplies*r

0 Bilateral South Africa

56 SAR personnel, 11 dogs, 4,000 kg of equipment, 80 kg medical supplies

0 Bilateral Spain

SAR Team - 70 persons and 12 dogs* 0 Bilateral Sweden

36 10-person tents, 1,652 blankets, 115 5-litre jerrycans, 54 mattresses*

0 Bilateral Sweden

Rescue chain 353,846 SHA Switzerland

85-person SAR Team, 9 dogs and 13 tons of equipment*

0 Bilateral Switzerland

Generators, tents, hygienic products and psychological support to survivors*

0 Terre Des

Hommes

Terre Des Hommes

21-member SAR Team; 1 dog* 0 Bilateral Turkey

Humanitarian aid* 0 Bilateral Turkey

100 tents, medicine and medical supplies 53,196 Turkey RC Turkey Red Cross

SAR Team of 94 people and 7 dogs* 0 Bilateral United Kingdom

Assessment and emergency health teams* 0 UNICEF United Nations

Children's Fund

15 mt of relief materials (emergency health, midwifery, obstetric and resuscitation kits, sterilization equipment, tents, blankets and recreation supplies)

120,000 UNICEF United Nations

Children's Fund

Risk reduction and disaster preparedness

programming

100,000 UNDP United Nations

Development

Programme

4

* Value of contribution not specified

** Estimated value

Donor Description Value in US\$ Channel

Crisis prevention and recovery 50,000 ARCS United Nations

Development

Programme

Damage assessment - rehabilitation work* 0 UNIDO United Nations Industrial

Development

Organization

Medical supplies 100,000 UNFPA United Nations

Population Fund

Cash for local procurement of non-food items 50,000 ARCS United States of

America

Distribution of food baskets* 0 WFP World Food Programme

2,100 blankets, 5,000 10-litre jerry cans, 300

plastic tarpaulins, 1 truck and 540 cooking

sets*

0 WVI

International

World Vision

International

10,585,512 Grand Total:

5

* Value of contribution not specified

** Estimated value



独立行政法人 国際協力機構

検索

[世界の現状を知る](#) | [国際協力に参加する](#) | [JICA早わかり](#) | [みんなで学ぼう](#)

[ホーム](#) > [事業案内](#) > [国際緊急援助隊](#) > [2003年の活動一覧](#)



国際緊急援助隊 活動報告

2003年

9月 [韓国 台風災害](#)

8月 [スーダン国 洪水災害](#)
[パキスタン国 洪水災害](#)

6月 [アルジェリア国 国際緊急援助隊専門家チーム\(耐震診断等\)派遣](#)
[アルジェリア国 国際緊急援助隊医療チーム派遣\(その5\)](#)
[アルジェリア国 国際緊急援助隊医療チーム派遣\(その4\)](#)

5月 [アルジェリア国 国際緊急援助隊医療チーム派遣\(その3\)](#)
[アルジェリア国 国際緊急援助隊医療チーム派遣\(その2\)](#)
[スリランカ国 洪水災害](#)
[アルジェリア国 国際緊急援助隊医療チーム派遣](#)
[アルジェリア国 地震災害\(その3\)](#)
[アルジェリア国 地震災害\(その2\)](#)

アルジェリア国 地震災害
マダガスカル国 サイクロン災害
中国 重症急性呼吸器症候群(SARS)(その2)
アルゼンチン国 洪水災害(その2)
ケニア国 洪水災害
中国 重症急性呼吸器症候群(SARS)
アルゼンチン国 洪水災害

3月 ナイジェリア国 髄膜炎流行
ベトナム国 重症急性呼吸器症候群の集団発生(その3)
ベトナム国 重症急性呼吸器症候群の集団発生(その2)
ベトナム国 重症急性呼吸器症候群の集団発生
中国 地震災害(その2)
マラウイ国 洪水災害(その2)

2月 中国 地震災害
ペルー国 洪水災害(その2)
マダガスカル国 洪水災害

1月 メキシコ国 地震災害(その2)
ペルー国 洪水災害
マラウイ国 洪水災害
メキシコ国 地震災害
グアム島(米国) 台風災害(その2)
ソロモン諸島 サイクロン災害

[>2003年](#) [>2002年](#) [>2001年](#) [>2000年](#) [>1999年](#) [>1998年](#)

[↑ JICAサイトトップへ](#)

[ページの先頭へ ↑](#)

【サイトポリシー】【プライバシーポリシー】 【情報公開】

All Rights Reserved, Copyright(c)1995-2004 Japan International Cooperation Agency.

別添13：事後評価調査概要

アルジェリア地震災害に対する国際緊急援助隊 救助チーム及び医療チーム事後評価調査(概要)

1 背景・経緯

国際緊急援助隊事務局では2002年度において国際緊急援助隊救助チーム及び医療チーム評価ガイドライン「STOP the pain」を策定し、Speed(迅速性)、Target group(ニーズとの合致)、Operation(活動の効率性)、Presence(プレゼンス/認知度)の4点を評価項目として設定するとともに、活動計画概要表(PDM)や評価調査表に基づく評価手法を整備した。

右ガイドラインでは、評価のタイミングを、Pre-departure Review(派遣にかかわる迅速性の評価)、Mission Review 1(チームによる活動評価)、Mission Review 2(事務局による内部評価)及び外部評価(外部有識者による評価)の4段階に分け、各評価の時期及び内容を定めたが、今次評価調査ではこのうちMission review 2及び外部評価を実施する。

なお、本調査は、外務省の実施する「国際緊急援助隊スキーム評価」のケーススタディー(アルジェリア地震)と時期が重なったことから、両評価調査の効率的な遂行の観点から、合同調査の形態をとった。

2 目的

- (1)事務局による内部評価に必要な情報及びデータを収集・分析する。
- (2)外部評価に必要な情報を収集・分析する。
- (3)上記(1)及び(2)に基づき評価報告書を作成する。

3 調査団員構成

- (1)芹田健太郎/評価分析 神戸大学大学院国際協力研究科教授
- (2)坂田 英樹/評価監理 JICA国際緊急援助隊事務局災害援助課課長代理

4 調査期間(別添1：調査日程参照)

2004年1月9日(金)～16日(金)まで
(芹田教授は1月10日(土)～16日(金)まで)

5 調査の方法

- (1)評価調査表に基づき質問表をアルジェリア側関係機関に事前送付し必要情報を収集する。
- (2)同関係者に直接ヒアリングし必要情報を収集する。
- (3)両チームの活動サイトにて関係者にインタビューし必要情報を収集する。